









附 録 Ⅲ  
 當金及當板ノ形狀寸法ノ標準  
 材料ハ成ルヘク副生品利用ノコト

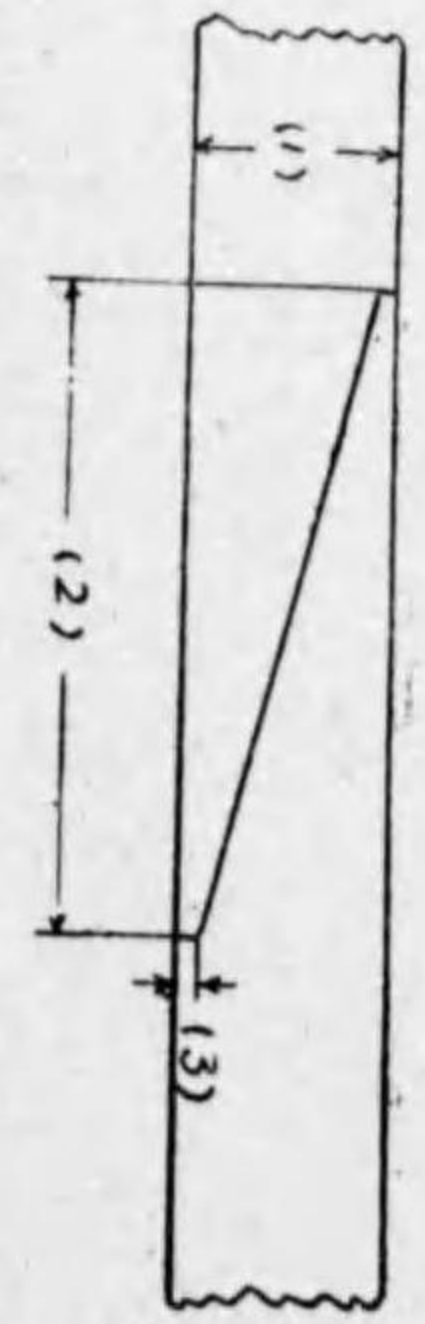
番號	使用箇所	形 狀 寸 法	使用ボルト 又ハ木ネジ	記 事
1	有蓋車 妻柱下部 (附録IV略 圖第10圖)		平頭ボルト 5/8"×2本 六角ボルト 3/4"×2本	山形鋼又ハ溝形鋼ヲ使用ノコト
2	有蓋車 側柱上部 (附録IV略 圖第6・7圖)		平頭ボルト 5/8"×3本	山形鋼又ハ平鋼ヲ使用ノコト
3	有蓋車 側柱下部 (附録IV略 圖第11圖)		六角ボルト 5/8"×2本 六角ボルト 3/4"×2本	圖ハ①④位使用ノモノヲ示ス山形鋼又ハ溝形鋼ヲ使用ノコト
4	有蓋車 (7.4 15 吨車) 側柱上部 (附録IV略 圖第8圖)		平頭ボルト 5/8"×2本 六角ボルト 5/8"×2本	
5	有蓋車 入口柱上部 (附録IV略 圖第9圖)		(A)皿ボルト 1/2"×5本 (B)皿ボルト 1/2"×4本 六角ボルト 1/2"×1本 コーチスクル 1/2"×1本	

手當  
 輕微ナル腐朽又ハ  
 緩セル場合  
 附録Ⅲ一三B所定ノ當金ヲス  
 (附録IV略圖第一八圖參照)

擔バネ装置ノ部

- 三、擔バネ靴ニ瑕疵アルモノハ取替ヘヲ爲シ厚サノ磨耗量カ工場修繕限度ヲ超ユルモノ又ハ磨耗限度以下ニテモ著シク段ヲ生シタルモノハ取替フヘシ但シ此ノ際各位ノバネ靴ノ厚サヲ大差ナキ様注意スヘシ
- 四、貨車組立状態ニ於テ左右又ハ前後及筋違ノ擔バネ反リノ差カ工場修繕限度ヲ超エタルモノハ擔バネノ取替ヲ爲スヘシ此ノ場合反リノ差ヲ限度以内ニ調整スル爲バネ靴ト擔バネトノ間ニライナーヲ插入スヘカラス尙反リノ寸法ハ目玉付擔バネニ對シテハ親板上面ヨリ目玉周縁上面迄ヲ測定スヘシ
- 五、目玉付擔バネノピンハ抜き取りドリルスヲ塗布スヘシ
- 六、バネ標示及刻印ハ同一側面ニ施シ車體外側面ニ在ル様組立ヲ爲スヘシ

附 録 Ⅰ  
 柱及土臺ノ接手ノ標準

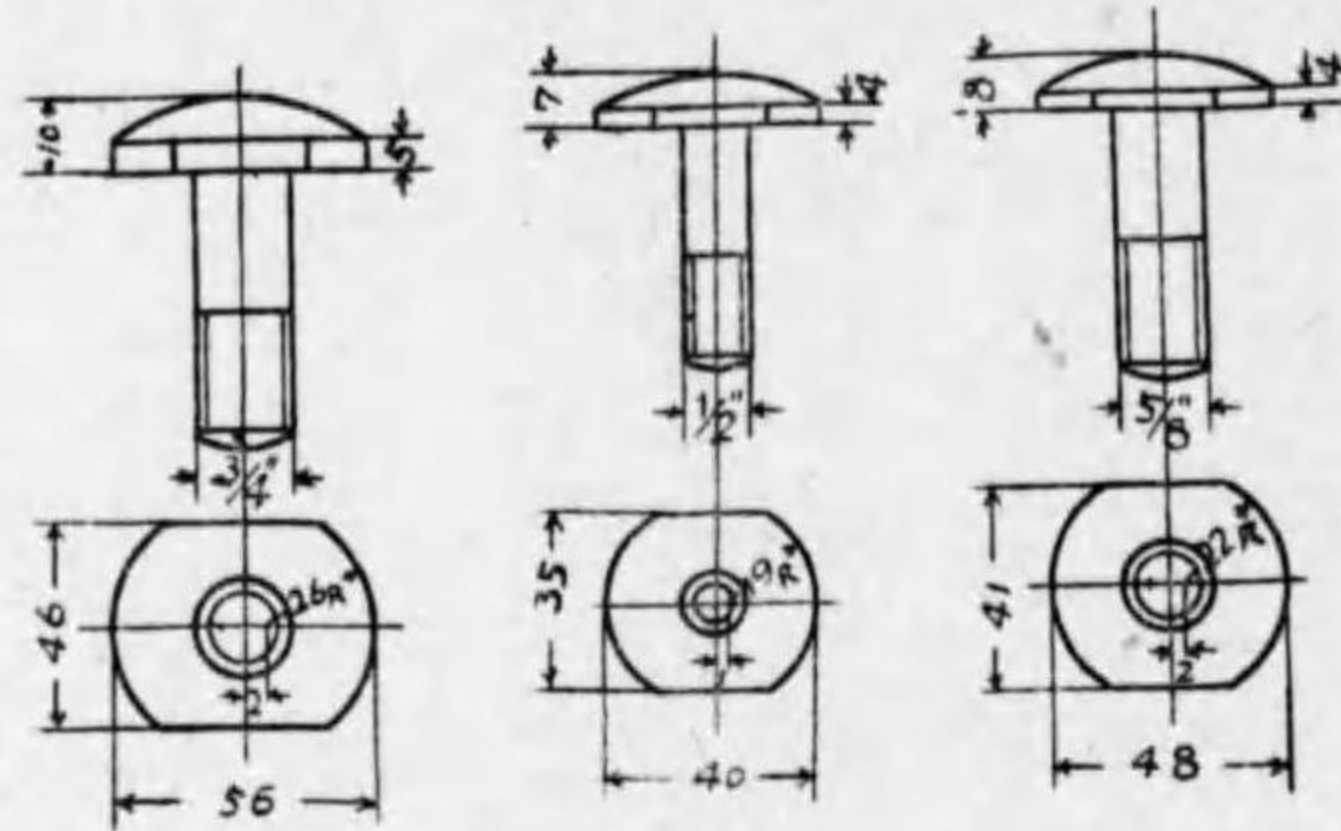


番號	種類	妻柱	側柱	隅柱	長土臺	記 事	
(1)	見込	90	75	85	63	70 90以上	見込寸法 90柱ノ傾 斜角度ヲ 13度トス
(2)	継手ノ長さ	220	200	210	180	190 220	
(3)	脚付	18	14	16	10	12 18 25	



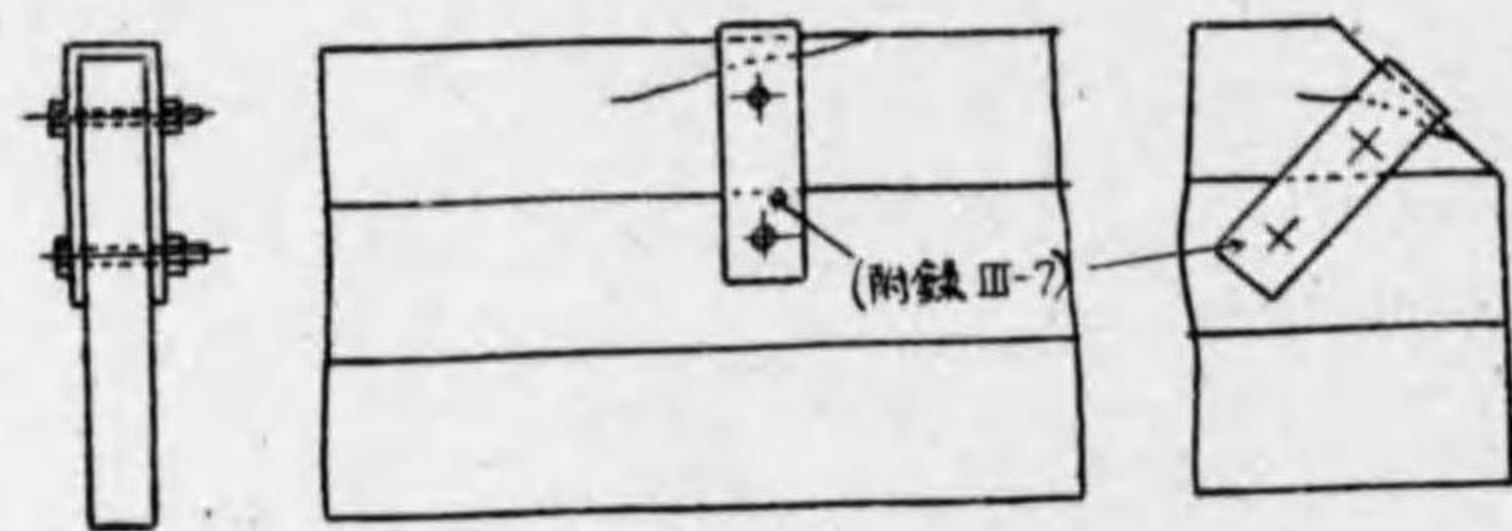
備考

有蓋車室内=露出スルボルトハ下圖=示ス平頭ボルトヲ使用ノコト

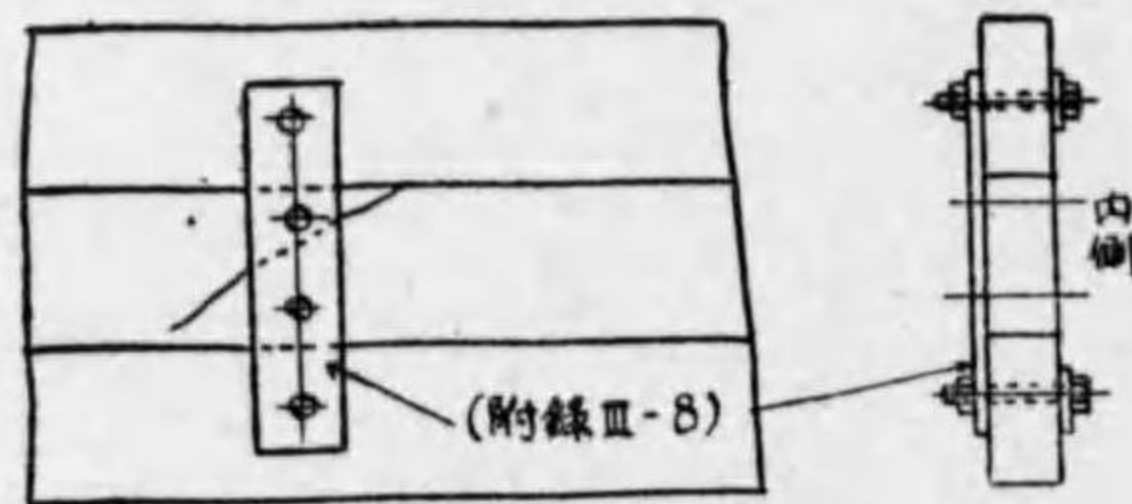


附録 IV 補強手當法略圖

第1圖 (無蓋車側及妻板上部當金)

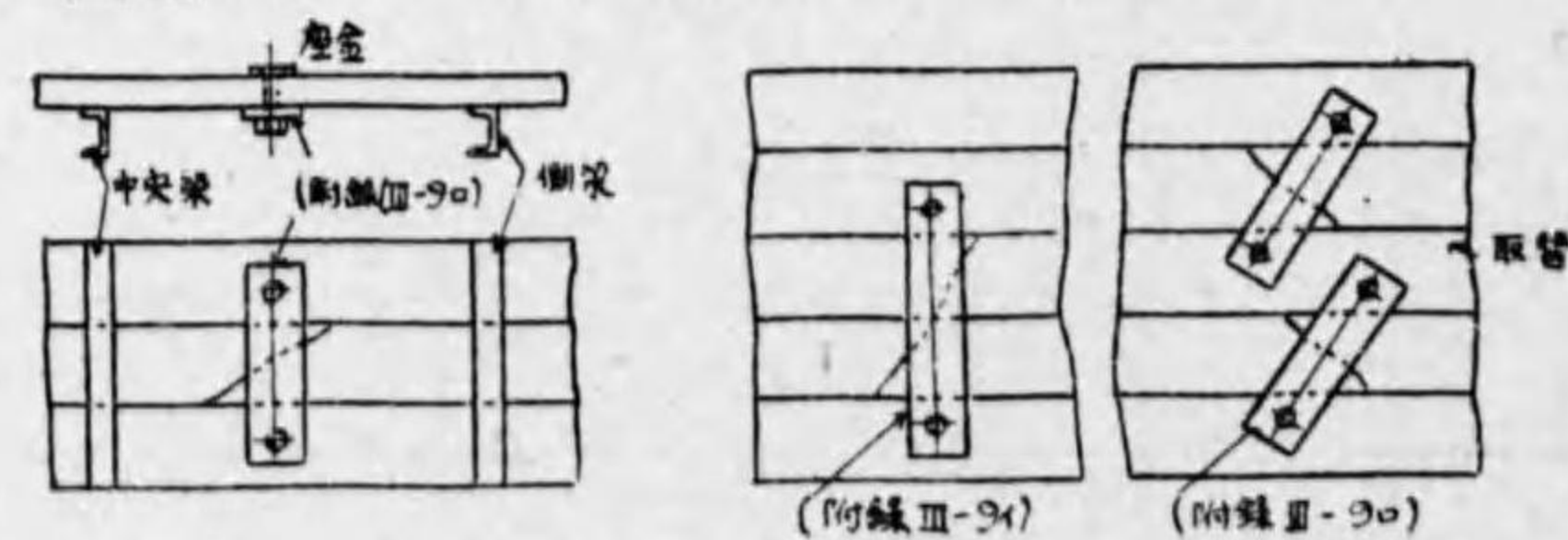


第2圖 (無蓋車側及妻板當金)



第3圖 (床板當金)

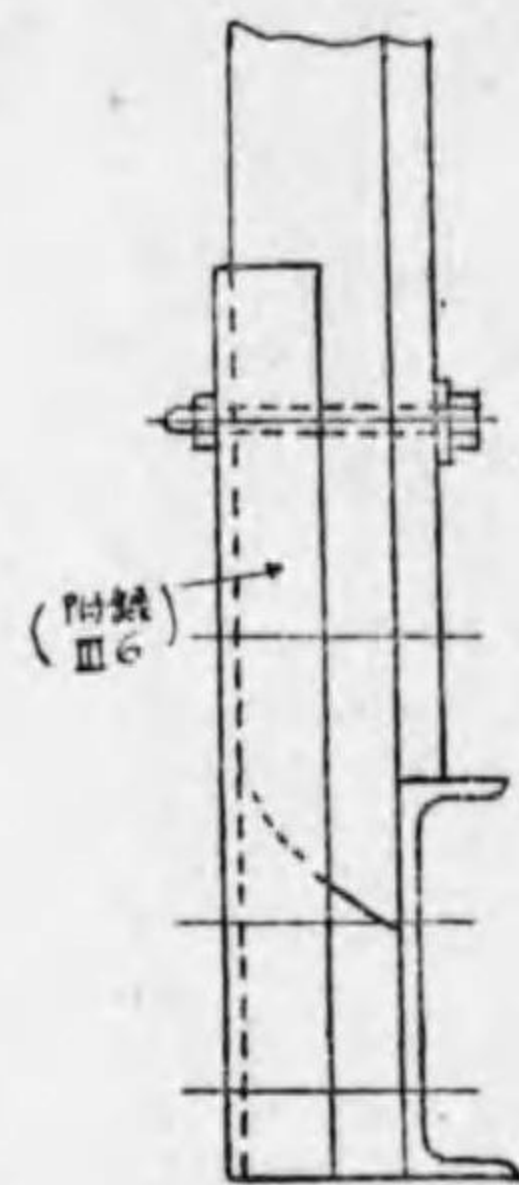
一枚裂傷ノ場合 連続二枚裂傷ノ場合 连续三枚裂傷ノ場合



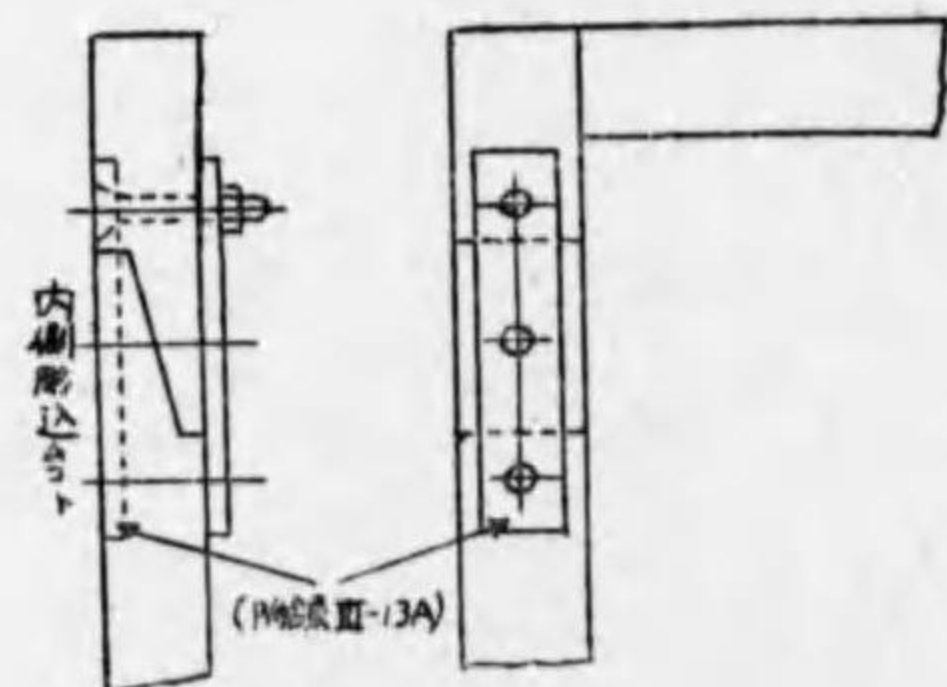
6	無蓋車 妻柱下部 (附録IV略圖 第12圖)		六角ボルト 5/8"×2本 3/4"×2本	
7	無蓋車 側板上部 (附録IV略圖 第1圖)		六角ボルト 1/2"×2本 以上	
8	同上中間部 (附録IV略圖 第2圖)		六角ボルト 1/2"×3本 以上	
9	有蓋車 蓋車板 (附録IV略圖 第3圖)		皿ボルト 1/2"×2本	(イ)ハ床 板4枚ニ 當板(ロ) ハ3枚ニ 當板スル 場合
10	有蓋車 無蓋車 (附録IV略圖 第5圖)		六角ボルト 5/8"×2本	
13	戸 枠 (附録IV略圖 第17・18圖)		皿ボルト 1/2"×3本 木ネチ 5耗×25耗× 7本	
14	羽目板 自動連結器 解放挺止及 解放挺受部		平頭ボルト (イ) 3/4"×2本 (ロ) 5/8"×2本	角ヲ削リ 置クコト



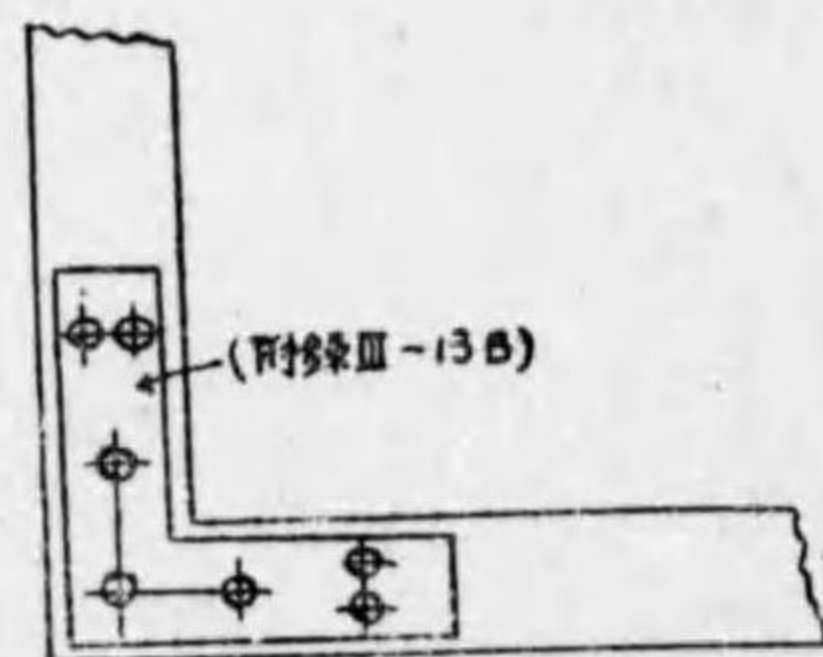
第 12 圖 (無蓋車妻柱及隅柱當金)



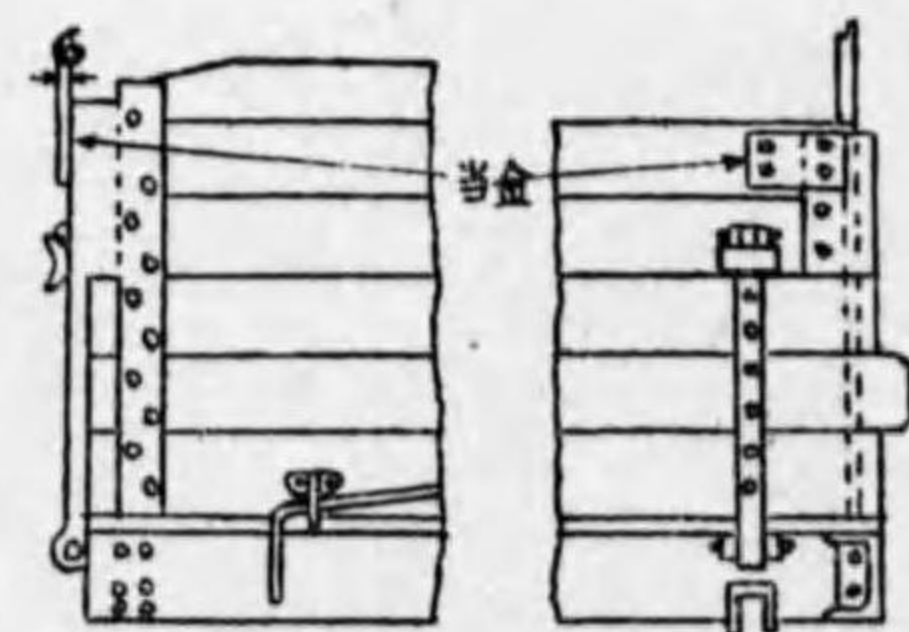
第 17 圖 (戸枠切繼)



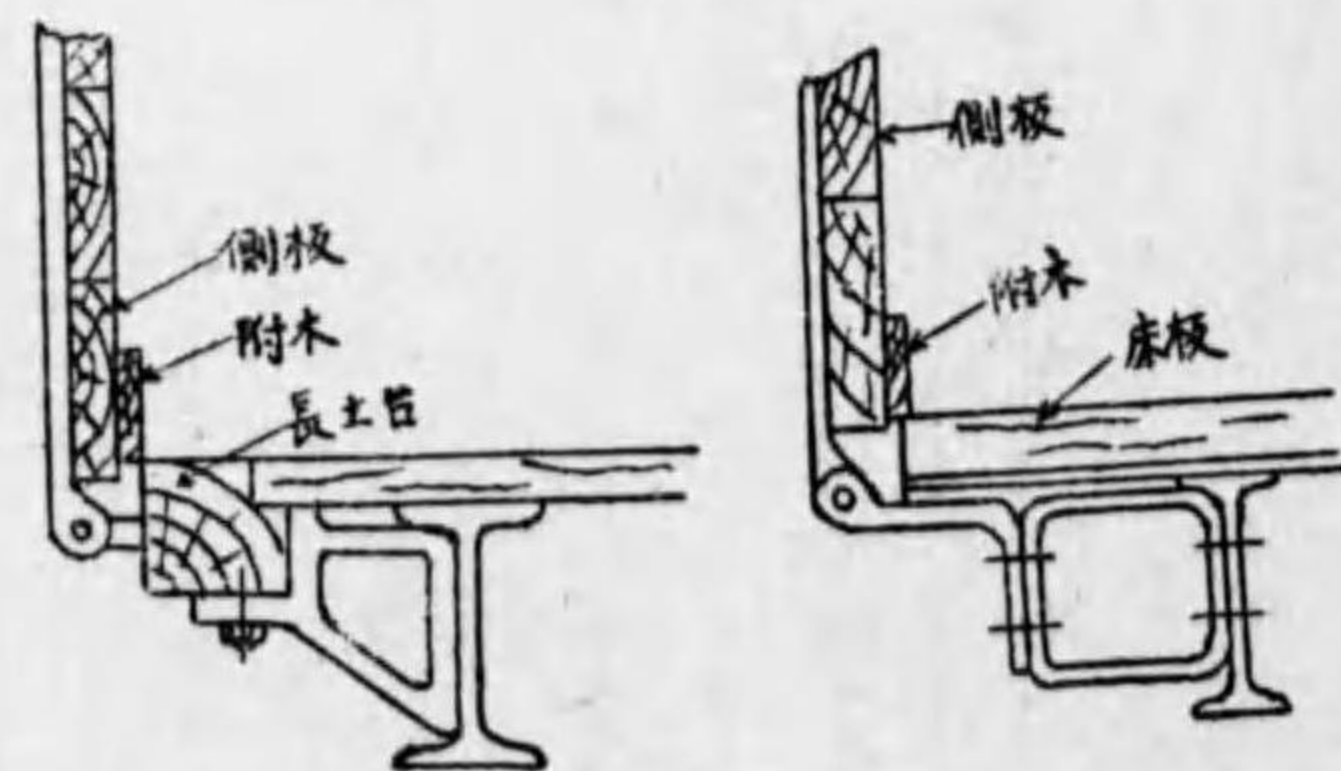
第 18 圖 (戸枠弛緩=對スル手當)



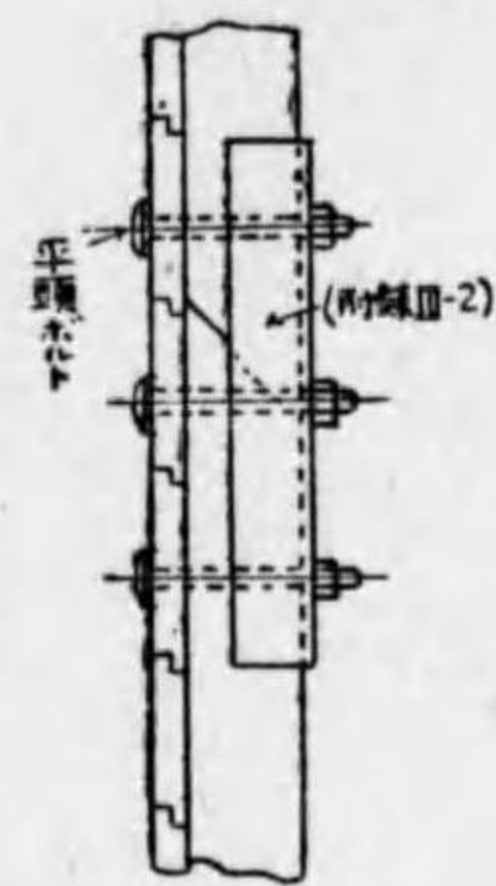
第 23 圖



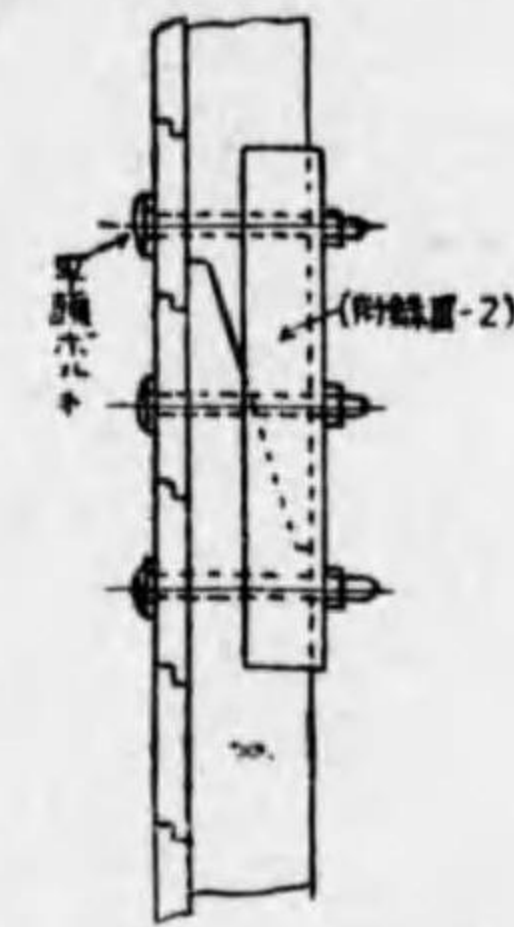
第 24 圖



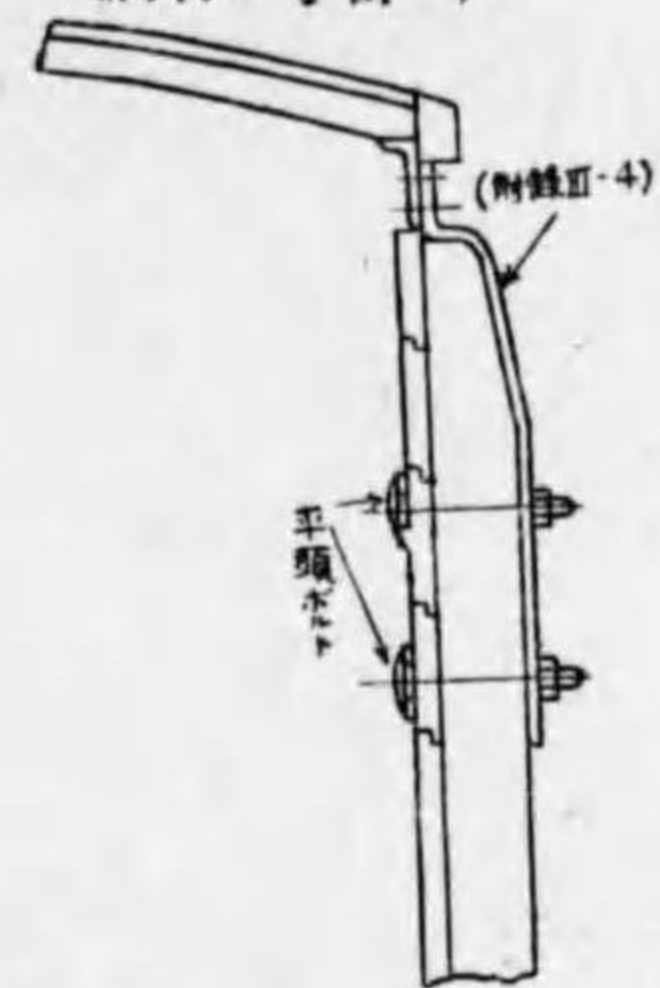
第 6 圖  
(側柱及妻柱上  
部疵入當金)



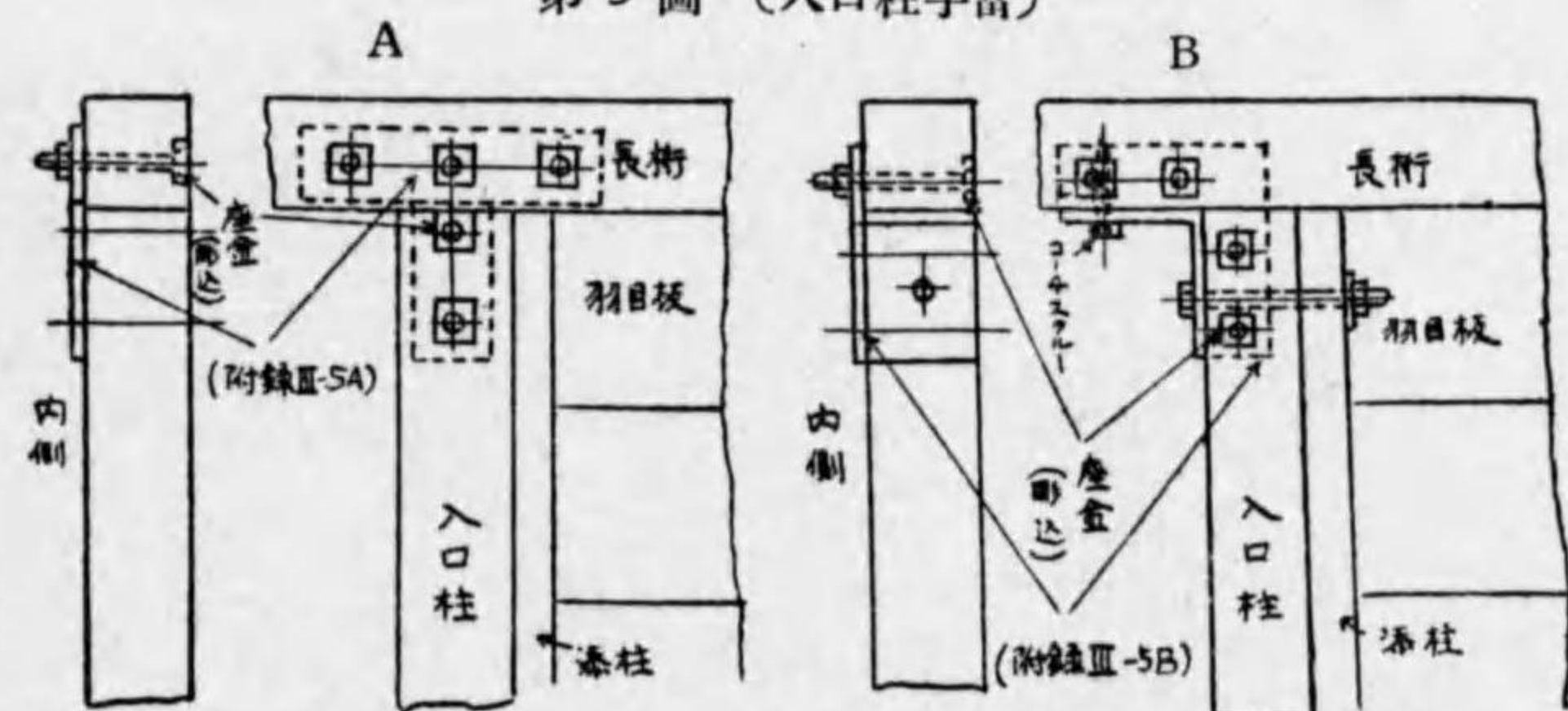
第 7 圖  
(側及妻柱  
上部切繼)



第 8 圖  
(側及妻柱上端  
腐朽ノ手當)

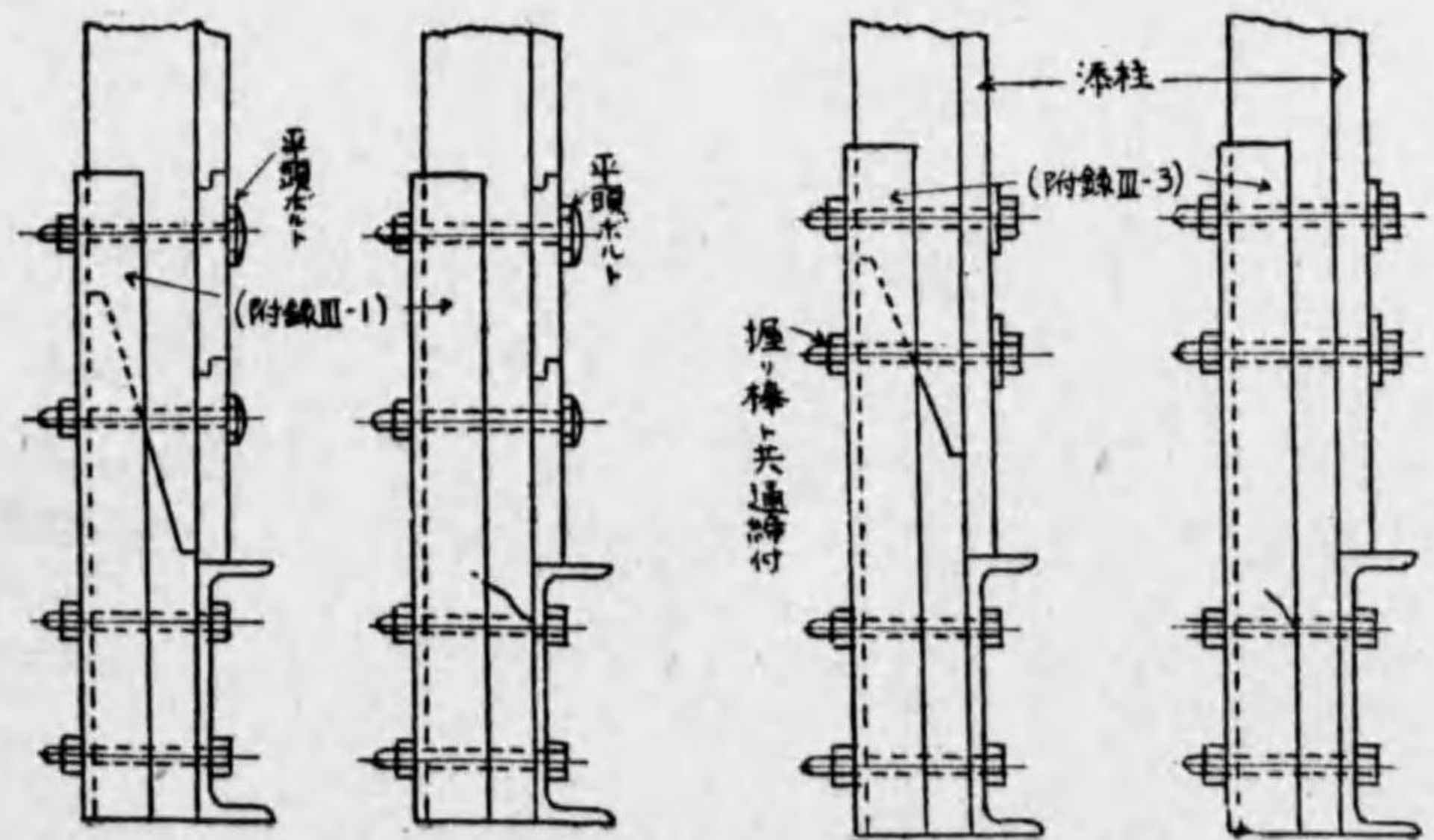


第 9 圖 (入口柱手當)



第 10 圖  
(有蓋車妻柱下部切繼) (同右疵入當金)

第 11 圖  
(有蓋車隅柱下部切繼) (同右疵入當金)





### 四三、客貨車、電車及氣動車ノ修繕車廻送並入出場手續 (大正三、六、五) (達號五、六二號)

客貨車、電車及氣動車ノ修繕車廻送並入出場手續左ノ通定ム

明治四十三年七月達第六六〇號ハ之ヲ廢止ス

#### 客貨車、電車及氣動車ノ修繕車廻送並入出場手續

- 第一條 修繕又ハ検査(仕立検査、局部検査並一般検査ヲ謂フ以下同シ)ヲ要スル車輛ハ別紙様式ノ青票、白票、赤票又ハ赤線票ヲ以テ表示スヘシ
  - 一 青票 使用差支ナキモ不良箇所アルニ付注意スヘキモノナルコトヲ表示ス
  - 二 白票 修繕又ハ検査ノ爲廻送スヘキモノナルコトヲ表示ス
  - 三 赤票 構内入換ノ外運轉ヲ禁止スヘキモノナルコトヲ表示ス
  - 四 赤線票 仕立検査及局部検査ヲ爲スヘキモノニシテ構内入換ノ外運轉ヲ禁止スヘキモノタルコトヲ表示ス

- 定シテ之ヲ運轉セシムルコトヲ得
- 青票ヲ附スヘキ車輛ニシテ検査區、機關區、電車區、車電區(以下單ニ區ト稱ス)ニ於テ修繕シ能ハスト認メタルトキ若ハ車輛ノ運用ニ支障ヲ及ボササル場合ニハ白票ヲ使用スヘシ
- 第二條 青票ヲ附スヘキ車輛ニシテ不良箇所ノ容易ニ判明シ難キモノハ其ノ部分ニペイント又ハ白墨ニテ目標ヲ附シテ發送スヘシ
- 第三條 白票ヲ附スヘキ車輛ニシテ工場(派出所ヲ含ム以下同シ)ニ入場ヲ要スルモノハ空車ニ在リテハ昭和九年三月達第一六〇號ニ依ル其ノ場所所持工場、積車ニ在リテハ運轉ニ危険ナラサル限り其ノ到着場所所持工場ニ廻送ノ手配ヲ爲スヘシ、但シ特ニ廻送先ヲ指定シタル場合ハ此ノ限りニ在ラス
- 第四條 白票ヲ附シタル空車ニシテ検査係員ニ於テ運轉差支ナシト確認シ得ルモノハ目的地ヘ廻送ノ途中ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第五條 白票ニ記入セラレタル廻送目的地ト異方面ニ運轉中ノ貨車ハ空車ニ在リテハ發見場所所持ノ工場又ハ

同最寄區、積車ニ在リテハ到着地所持ノ工場又ハ同最寄區ニ廻送ノ手配ヲ爲スヘシ

第六條 青票又ハ白票ヲ附シタル車輛入驛シタルトキハ區ニ於テ之ヲ調査シ修繕シ得ルモノハ之ヲ施行シ青票又ハ白票ヲ拔去リ且不良箇所ヲ表示セル目標ヲ拭ヒ去ルヘシ

第七條 修繕車(検査車ヲ含ム以下同シ)ノ入場ニ關シテハ左ノ區ニ於テ其ノ手配ヲ爲スヘシ

工場	入場取扱區
大宮工場	大宮検査區
大宮工場隅田川職場	隅田川検査區
大井工場	品川電車區
新小岩工場	錦糸町検査區
名古屋工場	名古屋検査區
長野工場	長野検査區
松任工場	金澤検査區
鷹取工場	明石検査區
多度津工場	高松検査區
吹田工場	吹田電車區
後藤工場	宮原電車區
	米子検査區

幡生工場	下關検査區
小倉工場	門司検査區
若松工場	若松検査區
西鹿兒島工場	鹿兒島検査區
盛岡工場	盛岡検査區
土崎工場	秋田検査區
新津工場	新潟検査區
苗穂工場	手宮検査區
苗穂工場西職場	室蘭検査區
五稜廓工場	函館検査區
旭川工場	旭川検査區
釧路工場	釧路検査區

第八條 區ニ於テ車輛ノ入場手配又ハ修繕、検査ヲ爲サントスルトキハ赤票又ハ赤線票ヲ挿入スヘシ、既ニ青票又ハ白票ヲ附シタルモノハ之ヲ撤去スヘカラス

第九條 修繕車票ハ之ヲ兩側ノ修繕車票挿入シ修繕検査ノ終了スル迄之ヲ撤去スヘカラス

第十條 客車、電車及氣動車ノ入場ニ就テハ工場所持區



域所管ノ鐵道局運轉部(以下單ニ鐵道局運轉部ト稱ス)ハ大正四年七月達第七三二號ノ入場豫定期日ニ依リ入場車數ノ調整ヲ爲スヘシ

參考 入場豫定期日ノ豫報ニ付テハ大正四、七、八達第七三二號ニテ左ノ通定メラレテ居ル  
鐵道局運轉部ハ翌月中工場ニ廻送スヘキ客車ノ記號、番號、檢査又ハ修繕箇所及既定改良工事件名ヲ取調ヘ關係工場ノ屬スル鐵道局ノ工作部ト打合ノ上入場豫定期日ヲ定メ毎月二十五日迄ニ受持工場ニ豫報スヘシ但シ事故破損車ヲ臨時入場セシムル場合及豫報輛數ノ増減又ハ其ノ入場豫定期日ノ變更ヲ必要トスル場合ハ兩部協定ノ上其ノ都度工場へ通報スヘシ

第十一條 貨車ノ入場ニ就テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 工場所管鐵道局工作部(以下單ニ鐵道局工作部ト稱ス)ハ各工場ノ修繕力ニ應シ毎日入場セシムヘキ平素ノ標準輛數ヲ定メ之ヲ鐵道局運轉部ニ通知シ運轉部ハ之ニ依リ入場輛數ヲ調整スヘシ
- 二 削除
- 三 一般檢査ノミノ爲ニ入場ヲ要スルモノハ左ノ區別ニ依リ之ヲ捕捉スヘシ
- イ 檢査期月ニ達シタルモノハ入場取扱區ニ於テス但シ受持工場ニ於ケル在場車數ニ依リ斟酌スルヲ要ス

口 檢査期日ヲ超エタルモノハ各區ニ於テス  
第十一條ノ二 各區ハ入場待合セノ爲其ノ區所在驛及附近ニ保留シアル修繕貨車ノ輛數ヲ毎日鐵道局工作部、運轉部及受持工場ニ通知スヘシ

第十二條 在場輛數カ標準輛數ヲ著シク超過セムトシ若ハ工作上著シク不便ヲ感ズル程度ニ減少セムトスルトキハ工場ハ鐵道局工作部及運轉部ニ通知シテ臨時入場輛數ノ調整ヲ求ムヘシ

第十三條 工場ニ收容シ得サル修繕車ハ鐵道局運轉部ニ於テ工作部ト協定シ一定ノ場所ニ之ヲ保管シ其ノ數著シク増加シタルトキハ其ノ狀況ヲ工作局及運輸局ニ報告スヘシ

第十四條 在場輛數ノ増加ヲ要スル場合ニ於テ相當ノ修繕車ヲ捕捉シ得サルトキハ一般檢査期限ニ近キモノ(客車ニ在リテハ三箇月、貨車ニ在リテハ六箇月以内)ヲ入場セシムルコトヲ得

第十五條 入場車ヲ他ノ工場ニ轉送スル必要アルトキハ工場ハ入場取扱區ニ之ヲ通知シ入場取扱區ハ白票ヲ使用シ目的地ニ廻送スヘシ

第十六條 落成車ハ當該工場ノ通知ニ依リ入場取扱區之ヲ受領シ更ニ驛長ニ引渡スヘシ

第十七條 修繕車入場取扱區ハ入場車ノ受拂簿ヲ備ヘ

工場トノ受授ヲ明ニシ尙毎月少クトモ一回工場ト在場車ノ照合ヲ爲スヘシ  
第十八條 改造又ハ裝置ヲ要スヘキ車輛ノ廻送並入出場

表面青地ニ白文字(點線内ハ白地)  
裏面白地文字ナシ

青 票

年	月	日
機關區 檢車區		

例 入 記

年	月	日
機關區 檢車區		
(1) バッファースプリング (2) (破損) 車軸發熱		

備考 表面ニハ不良箇所ヲ記入スヘシ

表面

裏面

例 入 記

(1) 現品持合セナシ他區ニテ修繕アリタシ		
(2) (強熱注意ヲ要ス)		

備考 裏面ニハ必要事項ヲ記入スヘシ

裏面

表面白地ニ赤文字及赤線  
裏面白地文字ナシ

白 票

年	月	日
機關區 檢車區		

例 入 記

年	月	日
機關區 檢車區		
(1) 側板及隅柱修繕 (2) (一般檢査)		

備考 表面ニハ主ナル修繕箇所又ハ檢査ノ種類ヲ記入スヘシ

表面

例 入 記

(1) 修繕箇所 曲軸箱缺損 記事 、、工場入場車多數ニ付 、、工場廻送 (2) (使用繁劇ニ付期限繰上ケ 檢査施行ヲ要ス)		
--	--	--

備考 裏面ニハ修繕箇所又ハ必要事項ヲ記入スヘシ



表面赤地ニ白文字（點線内ハ白地）  
裏面白地文字ナシ

赤 票

當驛留置

年月日

檢車區

機車區

例 入 記

當驛留置

(1) 入 場

(2) (當區修理)

年月日

檢車區

機車區

表 面

裏 面

例 入 記

(1) 修繕箇所

ロツカール破損

棧柱一本折損

棧板三板破損

タイヤ1削正

(2) (、、、、、)

(3) (、、、、、)

表面白地ニ巾四分ノ三吋ノ赤色×線ヲ施シ  
文字ハ赤色トシ裏面ハ白地文字ナシ

赤 線 票

第 號

檢 査

年月日

機車區

檢車區

備考

本票ハ鐵葉ヲ使用スルコトヲ得

備考  
裏面ニハ修繕箇所（既ニ青  
白票ノ挿入シアルモノ又ハ  
自區修繕ノモノハ記入ニ及  
ハス）又ハ必要事項ヲ記入  
スヘシ

### 四四、空氣制動機修繕取扱手續

（大正一五、六、二一）  
（達第四七七號）

空氣制動機修繕取扱手續左ノ通定ム

#### 空氣制動機修繕取扱手續

第一條 空氣制動機ノ修繕ニ關シ左ノ通指定工場、特定  
工場及其ノ受持區域ヲ定ム

一 指定工場及其ノ受持區域

工場名	受持區域
大宮	大宮工場機關車修繕受持區域ニ同シ
大井	大井工場
名古屋	名古屋及松任工場
濱松	濱松工場
長野	長野工場
應取	應取、後藤及多度津工場
幡生	多度津及幡生工場
小倉	小倉、若松及西鹿兒島工場
郡山	郡山工場貨車修繕受持區域ニ同シ

二 特定工場及其ノ受持區域

盛岡	盛岡工場客貨車修繕受持區域ニ同シ
土崎	土崎工場
苗穂	苗穂及釧路工場
苗穂	苗穂、五稜郭、旭川及釧路工場
工場名	受持區域
大宮工場	東京、新潟及仙臺鐵道局管内工場
應取工場	名古屋、大阪、廣島及門司鐵道局管内工場
苗穂工場	札幌鐵道局管内工場

第二條 指定工場ニ於テハ左記事項ヲ施行スルモノトス

一 空氣制動機檢査心得ニ依リ機關區、檢車區、電車區（以下單ニ區ト稱ス）又ハ車輛修繕受持工場（以下單ニ受持工場ト稱ス）ニ於テ空氣制動機檢査ノ爲又ハ作用不具合ノ爲臨時ニ取外シ送附シタル制動弁、給氣弁、減圧弁、分配弁、切換弁及三動弁ノ分解檢査、修繕竝ニ試驗臺試驗ヲ行フコト  
但シ右修繕ハ部分品ノ取換、適合部ノ摺合及摺動部ニ滑劑給與ノ類トス



二 前號ノ分解検査ヲ爲シタル場合ニ削正當金等加工修繕ノ必要ヲ認メタルトキハ假組立ノ上受持工場別内譯書ヲ添附シ之ヲ特定工場ニ送付スルコト

三 第一號試驗臺試驗済ノモノ及第三條第一號ニ依リ特定工場ヨリ送附セラレタルモノハ之ヲ機關區、檢車區、電車區又ハ受持工場ニ直接返送スルコト

第三條 特定工場ニ於テハ左記事項ヲ施行スルモノトス  
一 第二條第二號ニ依リ指定工場ヨリ送附シタル修繕品ニ對スル修繕並ニ試驗臺試驗ヲ行ヒ落成ノ上ハ之ヲ指定工場ニ返送スルコト

二 空氣制動機一般ノ修繕用部分品ノ準備ヲナシ受持工場ノ請求ニ依リ隨時貯藏品トシテ之ヲ保轉スルコト

但シ右修繕用部分品ノ種類ハ工作局長之ヲ定ム

參考 修繕用部分品ノ種類ニ付テハ大正一五、九、六公報通報ニテ左ノ通定メラレタリ

本年六月達第四七七號空氣制動機修繕取扱手續第三條第二號但書修繕部分品ノ種類ヲ左ノ通定ム

追テ左記以外ノ部分品ハ空氣制動機取扱手續ニヨル特定工場又ハ指定工場ヲ經由スル必要ナク其ノ修繕及部分品ノ準備要求ハ受持工場ニ於テ直接之ヲ行フモノトス

記

一 空氣制動機部分品ノ內空氣溜(鋼鐵製)、圧力計、管、管接手、蛇管、蛇管連結器、同詰ゴム、同塞ギ、同鈎鎖、蛇管帶、乳首、ボルト、ナット、ピンヲ除キタルモノ全部

第四條 指定工場及特定工場ニ於テ前二條ニ依ル試驗臺試驗ヲ施行シタルトキハ合格品ニ對シ其都度白ペイントヲ以テ施行年月日及工場名符號(大正四年七月達第七四一號ニ依ル)ヲ左記例ニ倣ヒ記載スルモノトス  
但シ前回施行年月日及工場名符號ハ同時ニ之ヲ抹消スルコト

大正十五年四月十五日 大宮工場施行ノ例

15-4-15 OMI

第五條 受持工場ニ於テハ左記事項ヲ施行スルモノトス

一 第二條及第三條ニ定ムル以外ノ空氣制動機部分ノ修繕

二 第三條第二號ニ依リ特定工場ヨリ保轉ヲ受ケタル修繕用部分品ヲ必要ニ應シ區ニ配給スルコト

第六條 空氣制動機修繕ニ要スル費用ハ受持工場ノ負擔トス

受持工場ハ本手續ニ依リ指定工場並ニ特定工場ニ於テ行フ検査及修繕ニ對シ一々年度据置ノ委託工事請求券ヲ發行スヘシ

### 四五、貨車一般検査施行後修理シタル場合ノ表示方ノ件 (昭和七、一〇、四) (達第七五八號)

貨車一般検査施行後修理シタル場合ノ表示方左ノ通定メ昭和七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

工場ニ於テ一般検査期間内ニ貨車ヲ修理シタル場合ハ其ノ都度修繕標挿ノ内部ニ別紙圖面ニ依リ修理箇所記號及修理施行年月並ニ工場名ヲ表示スヘシ

前項ノ表示ハ次回一般検査施行ノ際之ヲ抹消スヘシ

附 則

大正六年三月達第二〇五號ハ之ヲ廢止ス

圖面記事

一 一般検査施行後始メテ修理ヲナシタルモノハ下部ヨリ一〇耗ノ箇所ニ太サ三耗ノ白線一條ヲ引キ第二回目以降逐次一五耗ヲ隔テテ同様ノ線一條ヅツヲ加フ

二 前號ノ白線ノ上位ニ夫々下記修理箇所ニ對スルA乃至Hノ記號並ニ修理年月及工場(職場ヲ含ム)各略號ヲ白書ス

A ハ輪軸

B ハ軸箱及臺車(軸箱守、軸受金、菱形枠、柱、搖枕、心皿及側受)

C ハ擔ベネ及枕ベネ

D ハ自動連結裝置

E ハ制動裝置

F ハ臺枠及床(臺枠、床、長土臺、踏段、バネ靴)

G ハ側及妻(側板、妻板、戸、柱、窓、柵柱、回轉枕、石炭箱、油及ガスタンク、其ノ他側、妻及戸ニ取付ケタル金具類)

H ハ屋根(屋根布、屋根板、押縁、垂木等)

三 工場名略號ハ下記ノ通トス

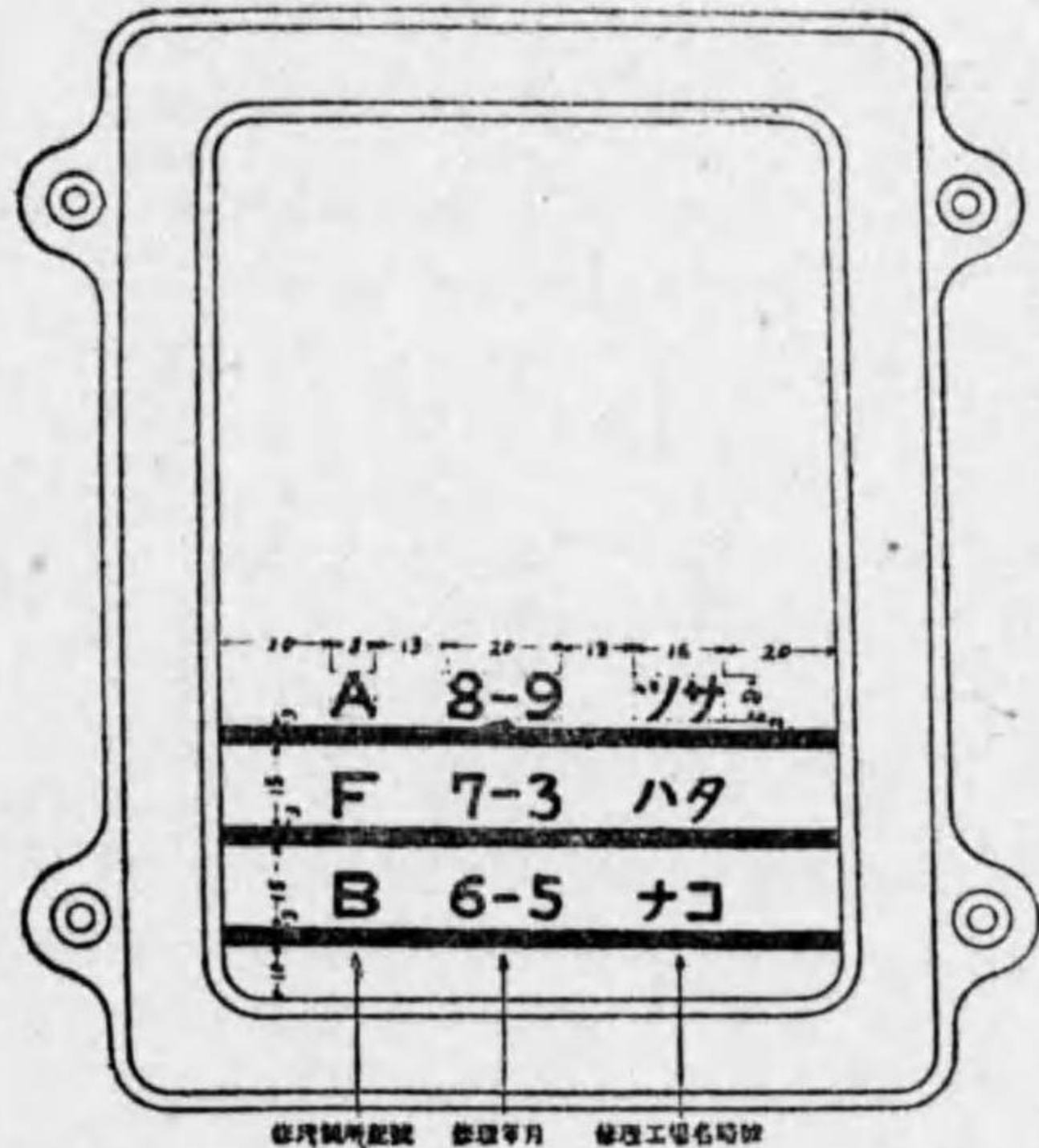
大宮ヲヲ、大井ヲキ、新小岩シワ、隅田川スミ、名古屋ヲコ、長野ヲノ、松任マト、

鷹取ヲカ、吹田スイ、後藤トウ、多度津ヲト

幡生ハタ、小倉クラ、若松ワカ、西鹿兒島ニマ、盛岡モカ、土崎ツサ、新津ニツ

苗穂ヲホ、輪西ワニ、五稜郭コリ、旭川アサ、釧路クシ





### 四六、客貨車掃除心得

(昭和二、一、二六  
達第一〇三六號)

客貨車掃除心得左ノ通定メ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 客貨車掃除心得

##### 第一章 總 則

第一條 客貨車ノ掃除ハ本心得ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ消毒ニ關シテハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外本心得ニ依ル

(註) 大正三年十二月消毒規程及大正七年三月傳染病豫防規程第一二一六號達第一五七五號

##### 第二章 客車ノ掃除

第二條 客車ノ掃除ヲ分チテ左ノ二種トス

一 小掃除

二 大掃除

第三條 小掃除ハ鐵道局長ニ於テ指定スル運轉中ノ客車又ハ驛ニ停留中ノ客車ニ就キ之ヲ行フヘシ

第四條 運轉中ノ客車ノ小掃除要領ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 運轉中煤煙等ノタメ汚レタル手摺、戸、出入臺入口ノ取手及内帶(窓闔)等ヲ柔キ布巾ニテ丁寧ニ拭ヒ更ニ取手ハ消毒藥ヲ浸シタル布巾ニテ拭フコト
- 二 一、二等及寢室ノ如キ上級室ノ座席ノ塵埃ヲ刷毛ニテ掃キ取ルコト
- 三 空堀、古新聞紙及弁當殻ノ類ヲ拾ヒ取リタル後床ニ水ヲ撒キ塵埃ヲ掃出シ腰掛ノ下、特ニ旅客ノ眼ニ觸レ易キ場所ニ塵埃ノ殘ラサル様爲スコト、此ノ場合塵埃ハ塵籠又ハ適當ノ容器ニ入レ車外ニ掃キ捨テサルコト

冬期寒サノ爲撒水ノ凍ル如キ場合ハ掃除ノ際水ヲ撒カサルコト、シ凍リツキタル氷又ハ吹キ込ミタル雪ヲ取除クコト  
リノリユウム又ハオイルクローズ張ノ上級室ノ床ニ

ハ撒水ノ代リニ適當ノ清掃劑ヲ撒キテ掃除スルコト

四 化粧室及便所用水ノ有無ヲ調ヘ不足セルトキハ補給ノ手配ヲ爲スコト

五 洗面器ノ汚レ居ルトキハ消毒石鹼ニテ洗ヒ布巾ニテ拭フコト

六 タンツボヲ掃除シ之ニ消毒液ヲ注入スルコト

七 便器ニ附着シタル汚レ物ハ先ツ消毒液ヲ撒キ掃除具ニテ綺麗ニ取去リ水ヲ流シテヨク洗ヒタル後防臭劑ヲ撒クコト

八 車體内外ニ吐瀉物アリタルトキハ消毒藥ヲ撒キテ掃キ取ルカ又ハ洗ヒ流スコト、此ノ場合列車給仕又ハ列車手ノ乗務セサルトキハ車掌ニ於テ次ノ相當停車時間アル驛ニ通知シ前段ノ處置ヲ爲サシムルコト

第五條 驛ニ停留中ノ客車ノ小掃除要領ハ前條ニ定ムル掃除ノ外左ノ各號ニ依ル

- 一 窓縁其ノ他車室内ニテ旅客ノ觸レ易キ部分ハ柔キ布巾ニテ拭ヒ且座席ノ塵埃ヲ刷毛ニテ掃除スルコト
  - 二 踏段及出入台ニ水ヲ撒キ(電氣裝置ニ水ノカ、ラサル様注意スルコト)等ニテ掃除シ上級室ノ床敷物ハ掃除後濡雜巾ニテ拭フコト
- 冬期寒サノ爲撒水ノ凍ル如キ場合ハ掃除ノ際水ヲ撒カサルコト、シ凍リ著キタル氷又ハ吹込ミタル雪ヲ



取除クコト

- 第六條 短區間ヲ折返シ運轉スル客車ノ小掃除ハ床ノ塵埃ヲ掃キ出ス程度ニ止メ時期ヲ定メテ前條ニ依リ掃除ヲ行フヘシ
- 第七條 大掃除ハ使用ノ狀況ニ應シ長距離ヲ運轉スル客車ニ在リテハ驛ニ停留中又ハ短區間ヲ運轉スル客車ニ在リテハ時期ヲ定メテ之ヲ行フヘシ
- 電氣暖房器(電車ヲ除ク)ノ大掃除ハ使用期間中仕立検査ノ際、又寢台車ノ寢台、食堂車ノ食堂及料理室内設備ノ大掃除ハ毎月三回之ヲ行フヘシ
- 第八條 客車ノ大掃除要領ハ第五條ニ定ムル掃除ノ外左ノ各號ニ依ル
  - 一 戸類ノ金具及出入台ノ取手其ノ他車體内外ニ取付ケアル金具ヲ磨クコト
  - 二 風窓硝子ノ甚シク汚レタルモノヲ拭ヒ周圍ノ塵埃ヲ掃除シ且窓ノ開閉具合ヲヨクスルコト
  - 三 錠戸及網戸ノ塵埃ヲ壓縮空氣、真空掃除器其ノ他適當ノ掃除具ニテ取除キ甚シク汚レタルモノハ必要ニ應シ之ヲ取外シ洗フコト
  - 四 窓硝子、鏡及電燈ノホヤ竝電球ヲ柔キ布巾ニテ拭フコト
  - 五 車室内羽目板、窓、戸、網棚及區分棚等ヲ塵拂ニ

- テ拂ヒ柔キ布巾ニテ拭フコト
- 六 車室内ノ塗粧部ヲ柔キ布巾ニテ拭ヒ紙張ノ箇所ヲ塵拂ニテ拭フカ又ハ柔キ布巾ニテ乾拭ヲ爲シ汚レタル部分ハ脱脂液ニテ拭フコト
- 七 腰掛及背摺ノ塵埃ヲ真空掃除器又ハ他ノ掃除具ニテ取除キ汚レタル部分ハ適當ノ脱脂液ヲ用ヒ綺麗ニスルコト
- 八 容易ニ取外シ得ル腰掛ハ時々前後左右相互ノ振替ヲ爲スコト
- 九 電氣暖房器ノ熱線及其ノ支持絶緣物ハ壓縮空氣又ハ手吸子ニテ掃除スルコト
- 十 暖炉ハ焚殻ノ殘ラサル様掃除シ其ノ附屬品ヲ濡雜巾ニテ拭フコト
- 十一 床面ヲ水ニ浸シタル雜巾ニテ拭ヒ甚シク汚レタルモノハ水ニテ洗フコト、此ノ場合電氣裝置ニ水ノカカラサル様又水分ノ殘ラサル様注意スルコト
- 上級室ノ床ニシテリノリユウム又ハオイルクローズ張ノモノハ必要ニ應シリノリユウム油ニテ拭フコト
- 電車ノ床面ハ必要ニ應シ適當ノ油ニテ拭フコト
- 十二 吊革取手ヲ消毒藥ニ浸セル布巾ニテ拭クコト
- 十三 化粧室、便所及食堂車ノ料理室ノ用水ハ殘水ヲ排除シ一度水ヲ入レタル上洗ヒ流スコト

- 十四 化粧室及便所内ノ掃除ハ特ニ清潔ニ行ヒ便器ヲ消毒シ防臭劑ヲ撒キ冬期ニハ排泄管ニ凍著キタル汚物ヲ取除クコト
- 十五 料理室、手荷物室、化粧室及便所ニ取付アル排水管ニハ塵埃填リ易キニヨリ十分掃除スルコト
- 十六 寢台ノ内部ハ丁寧ニ掃除シ且寢具綴帳ハ毎月一回以上消毒ヲ爲スコト
- 十七 腰掛及背摺ノ覆ハ必要ニ應シ洗濯又ハ消毒ヲ爲スコト
- 十八 料理室ノ諸設備ニシテ容易ニ取外シ得ルモノハ之ヲ取外シタル上洗ヒ車外ニ持出シ日光ニ曝シ取外シ得サルモノハ水拭シ風ヲ通シ乾カスコト
- 十九 車體外部ヲ清水又ハ微温湯ニテ流シ刷毛又ハ柔キ雜巾ノ類ニテ磨キ必要ニ應シ適當ノ清掃劑ヲ用ヒテ附著シタル煤煙及塵埃等ヲ洗ヒ清ムルコト
- 二十 雨樋ニ填リタル爐滓又ハ塵埃ヲ掃除シ雨水ノ排泄ヲヨクスルコト
- 二十一 台枠、台車外面ノ甚シク汚レタルモノハ壓縮空氣ニテ塵埃ヲ吹き落スカ又ハ他ノ方法ニテ掃除スルコト
- 二十二 大掃除ヲ行ヒタル後ハ窓及戸ヲ開ケ放チ室内ヲ乾カスコト

- 第八條ノ二 車體外部及出入台ノ扉竝壁ハ前條第十九號ニ依ルノ外毎月一回(隧道多キ區間ヲ運轉シ汚損シ易キモノニ在リテハ十日ニ一回)ヲ標準トシ左ノ方法ニ依リ修酸水溶液ヲ使用シ洗滌スヘシ
  - 一 修酸水溶液ヲ刷毛ニ含マセ磨キツツ塗布シタル後其ノ乾燥セサル前ニ塗布シタル修酸水溶液ノ殘ラサル様清水ニテ十分洗ヒ流スコト
- (註) 一 修酸水溶液カ直チニ乾燥シ固形物ヲ殘ス虞アルトキハ始メ車體ニ撒水シタル後之ヲ行フコト
- (註) 二 修酸水溶液ハ修酸三清水九七ノ割合ヲ標準トシテ混合シタルモノトス
- 第九條 客車ノ大掃除ハ檢車區、機關區、電車區、又ハ車電區(以下單ニ區ト稱ス)之ヲ行ヒ小掃除ハ驛又ハ區之ヲ行フヘシ、但シ運轉中ノ客車ノ小掃除ハ列車給仕又ハ列車手ニ於テ之ヲ行フモノトス
- 食堂車(豫備車ヲ除ク)ノ食堂、喫煙室及料理室竝暖炉及煙突ノ掃除ハ小掃除ニ在リテハ驛長、車掌又ハ區長、大掃除ニ在リテハ區長ノ指示ニ依リ列車食堂營業人ニ於テ之ヲ行フモノトス
- (註) 車電區ニ於テハ電燈及電氣暖房器(電車ヲ除ク)ノ大掃除ヲ爲ス
- 第十條 小掃除又ハ大掃除ヲ行フヘキ場所及列車竝擔當



驛及區ハ鐵道局長之ヲ定ム但シ二局以上ニ亙リ運轉スル列車ニ對シテハ關係鐵道局長協議ノ上之ヲ定ム

第十一條 豫備客車ニ在リテハ毎月一回以上配屬區ニ於テ大掃除ヲ行フヘシ

第十二條 使用稀ナル客車ニ在リテハ鐵道局長ニ於テ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外使用ノ際配屬區ニ於テ大掃除ヲ行フヘシ

第十三條 大掃除ハ客車洗滌線ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ洗滌線ノ設備ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

### 第三章 貨車ノ掃除

第十四條 貨車ノ掃除ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 小掃除
- 二 大掃除

第十五條 小掃除ハ貨車到着驛ニ於テ荷卸シヲ爲シタル後當該驛之ヲ行フヘシ但シタンク車、雪掻車、石炭車及折返シ運用スル工用貨車ハ此ノ限ニ在ラス

列車ニ組成セル車掌車、有蓋緩急車、無蓋緩急車ニ在リテハ當該列車ノ終著驛又ハ當該緩急車ノ解放驛ヲ到着驛ト看做ス

到着驛ニ於テ荷卸シヲ爲ササル緩急車ニ在リテハ車掌室ニ就テノミ小掃除ヲ行フヘシ

第十六條 貨車ノ小掃除要領ハ左ノ各號ニ依ル但シ車掌車ノ小掃除ハ客車ノ小掃除要領ニ準據スルモノトス

- 一 車内ノ塵埃、泥及汚物ヲ掃キ出スコト
- 二 車内ノ甚シク汚レタルモノハ必要ニ應シ洗フコト
- 三 窓硝子ノ汚レヲ拭キ取ルコト

第十七條 大掃除ハ車掌車、有蓋緩急車、冷藏車、活魚車、家畜車、豚積車及省工用貨車ニ就キ左記ニ依リ之ヲ行フヘシ

車種	施行時期	施行場所
車掌車、有蓋緩急車	仕立検査施行ノ都度	區
活魚車、豚積車	常備驛ニ歸著ノ都度	常備驛(特ニ指定シタルモノヲ除ク)
冷藏車	鐵道局長ノ指定シタル驛ニ到著ノ都度	到著驛(車體外部ヲ除ク)
家畜車	鐵道局長ノ指定シタル驛ニ到著ノ都度	區(車體外部ニ限ル) 到著驛
省工用貨車	使用終リタル使用箇所	使用箇所

前項ノ貨車ニシテ一般検査及車體内部ノ修繕ノタメ入場シタルトキハ大掃除ヲ行ヒタル上出場セシムヘシ

第十八條 貨車ノ大掃除要領ハ左ノ各號ニ依ル但シ車掌車ノ大掃除ハ客車ノ大掃除要領ニ準據スルモノトス

- 一 有蓋緩急車ノ大掃除
  - イ 窓硝子、棚、机、腰掛ヲ雜巾ニテ拭ヒ布張ノ腰掛ハ刷毛類ニテ掃除スルコト
  - ロ 車内ノ塵埃、泥ヲ掃キ出シ床板ヲ洗フコト
- 二 冷藏車及省工用貨車ノ大掃除
  - イ 車内ノ塵埃、泥、汚物ヲ掃キ出シ側板及床板ヲ洗フコト
  - ロ 冷藏車排水管ノ蓋ヲ開放シ氷槽及排水管ニ填リタル塵埃、泥、汚物ヲ取除キタル上蓋ヲ閉塞シ置クコト
  - ハ 冷藏車内格子型臺ハ之ヲ取外シタル上ヨク洗ヒ成ルヘク乾カスコト
  - ニ 冷藏車車體外部ハ清水又ハ微温湯ニテ流シ刷毛又ハ柔キ雜巾ノ類ニテ拭ヒ尙必要ニ應シ尿酸水溶液等ヲ用ヒテ洗フコト
- 三 活魚車ノ大掃除
  - イ 魚槽内ハ塵埃ヲ取除キ亞鉛板ニ油類ノ附着セルモノハ丁寧ニ拭キ取リタル後清水ニテ洗フコト
  - ロ 貯水槽及撒水口ノ塵埃ヲ取除クコト
  - ハ 通路、貯氷庫及附添入室ヲ掃除スルコト

四 家畜車、豚積車ノ大掃除ハ先ツ床ニ消毒藥ヲ撒キ塵埃、汚物ヲ掃キ出シ側板及床板ヲ洗フコト

第十九條 大掃除ヲ施行スヘキ驛及區ハ鐵道局長之ヲ定ム

第二十條 大掃除ハ洗滌線ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ洗滌線ノ設備ナキ箇所ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

#### 附 則

第二十一條 明治三十年二月鐵道乙第一六五號客車洗滌方一定ノ件ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 削除



## 第九編 省外貨車

二一四

### 四七、私有貨車取扱手續

(大正七、三、五)  
(達第一六八號)

私有貨車取扱手續左ノ通定ム  
明治四十二年四月達第二七一號私有貨車運轉、検査、修理取扱手續ハ之ヲ廢止ス  
本達ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 私有貨車取扱手續

第一條 私有貨車トハ會社又ハ個人ノ所有ニ係ル貨車ニシテ當省ニ車籍ヲ編入セルモノヲ謂フ  
私有貨車ヲ分チテ別表甲號及乙號ノ通トス  
第二條 私有貨車ノ運轉、検査及修繕ニ付テハ省有貨車ニ關スル規程ヲ準用ス但シ甲號貨車(番號ノ下ニ巾二十五耗長サ番號ト同長ノ白線一條ヲ畫シ之ヲ標示ス)ノ修繕及一般検査ハ所有者工場ニ於テ施行スルモノトス  
第三條 甲號貨車ノ修繕又ハ一般検査ヲ施行セムトスルトキハ常備驛最寄ノ検査區(機關區ヲ含ム以下同シ)ハ豫メ施行期日ヲ當該所有者ト打合セノ上相當職員ヲ派シ其ノ施行ヲ監督セシムヘシ

前項ニ依リ一般検査施行濟ノモノハ省有貨車ニ關スル規程ニ準シ報告ヲ爲スヘシ  
第四條 甲號貨車カ破損シタルトキハ廻送ニ堪ユヘキ程度ニ手當ヲ施シ常備驛迄之ヲ廻送シ所有者ニ引渡スヘシ  
第五條 前條破損ノ原因カ當省ノ過失ニ基因スル場合ハ當省ニ於テ之カ修繕費用ヲ支拂フモノトス  
前項ノ場合取扱検査區ハ車種、番號及破損ノ理由並破損箇所及破損狀態ヲ詳細ニ取調ヘ所管鐵道局ニ報告シ鐵道局ハ之ヲ所有所ニ通知スヘシ  
第六條 私有貨車ニ關聯シテ事故發生シタル場合其ノ原因左ノ各號ニ該當スルトキハ之ニ關スル損害額(乙號貨車ノ修繕費ヲ含ム)ハ之ヲ所有者ヨリ徵收スルモノトス  
一 甲號貨車ノ場合ニ於テハ當省ノ過失ニ基因スルモノヲ除キ當該車輛ニ基因スルトキ  
二 乙號貨車ノ場合ニアリテハ所有者ノ過失又ハ車輛

製作上ニ於ケル重大ナル缺點ニ基因スルトキ

第七條 乙號貨車ニシテ修繕又ハ一般検査ノ爲工場ニ廻送シタルトキハ其ノ取扱検査區ハ車種、番號及入場ノ理由並廻送先ヲ所管鐵道局運轉部ニ報告シ運轉部ハ之ヲ所有者ニ通知スヘシ  
第八條 第六條ニ該當スル場合ハ關係各事務所、出張所及工場ハ之カ爲ニ要セシ費用(乙號貨車ノ修繕費ヲ含ム)ヲ調査シ所管鐵道局ニ報告スヘシ  
第九條 私有貨車ニシテ大破又ハ腐朽甚シク修繕ノ爲多額ノ費用ヲ要シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ車籍ヲ除外ス

### 四八、内地連絡運輸取扱細則(拔萃)

(昭一五、八、二四)  
(達第六五五號)

#### 第一編 總 則

第二條 用語 語  
本細則ニ於ケル用語ハ内地連絡運輸規則第三條ニ依ルノ外左ノ如シ  
一 規則トハ内地連絡運輸規則ヲ謂フ  
二 旅客細則トハ省所定ノ旅客及荷物運送取扱細則ヲ謂フ  
三 帳表手續トハ省所定ノ運輸帳表取扱手續ヲ謂フ

ルヲ適當ト認ムルモノハ其ノ車種、番號及事由ヲ大臣ニ報告シ指示ヲ受クヘシ  
第十條 車籍ヲ除外シタル私有貨車ハ之ヲ所有者ニ引渡シ其ノ使用ヲ禁止スヘシ  
第十一條 第六條ニ依ル費用ノ徵收並第五條ニ依ル費用ノ支拂ニ關スル手續ハ事故發生鐵道局ニ於テ之ヲ爲スヘシ

#### 附 則

廻送並試運轉ノ料金ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ  
別 表 省 略

四 事故規程トハ省所定ノ荷物事故處置規程ヲ謂フ  
五 輸送手續トハ省所定ノ貨物輸送手續ヲ謂フ  
六 特種貨物運送手續トハ省所定ノ特種貨物運送手續ヲ謂フ

#### 第四編 貨物運送

##### 第一章 通 則

第五十三條 臨時約束貨物ノ取扱方

二一五



規則第五十九條第一項第一號、第三號、第五號及第六號ニ該當スル貨物ハ、特種貨物運送手續第三條乃至第十四條ノ規定ニ依リ取扱フモノトス  
前項ノ貨物及規則第五十九條第一項第四號、第七號及第八號ニ該當スル貨物竝ニ貨物列車ニ依ルニ非ザレバ運送ヲ爲スコトヲ得ザル危險品ノ運送申込アリタルトキハ左ノ各號ノ場合ヲ除キ關係鐵道局ト社トノ間ニ於テ協議スルモノトス

- 一、特種貨物運送手續第三條但書ニ該當スルトキ  
(註) 一 定尺軌條ノ積載方ニ付テハ昭和十七年三月二十日達第一三六號「潤大貨物其ノ他輸送検査取扱心得」參照
- 二 貨物列車ニ依ルニ非ザレバ運送ヲ爲スコトヲ得サル危險品トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
  - イ 車扱ニ依ル火藥類中甲種ニ屬スルモノ但シ貨物列車ノ運轉スル區間ヲ運送スルモノニ限ル
  - ロ 車扱ニ依ル壓縮ガス、液化ガス(タンク車積モノヲ除ク)
  - ハ 小口扱ニ依ルアセチレンガス、壓縮水素ガス
- 三 關係特種貨物運送手續左ノ如シ
- 第三條 臨時約束貨物ノ引受方
- 第四條 臨時約束貨物ノ積載方ニ付検査區長ノ検査ヲ要スルモノ

- 第五條 潤大ナル貨物ノ積載限界
- 第六條 局長ノ承認ヲ要セザル積載限界
- 第七條 二車以上ニ跨ル長尺貨物ノ積載制限
- 第八條 遊車ニ對スル荷重負擔方
- 第九條 長尺軌條ニ長物車二車ニ跨リ運送スル場合ノ取扱方
- 第十條 甲種ノ鐵道車輛引受別ノ検査
- 第十一條 甲種ノ鐵道車輛試運轉
- 第十二條 甲種ノ鐵道車輛ニ對スル遊車使用
- 第十三條 甲種ノ鐵道車輛ニ對スル代理附添人
- 第十四條 特種貨物検査票及貨物移動識別標示

第二章 運送

- 第六十一條 火藥類積載貨車ノ検査  
車扱ニ依ル火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ發運輸機關ニ於テ發送前使用貨車ノ検査ヲ爲スモノトス  
(註) 一 貨車ノ使用、積載方ニ付テハ火藥類鐵道運送規程第九條ニ依リ又使用貨車ノ検査ニ付テハ左記ニ依ルモノトス
  - イ 發送前軸箱給油裝置ノ完全ナルコトヲ確認スルノ外空氣ブレイキ作用ノ検査ヲ爲シ制動作用不良ノモノハ締切コックヲ締切り其ノ旨表示シ置クコト
  - ロ 輸送途中ニ於テハ火藥類積載貨車ノ空氣ブレイキ

第五編 車輛及附屬品

第八十三條 省社直通車輛

社所屬客車及貨車ハ豫メ省ノ承認ヲ受ケタルモノニ限リ省線ニ直通運轉ヲ爲シ得ルモノトス  
前項ノ貨車ニ對シテハ車體兩側及台枠側梁ニ其ノ所屬社名又車體兩側ニ省所定ニ準シ記號、番號、形式稱號、標記應數、自重、換算輦數、其ノ他ヲ標記シ、且番號ノ下ニ幅一・三種ノ白線二條ヲ畫スルモノトス  
(註) 一 省線ニ直通シ得ル社貨車及社線ニ直通運轉シ得ザル省貨車ハ「連絡運轉ヲ爲セル地方鐵道、軌道ト省線相互間貨車直通運轉ニ關スル件」中ニ之ヲ掲グ  
一 社線ニ直通シ得ル省客車ハ豫メ認可ヲ經テ運轉シ得ルモノトス

參考 連帶運轉直通貨車各部使用限度ニ付テハ大正九、一一、一八、公報通報ニテ左ノ通定メラレテ居ル  
連帶運轉契約ニ依リ省線内直通運轉スル地方鐵道及軌道業者所有貨車ノ各部使用限度寸法ニ關シテハ特ニ指定セラレタル場合ノ外總テ當省ノ規程ヲ適用スルモノトス  
第九十二條 他線所屬車輛毀損ノ場合ノ處置

他線所屬ノ車輛毀損シタルトキハ其ノ所在線ニ於テ運轉ニ支障ナキ程度ノ修繕ヲ加ヘ車輛所屬線ニ返送スルモノトス但シ省線内ニ於テ毀損シタル社所屬車輛修理ノ爲社ノ要求アルトキハ其ノ指定ノ場所ニ廻送スルモノトス  
他線所屬ノ車輛ヲ毀損セシメ應急及復舊修理ヲ爲ス爲之ヲ他ニ廻送スル場合竝ニ其ノ應急修繕材料及毀損部分品ヲ送付スル場合ハ各線無償ヲ以テ之ヲ運送ス但シ毀損車輛ヲ一旦車輛所屬線ニ返送シタル後復舊修理ノ爲更ニ他ニ廻送スル場合ニ於テハ有償トス  
第一項ノ場合ニ於テハ車輛所在線所管ノ鐵道局又ハ社ヨリ車輛所屬線ニ對シ遲滞ナク其ノ顛末ヲ通知スルモノトス此ノ場合ニ於テ當該車輛カ省所屬ナルトキハ所在線トノ接續驛所管鐵道局ニ之カ通知ヲ爲スモノトス  
第一百十四條 車輛其ノ他毀損ニ對スル應急及復舊修繕費等ノ負擔方  
車輛其ノ他ノ毀損ニ對シテハ之カ發生ノ原因ヲ與ヘタル運輸機關ニ於テ應急及復舊修繕費竝ニ第九十二條第二項但書ニ依ル車輛廻送運賃ヲ負擔スルモノトス  
車輛毀損ニ因ル休車中ノ損害ニ對シテハ各運輸機關相互求償セザルモノトス



### 四九、連絡運輸ヲ爲セル地方鐵道及軌道ト省線相互間 貨車直通運輸ノ件 (昭和四、一〇、三) (達第七七八號)

連絡運輸ヲ爲セル地方鐵道及軌道ト省線相互間貨車直通  
運輸ノ件左ノ通定ム

止ス

- 一 地方鐵道及軌道へ直通運輸ヲ爲シ得サル省有貨車  
別表其ノ一ノ通トス
- 二 省線内へ直通運輸ヲ爲シ得ル地方鐵道及軌道所屬  
貨車別表其ノ二ノ通トス

別表其ノ一

地方鐵道及軌道へ直通ヲ爲シ得ザル省有貨車

連絡 番號	鐵道及軌道	軌道 負擔力	直通運輸ヲ爲シ得サル貨車	連絡 線	驛
(50)	東野	13.98	レ2500、2900及5000形式冷蔵車、15吨積以上ノタンク車(タサ 1000形式ヲ除ク)15吨積有蓋緩急車、30吨積石炭車、30吨積以 上ノ大物車、35吨積長物車、25吨積有蓋車	東北本線	須野
(52)	下野電氣	13.29	ナ1形式活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、タ580形式 10吨積タンク車、13吨積タンク車、15吨積タンク車(タム100 300、400形式ヲ除ク)15吨積有蓋緩急車及16吨積以上ノ貨車 (タサ500、700、1000、1100形式ヲ除ク)	東北本線	板
(57)	常北電氣 (大野、久慈 間) 常北電氣 (上記區間ヲ 除ク)	13.29 13.00	タキ50形式タンク車、15吨積有蓋緩急車及25吨積有蓋車 レ2900及5000形式冷蔵車、タム200及500形式15吨積タンク車 15吨積有蓋緩急車、25吨積有蓋車及25吨積以上ノ貨車	常磐線	大 鹽
(58)	澁	14.18	15吨積有蓋緩急車及25吨積有蓋車	常磐線	勝 田
(60)	茨城	13.39	15吨積有蓋緩急車、25吨積有蓋車、30吨積タンク車、(タキ300 及400形式ヲ除ク)、50吨積大物車	常磐線	赤 塚

(61)	鹿島參宮	13.29	15吨積有蓋緩急車、25吨積有蓋車、30吨積タンク車、(タキ300 及400形式ヲ除ク)50吨積大物車	常磐線	石 岡
(62)	筑波	11.49	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、タ1200形式12吨積 タンク車、13吨積タンク車、15吨積タンク車(タム300、400形式 ヲ除ク)、19吨積以上ノタンク車(タサ1、700、1000、タキ200形 式ヲ除ク)セム4000形式15吨積石炭車、15吨積有蓋緩急車、17 吨積無蓋車、25吨積有蓋車及35吨積長物車	常磐線	磐 土 百 岩
(64)	龍崎	12.70	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、13吨積以上ノタンク 車(タム1、100、300、400、タサ1000及タキ200形式ヲ除ク)15 吨積有蓋緩急車、16吨積以上ノ貨車(タキ1、300、シキ80形式 ヲ除ク)但シ17吨積無蓋車ニ積載重量15吨以下ノ場合ニ限り直 通差支ナシ	常磐線	磐 佐
(65)	常總	13.39	タキ50形式タンク車、15吨積有蓋緩急車及25吨積有蓋車	常磐線	磐 取 戸 下
(66)	總武 (大宮梅郷 相運河間)	13.63	15吨積有蓋緩急車及25吨積有蓋車	東北本線	大 宮
	總武 (梅郷運河間)	12.00	ナ1形式活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、13吨積タンク 車、15吨積タンク車、(タム100、300、400形式ヲ除ク)タサ 400形式タンク車、25吨積以上ノタンク車、15吨積有蓋緩急車、 セム4000形式15吨積石炭車、30吨積石炭車、17吨積無蓋車、 25吨積有蓋車、35吨積長物車及50吨積大物車	東北本線	磐 本 橋
(67)	總武 (相船橋間)	13.93	15吨積有蓋緩急車及25吨積有蓋車	常磐線	磐 馬
(68)	銚子	12.00	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、13吨積タンク車、15 吨積タンク車(タム100、300、400形式ヲ除ク)タサ400形式 タンク車、25吨積以上ノタンク車、セム4000形式15吨積石炭車、 15吨積有蓋緩急車、17吨積無蓋車、25吨積有蓋車及35吨積長物車	常磐線	銚 子



	子外 (仲ノ川間)	8.90	下記貨車以下ノモノ 17000形式10種積有蓋車 1、500形式10種積家畜車 1形式10種積通風車、10種積無蓋車	總武 八田 成田 線	喜橋 住木 野崎
(69)	成田	13.64	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	房總 成田 線	谷 居
(71)	小湊	14.20	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	房總 成田 線	非
(72)	秩父	11.50	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、タム580形式10種積タンク車、13種積タンク車、15種積以上ノタンク車(タム300、400、タム1、700、1000、1100形式ヲ除ク)セム4000形式15種積石炭車、15種積有蓋緩急車、17種積無蓋車、25種積有蓋車及35種積長物車	高崎 熊高 客	野
(74)	岩鼻	11.68	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、タム1200形式タンク車13種積以上ノタンク車(タム300、400、5500タム1、700、1000形式ヲ除ク)セム4000形式15種積石炭車、15種積有蓋緩急車、17種積無蓋車、25種積有蓋車及35種積長物車	高崎 倉	野
(75)	上信電氣	13.40	タム580形式10種積タンク車、タム1400形式タンク車、19種積以上ノタンク車(タム1、1000形式ヲ除ク)、セム4000形式15種積石炭車、15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車、30種積石炭車、35種積長物車及30種積以上ノ大物車	高崎 高	野
(79)	武 (鶴田立岩間)	13.62	15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車及35種積長物車	東武 久保 常陸 足	喜橋 住木 野崎
	東 (上記以外ノ區間)	13.00	タム50形式タンク車、15種積有蓋緩急車、25種積有蓋緩急車	東武 常陸 足	喜橋 住木 野崎

				日八 山總 武 龜	老 田 居 袋 戸
(79) ノ 二	越生	13.63	タム200、300形式タンク車、タム50形式タンク車、15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車	東武 鐵道 大 遺 間	々
(79) ノ 三	上毛電氣	13.39	レ2900及5000形式冷蔵車、30種積タンク車(タム300形式ヲ除ク)15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車、35種積長物車及50種積大物車	東武 鐵道 大 遺 間	々
(80)	武藏野	12.05	レ2500、2900及5000形式冷蔵車、13種積タンク車(タム1400形式ヲ除ク)15種積タンク車(タム100、300、400形式ヲ除ク)タム400形式タンク車、25種積以上ノタンク車、セム4000形式15種積石炭車、15種積有蓋緩急車、17種積無蓋車、25種積有蓋車、30種積石炭車、35種積長物車及50種積大物車	山 手 池 線	袋
(81)	武 (川越線)	13.93	30種積タンク車(タム300形式ヲ除ク)15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	中央 本 線	寺 境
	西 (多摩線)	11.45	活魚車、レ2500、2900及5000形式冷蔵車、13種積タンク車、15種積タンク車(タム300、400形式ヲ除ク)19種積以上ノタンク車(タム1、700、1000、タム200形式ヲ除ク)15種積有蓋緩急車、セム4000形式15種積石炭車、17種積無蓋車、25種積有蓋車及35種積長物車	中央 本 線	川 島
(83)	青梅電氣	13.63	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	中央 本 線	川 島
(84)	五日市	13.93	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	中央 本 線	川 島



							八	高	線	島
							拜	島		
(86)	東京横濱電鐵	13.00	タム1400形式13種積タンク車、タム200及500形式15種積タンク車、タキ2500形式25種積タンク車、30種積タンク車、15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車、チキ1500形式35種積長物車	横濱線	名					
(87)	日黒蒲田電鐵	13.00	タム1400形式13種積タンク車、タム200及500形式15種積タンク車、タキ2500形式25種積タンク車、30種積タンク車、15種積有蓋緩急車、25種積有蓋車、チキ1500形式35種積長物車	京濱線 田園調布	布					
(90)	鶴見臨港	13.00	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	東海道 濱川	崎					
(91)	南 部	13.63	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	東海道 新鶴見線 中央立	崎 川					
(93)	神 中	13.93	15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	東海道 保土線	谷					
(94)	相 模	13.40	タキ50形式タンク車、15種積有蓋緩急車及25種積有蓋車	東海道 茅渚橋	崎 本					
(96)	駿豆鐵道	13.39	30種積タンク車(タキ300形式ヲ除ク)、15種積有蓋緩急車	東海道 三本線	島					

備 考

- (1) 本表ハ昭和十二年三月末日迄ニ製作サレタル貨車ニツキ調査サレタルモノナルヲ以テ同日以降ニ於テ落成シタル新形式車ハ下記各條件ヲ具備シタル場合ヲ除キ直通セシムベカラズ
- (1) 在來直通セル貨車ニ比較シテ其ノ軸重大ナラズ且各軸距及最端車軸中心ヨリ連結面迄ノ水平距離小ナラザルコト
- (ロ) 最大輛員カ2744耗ヲ超過セザルコト
- (2) 昭和十二年三月末日以降ニ落成シタル新形式貨車次ノ如シ

- シキ20形式50種積大物車、シキ 100形式80種積大物車、セム4500、6000形式15種積石炭車、ワラ 25000形式 8 種積有蓋緩急車、トム11000、19000、50000形式15種積無蓋車、トラ 4000形式17 種積無蓋車、チキ 800形式25 種積長物車、タム40形式14種積タンク車、タム3000、4000、5000形式15種積タンク車、タサ1200、2100、2500、3000形式 20種積タンク車、タキ300形式30種積タンク車、タキ4000形式35種積タンク車
- (3) 雪掘車、檢重車、操重車、80種積大物車及水槽車直通運轉ノ必要アル場合ハ經向ヲ要スルモノトス
- (4) 本表中貨車ノ制限寸法ハ積載貨物ニ對シテ之ヲ準用ス
- (5) 連絡驛ハ貨車直通運轉ヲ爲シ得ル驛名ノミヲ掲上ス、但シ省線ト直接連絡セサルモノニ在リテハ經由連絡線名並其連絡驛名ヲ掲グ
- (6) 連絡線配列順位ハ昭和五年三月鐵道省告示第六八號運帶運輸ヲ爲ス鐵道、軌道及鐵路並運帶運輸範圍ノ順位ニ依ル

別表其ノ二

省線内へ直通運轉ヲ爲シ得ル地方鐵道及軌道所屬貨車

連絡番號	鐵道及軌道	車 種	記號	番 號	輛數	荷重	石炭荷重	記 事
(50)	東 野	有 蓋 車	ワ	1-5 10-14	10	10	—	
	"	無 蓋 車	ト	1-5	5	10	7	
		計			15			
(58)	湊	有 蓋 車	ワ	2-5	4	10	—	
	"	無 蓋 車	ワム	6-8	3	15	—	
		計			7			
(60)	茨 城	有 蓋 車	ワ	301-312	12	10	—	
	"	無 蓋 車	ト	501-506	6	10	—	
		計			18			
(61)	鹿島參宮	有 蓋 車	ワ	11-15, 30, 31	7	10	—	
		計			7			



(62)	筑波	有蓋車	ワト	20-24	5	10	—
	"	無蓋車	"	1, 3-6, 8-10	8	10	7
	"	"	ト	20-22, 24-34	14	10	9
	"	計	ト	40-59	20	15	10
(64)	龍崎	有蓋車	ワ	2	1	10	—
	"	"	ト	13, 14	2	15	—
(65)	常陸	有蓋緩急車	ワ	100-148	48	10	—
	"	有蓋緩急車	ワ	103-105	3	10	—
	"	無蓋車	ト	1-12	12	10	8
	"	"	ト	13-18	6	12	9
	"	"	ト	19-88	70	15	15
	"	無蓋緩急車計	ト	3-6	4	12	12
(66)	總武	有蓋車	ワ	101-110	10	10	—
	"	"	ト	11-13.51	4	15	—
	"	無蓋車	ト	101-105	5	10	9
	"	計	ト	11-13.51	4	15	15
(69)	成田	有蓋車	ワ	1-7	7	10	—
	"	無蓋車	ト	6-10	5	10	8
	"	計	ト	11	1	15	15

(71)	小湊	有蓋車	ワ	1-3	3	15	—
	"	無蓋車	ト	1-10	10	15	10
	"	計	ト	11-15	5	15	11
(72)	秩父	有蓋車	ワ	1-18	18	10	—
	"	"	ト	30-46.	37	10	—
	"	"	ト	51-65	15	15	—
	"	鐵製有蓋車	ト	101-115	6	15	—
	"	鐵側有蓋車	ト	1-6	40	15	—
	"	有蓋緩急車	ト	151-190	3	10	—
	"	無蓋車	ト	8-10	18	10	7
	"	"	ト	1-17.	2	10	—
	"	"	ト	21	18	10	—
	"	"	ト	25-26	2	10	—
	"	"	ト	70-89.	60	15	15
	"	計	ト	101-140	201		
(75)	上信電氣	有蓋車	ワ	1-10.	13	10	—
	"	鐵製有蓋車	ト	101-103	3	12	—
	"	無蓋車	ト	1-3	15	16	9
	"	計	ト	1-15	31		
(79)	東武	有蓋車	ワ	1-4	241	10	—
	"	"	ト	6.			
	"	"	ト	7			
	"	"	ト	26-33			
	"	"	ト	18-24			
	"	"	ト	36-45			
	"	"	ト	47-59			
	"	"	ト	61-78			
	"	"	ト	80-106			
	"	"	ト	108-116			
	"	"	ト	118-127			
	"	"	ト	129			
	"	"	ト	131-148			
"	"	ト	150-155				
"	"	ト	201-212				
"	"	ト	251-258				
"	"	ト	214-225				



"	鐵側有蓋車	ス△	261. 262 301-328. 330-375	30	10	—
"	"	ス△	1-3	80	15	—
"	鐵製有蓋車	テ	501-510 521-590	32	10	—
"	"	"	1-32	117	10	—
"	無蓋車	ト	101-168 201-249	52	8	7
"	"	"	1. 6. 7. 12-14. 16 22-26. 28. 31-34. 36 203. 207. 210. 213-218 401-410 701-703. 706 707. 711-713. 715 752-754. 760. 761. 763	17	10	—
"	"	"	{ 39. 40. 42-46. 48. 51. 54 55. 60-62. 64. 756. 757	7	7	—
"	"	"	101-106. 110	80	"	6
"	"	"	301-360. 601-620	118	12	9
"	"	"	{ 361-377. 203. 207. 219. 213-218	1	10	8
"	無蓋緩急車	ト△	374	230	15	15
"	"	"	801-950 1001-1080	90	15	10
"	"	"	1501-1590	92	15	12
"	"	"	1601-1642 1701-1750	15	12	12
"	"	ト△	801-815	15	12	12
"	"	ト△	701	1	10	7
"	"	ト△	901-910	10	12	8
"	"	チキ	1-3 11-13	6	25	—
"	"	チキ	1-3	3	12	—
"	礦石車	ラ	4-10 51-55 61-68	20	13	—

(79) 三	上毛電氣	無蓋車計	ト	21. 22	2	10	7	
"	武藏野	有蓋車	ワ	1-4	4	10	—	私有車
"	"	"	"	5-9	5	10	—	"
"	"	無蓋車	ト△	1-76	76	10	7	
"	"	"	"	1-7	7	15	—	
"	"	"	"	101-200	100	15	12	
"	"	無蓋緩急車	ト△	1-10	10	13	10	
"	"	長物車	チ	1-6	6	10	—	
"	"	礦石車	キ	1-8	8	25	—	
"	"	礦石緩急車計	ラサ	1. 2	2	23	—	私有車
"	"	"	"		218			"
(81)	西(川越線) " 武 " 西(多摩線) " "	有蓋車 無蓋車 計	ワ ト△ "	1-9. 11. 12 101-120 1-9 10-16. 16-29	11 20 9 19 59	10 15 14 15	— 15 8 9	
	青梅電氣	有蓋車	ワ	1-5	5	10	—	



(83)	"	鐵製有蓋車	チ	1		1	"	—		
	"	無蓋車	トム	1-77	101-120	134	15	11		
	"	"	"	701-720	1201-1205	42	"	12	私有車	
	"	"	"	501-522	601-620	30	"	"		
	"	"	"	901-930		30	"	"		
	"	長物運計	トサ	1001-1030		5	24	17		
	"	"	チ	1-5		1	10	—		
	"	士	リ	801		248	10	—	私有車	
	(84)	五日市	鐵製有蓋車	ナム	200-203		4	15	—	
		"	有蓋車	ナム	101. 102. 301. 302		4	"	—	
"		有蓋緩急車	ワフ	300		1	10	—		
"		"	"	305. 306		2	7	—		
"		"	ワフ	700		1	10	—		
"		無蓋車	ナム	{ 501-506	801-806	19	15	15		
"		"	"	{ 901-903	1201-1204	7	15	15		
"		"	"	1205-1211		2	10	9		
"		"	トム	601. 602		8	15	15		
"		"	トム	701-708		1	25	—		
鶴見臨港	有蓋車	ワ	3101-3115		15	10	—			
	"	"	3001-3003		3	15	—			
	鐵製有蓋車	ナム	4001-4010		10	15	—			
	鐵製有蓋車	ナム	5001-5030		30	"	—			

(90)	"	"	チ	5501-5580		80	12	—		
	"	鐵製有蓋車	ワフ	21. 22		2	10	—		
	"	無蓋車	ナム	2001-2035		35	15	15		
	"	大物車	トム	1001-1010		10	17	17	私有車	
	"	"	ナム	100		1	15	—		
	"	"	ナム	300		1	30	—		
	"	計	シキ	200		1	35	—		
	(91)	南	有蓋車	ワ	1-8		8	10	—	
		"	"	ナム	101. 102. 301. 302		4	15	—	
		"	鐵製有蓋車	ナム	200-203		4	15	—	
"		有蓋緩急車	ワフ	300		1	10	—		
"		"	ワフ	305. 306		2	7	—		
"		"	ワフ	700		1	10	—		
"		無蓋車	ト	1-20	36-40	27	10	7		
"		"	ト	456. 457		2	10	9		
"		"	ナム	101 150. 701 708 801 806		64	15	15		
"		計	トキ	3000		1	25	20		
(93)	神	有蓋車	ワ	121	122	2	10	15		
	"	無蓋車	ナム	250	251. 275-292	20	15	15		
	"	計	ナム	500-516. 600-619		37	15	11		



(94)	相模	有蓋車	ワ	11-14	4	10	1	
	"	有蓋緩急車	ワ	31	1	10	1	
(94)	"	無蓋車	ワ	56-196	146	15	10	
	"	無蓋緩急車	ワ	1-6	6	12	9	
(96)	駿豆鐵道	有蓋車	ワ	1-6	6	10	1	
	箱根遊船	有蓋緩急車	ワ	3.4	2	10	1	
(96)	"	無蓋車	ワ	9-10	19	10	7	
	"	無蓋緩急車	ワ	12-21	19	10	7	
		計		23-29	27			

備考 (1) 本表ノ貨車ニハ車體兩側ニ標記シタル番號ノ下ニ幅二分ノ一吋ノ白線ニ條ヲ標記シテリ  
(2) 本表貨車ノ各部使用限度寸法ニ關シテハ特ニ指定セラレタル場合ノ外當省ノ規程ヲ適用スルモノトス  
(3) 記事欄中私右車トアルハ當該連帶線ニ車籍ヲ編入セル貨車ヲ謂フ  
(4) 連帶線配列順位ハ昭和五年三月鐵道省告示第六八號連帶運輸ヲ爲ス鐵道、軌道及鐵路並連帶運輸範圍ノ順位ニ據ル

(參考) 連帶運輸ヲ爲ス地方鐵道及軌道業者所有貨車ノ検査並  
省構内運輸ニ關シ昭和六年十二月運輸局運輸課長ヨリ左記ニ  
依リ取扱フコトニ通知アリタリ

- 一 直通貨車ノ各種検査期限ハ凡テ省客貨車検査規程ヲ適用  
スルモ非直通貨車ニ對シテハ之ヲ適用セサルモノトス
- 二 検査期限ヲ經過セル直通貨車又ハ非直通貨車ト雖共同使  
用驛ニ於ケル共同使用区域内ノミノ運輸並隣接社線相互間  
ニ直通運輸ノ爲省構内横斷ノミノ場合ハ之ヲ禁止シ得サル  
モノトス但シ車輛ノ狀態著シク不良又ハ變則ニシテ運輸上

- 危險ノ虞アルト認メラルモノハ當然禁止スヘキモノトス
- 第二項省構内運輸ノ爲ノ検査ハ省社何レニ於テモ施行セ  
サルモノトス但シ検査又ハ修繕ノ必要ヲ認メタル場合ハ會  
社ニ對シ之カ施行方要求スルモ差支ナシ

## 第十編 貨物・運送

### 五〇、貨物輸送手續(拔萃)

(昭和一五、三、一九  
達第一七四號)

#### 第一章 總 則

第一條 省所管ノ鐵道及航路ニ於ケル貨物輸送ニ關シテ

ハ別段ノ定アルモノヲ除キ本手續ニ依ルヘシ

鐵道局長ハ本手續ニ依リ貨物輸送細則ヲ定ムヘシ

(註) 一 小口扱貨物及省管自動車線ノ貨物輸送ニ付テハ特ニ  
指示アル場合ノ外本手續ヲ適用セス

(註) 二 「別段ノ定」ノ主ナルモノ左ノ如シ

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 規定事項                 | 規程ノ名稱                                     |
| 貨主及鐵道ノ權利義務ニ關<br>スル事項 | 鐵道營業法、鐵道運輸規程                              |
| 貨物取扱ニ關スル事項           | 貨物運送規則、同 細則                               |
| 火藥類ノ運送ニ關スル事項         | 火藥類鐵道運送規程                                 |
| 軍用及特殊ノ運送ニ關スル<br>事項   | 鐵道軍事供用令、鐵道軍事<br>輸送規程、特殊貨物運送手<br>續、車運車取扱手續 |
| 小荷物、貨物ノ運送ニ關ス<br>ル事項  | 小荷物扱貨物取扱手續                                |
| 連絡運輸ニ關スル事項           | 内地連絡運輸規則、内地連<br>絡運輸取扱細則                   |
| 車輛貸渡ニ關スル事項           | 車輛貸渡及使用規則                                 |

列車運輸ニ關スル事項

車輛輸送上ノ換算ニ關スル  
事項

車輛ノ稱號ニ關スル事項

車輛ノ検査ニ關スル事項

潤大貨物類ノ検査ニ關スル  
事項

車輛ノ掃除ニ關スル事項

(註) 三 本手續其ノ他ニ定ナキ事項又ハ異例ノ取扱ヲ爲スヘ  
キ事項ニ關シテハ上長ノ指示ヲ受ケルコト

第二條 本手續ノ用語ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

- 一 運輸事務所 運輸事務所及鐵道局出張所
- 二 驛 驛、營業所、操車場及信號場
- 三 運輸事務所長 運輸事務所長及鐵道局出張所長
- 十三 軍用貨物 特殊貨物運送手續、第一條第五  
號ノ貨物
- 十四 供用令貨物 軍用一車積貨物中軍隊若ハ軍人



カ携行シ又ハ之ニ於テ運送スルモノ

- 十五 小口貨物 小口扱及小口軍用貨物扱
- 十六 車 扱 車扱及一車積軍用貨物扱
- 二十 專屬貨車 鐵道局ニ專屬セル貨車
- 二十一 專用貨車 期間及運用區間ヲ指定シ一定ノ貨物運送ニ專用セル貨車

- 二十二 私有貨車 省ニ車籍ヲ編入シアル省外者所有ノ貨車(社線以外ノ省部外ニ貸渡セル省所屬貨車ヲ含ム)
- 二十三 特種貨車 二十五種積有蓋車、冷藏車、通風車、家畜車、車運車、長物車、大物車、專屬貨車、專用貨車、私有貨車及社線所屬貨車

- 二十四 普通貨車 特種貨車ニアラザル貨車
- 二十五 小形貨車 標記種數十種以下ノ貨車
- 二十六 大形貨車 小形貨車ニアラザル貨車
- 三十一 修繕車 修繕、修繕待合及試運轉中ノ貨車

第三條 貨物運送ニ關シテハ特定アルモノヲ除キ各鐵道局間ハ運輸局、各運輸事務所間ハ所管鐵道局、各驛間ハ所管運輸事務所ニ於テ其ノ手配ヲ爲スヘシ

運輸局ハ一鐵道局管内ノ輸送ト雖モ他ノ鐵道局管内又ハ一般ノ輸送ニ關係アリト認ムル場合ハ鐵道局ニ對シ其ノ處置ニ付指示スルコトアルヘシ、鐵道局ノ運輸事務所ニ對スル場合亦之ニ準ス

貨物輸送ニ關スル手配ハ運輸局ニアリテハ配車課長、鐵道局ニアリテハ運輸部長ニ於テ爲スヘシ

第五條 貨物ノ輸送順序ハ各扱種別ニ付左ノ各號ノ順位ニ依リ其ノ取扱順序ニ從フヘシ

- 一 死體、危險品(隣寸、油紙油布類、鑛油原油、カーバイト、生石灰「燒成ドロマイトヲ含ム、以下同ジ」ヲ除ク)
- 二 動物

- 三 野菜(茄デタルモノ及乾シタルモノヲ除ク) 茸類(乾シタルモノヲ除ク) 蒟蒻玉、果物(乾シタルモノヲ除ク) 百合根、球根類、苗、苗木、黃蜀葵ノ根桑ノ葉、冷凍鱈、乳、バター、冷凍肉、鳥卵、魚介類(鹽シタルモノ及乾シタルモノヲ除ク) 氷、固形炭酸(ドライアイス)、燒竹輪、ハンペン、蒲鉾、生繭
- 四 前各號以外ノ貨物

### 第二章 貨車

第十四條 貨車ハ貨物ノ品種ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ使用

### スヘシ

一 有蓋車(二十五種積有蓋車ヲ除ク)

本貨車ハ密封保護ヲ要スルカ、若ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ(罐入密封ニアラザル生石灰ヲ除ク)又ハ火氣ニ感ジ易キ貨物及動物ノ運送ニ使用スヘシ但シ制動機、(車側制動機及縮切コックヲ縮切リタル空氣制動機ヲ除ク)ノ取付アル有蓋車ハ危險品包裝表第三十一號ノ荷造ニ依ルニ硫化炭素ノ運送ニ使用スルコトヲ得ス又側妻板ノ外部鐵製ノ有蓋車ハ鐵製有蓋車及鐵側有蓋車共不足ノ場合ニ限り運輸事務所ノ指示ヲ受ケ罐入密封ニアラザル生石灰ノ運送ニ使用スルコトヲ得

二 二十五種積有蓋車

本貨車ハ小口貨物ノ運送ニ使用スヘシ、但シ運輸局ノ指示ヲ受ケ軍用貨物ノ運送ニ使用スルコトヲ得

三 鐵側有蓋車

本貨車ハ動物、硫化銅鑛及硫化鐵鑛ノ燒鑛以外ノ貨物ニシテ密封保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アリ

ルモノ若ハ火氣ニ感ジ易キ貨物ノ運送ニ使用スヘシ

第一號第一項但書前段及第一號第二項ノ規定ハ本貨車ニ之ヲ準用ス

四 鐵製有蓋車

本貨車ハ生石灰ノ運送ニ使用スベシ、但シ餘裕アル場合ハ鐵側有蓋車ニ代用スルコトヲ得

五 冷藏車

本貨車ハ左ノ貨物ノ運送ニ使用スヘシ但シ積合車又ハ代用車トシテ使用セントスル場合ニ鐵道局ノ承認ヲ受クヘシ

イ 第五條第一項第三號ニ指定セル貨物及生乾又ハ薄鹽ヲ施セル魚介類ニシテ冷藏輸送ヲ爲スモノ

ロ 生果、生野菜、壘詰酒類、清涼飲料水等ニシテ冬期ニ於テ保溫輸送ヲ爲スモノ

ハ 鮮魚介類又ハ牛乳ノ空容器ニシテ空車ノ廻送ヲ利用スルモノ

本貨車ハ運輸局ノ指示スル期間及區域ニ限り有蓋車ニ代用スルコトヲ得、但シ石炭類、石類、鑛石類、木材、動物、藥品類、鑛油及タール類、動植物性油脂、石灰、土管、煉瓦、セメント、汚穢品、危險品及貨車ヲ損傷スル虞アル貨物ノ運送ニハ之ヲ使用スルコトヲ得ス



六 通風車

本貨車ハ第五條第一項第三號ニ指定セル貨物及身欠  
鍊ニシテ通風輸送ヲ爲ス場合ニ使用スヘシ  
本貨車ハ運輸局ノ指示スル期間及區域ニ限り有蓋車  
ニ代用スルコトヲ得但シ動物、藥品類、鑛油及ター  
ル類、汚穢品、危險品及貨車ヲ汚損スル虞アル貨物  
ノ運送ニハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

七 家畜車

本貨車ハ牛、犢、其ノ他ノ獸類(馬ヲ除ク)ノ運送  
ニ使用スヘシ但シ運輸事務所ノ指示ヲ受ケ豚積車、  
家禽車、通風車ノ本來ノ使用目的ニ代用シ又運輸局  
ノ指示スル區間及區域ニ限り有蓋車ニ代用スルコト  
ヲ得

八 豚積車

本貨車ハ豚、緬羊、山羊及羊ノ運送ニ使用スヘシ  
但シ廻送利用ノ場合又ハ餘裕アル場合ハ有蓋車ニ代  
用スルコトヲ得

九 家禽車

本貨車ハ家禽及其ノ返送容器ノ運送ニ使用スヘシ  
但シ廻送ノ利用ノ場合又ハ餘裕アル場合ハ第五號第  
二項ニ準シ使用スルコトヲ得

十 活魚車

類、彈藥箱ニ格納シ銃砲ト混載スル場合ノ火藥類、  
陸軍用瓦斯罐車ニ搭載シタル圧縮ガス、自動車ノ貯  
油槽又ハ軍用配給車ニ收納シタル揮發油及火藥類鐵  
道運送規程第九條第一項但書ニ定ムル場合ヲ除ク)  
容器ニ容レザル動物  
死體

無蓋車ニ依リ重量大ナルカ又ハ濶大ナル貨物ヲ運送  
セントスル場合ハ著驛ノ作業ニ支障ナキコトヲ確認  
シタル場合及第十六條ニ依ル場合ヲ除キ側板總開キ  
ノモノヲ使用スヘシ

十六 石炭車

本貨車ハ特殊ノ取卸設備ヲ有スル驛著ノ石炭ノ運送  
ニ使用スヘシ但シ廻送利用ノ場合又ハ餘裕アル場合  
ハ著驛ノ取卸作業ニ支障ナキコトヲ確認シタル上鐵  
道局ノ承認ヲ受ケ無蓋車ニ代用スルコトヲ得

十七 土運車

本貨車ハ土、砂、砂利、石材等ノ運送ニ使用スヘ  
シ

十八 長物車

本貨車ハ他ノ貨車ニ積載スルコト至難ナル長尺ナル  
カ又ハ濶大ナル貨物ノ運送ニ使用スヘシ但シチサ一  
〇〇號形、チム一〇號形及チラー、三〇、八五號形

本貨車ハ魚介類其ノ他ノ貨物ヲ水ニ活カシテ運送ス  
ル場合ニ使用スヘシ

十一 車運車

本貨車ハ有蓋車ニ準ジ使用スヘシ 但シ必要アル場  
合ハ特殊ノ積卸設備ヲ有スル驛間發著ノ馬車、自動  
車其ノ他ノ車輛類ノ運送ニ使用スヘシ

十二 陶器車

本貨車ハ陶器類、其ノ他棚裝置ヲ必要トスル貨物ノ  
運送ニ使用スヘシ但シ廻送利用ノ場合又ハ餘裕アル  
場合ハ有蓋車ニ代用スルコトヲ得

十三 タンク車

本貨車ハ油類、硫酸、アンモニア、クレオソート等  
専用標記ニ應シタル貨物ノ運送ニ使用スヘシ

十四 水槽車

本貨車ハ水ノ運送ニ使用スヘシ

十五 無蓋車

本貨車ハ施封ノ要ナク雨浸又ハ火氣ヲ厭ハサル貨  
物、有蓋貨車ニ積載シ得サル長尺又ハ濶大ナル貨物  
及有蓋車積ト爲スヘキ貨物ヲ同車不足ノ爲無蓋貨車  
積トシテ運送スル場合ニ使用スヘシ但シ左ノ貨物ノ  
運送ニ使用スルコトヲ得ス

危險品(發煙硝酸、陸軍用彈藥車ニ搭載シタル火藥

長物車ハ専ラ木材ノ運送ニ使用スヘシ本貨車ハ廻送  
利用ノ場合又ハ餘裕アル場合ハ運輸事務所ノ承認ヲ  
受ケ無蓋車ニ代用スルコトヲ得

十九 大物車

本貨車ハ他ノ貨車ニ積載シ得サル濶大ナルカ又ハ重  
量大ナル貨物ノ運送ニ使用スヘシ但シ餘裕アル場合  
ハ運輸局ノ承認ヲ受ケ長物車ニ代用スルコトヲ得

二十 準貨車(車掌車ヲ除ク)

本貨車ハ左記ニ依リ使用スヘシ

イ 雪掻車ハ線路除雪用

ロ 控車ハ船車連絡地點及組立驛構内ノ入換作業用  
控車

ハ 檢重車ハ橋秤ノ檢査又ハ橋梁ノ耐重檢査用

ニ 操重車ハ橋梁ノ架設、軌條ノ敷設又ハ事故ノ救  
援用

二十一 緩急車(車掌車ヲ含ム、以下特ニ區分セサル  
場合亦同シ)

本貨車ハ列車乗務員ノ乗務用ニ使用スヘシ  
前項ノ目的ニ使用スル緩急車ニハ左記ニ依リ貨物ノ  
積載ヲ爲スコトヲ得

イ 有蓋緩急車ハ小口貨物

ロ 無蓋緩急車ハ無蓋車ニ準シ一般貨物



ハ 石炭緩急車ハ石炭車ニ準シ石炭

(註)一 空氣制動筒付貨車ニ空氣制動機ノ締切コックヲ締切リテ  
ニ硫化炭素ヲ積載シタル場合ハ「コック締切」ト朱書シタル  
荷札ヲ締切コックノ把手ニ附スルモノトシ着驛ニ於テハ  
貨物取卸後直ニ締切コックヲ開放シ右ノ荷札ヲ撤去スルコ  
ト

(註)二 罐入密封ニアラサル生石灰ノ運送ニ對シ鐵側有蓋車ヲ使  
用スル場合ハ雨漏ノ虞ナキ貨車ナルコトヲ貨物掛ニ於テ確  
認スルコトヲ要ス、又鐵製有蓋車及鐵側有蓋車共不足ノ爲  
側妻板ノ外部鐵製ノ有蓋車ヲ代用スル場合ハ天候ヲ見計ヒ  
成ルヘク近距離行ニ充當スルコト

(註)三 硫化銅鐵及硫化鐵鐵ノ燒鐵ニ無蓋車ヲ使用スル場合ニハ  
車内ニ建ノ如キモノヲ敷詰メテ積載シ且完全ナル覆布ヲ使  
用シ雨水ノ浸入及硫酸液ノ浸蝕ヲ防止スルコトヲ要ス、但  
シ荷造ヲ施シタル場合ハ前段ノ處置ヲ爲ササルコトヲ得

(註)四 有蓋車ニ貨物ヲ「バラ積」トスル爲車扉ヲ圧セサル施設  
ヲ爲ス場合ハ左記ノ注意ヲ要ス  
イ 取付ノ際蓋ニ貨車ニ釘又ハ錠ヲ打込マシメサルコト  
ロ 着驛ニ於テハ貨車ヲ毀損セサル方法ニ依リ直ニ撤去ス  
ルモノトシ釘又ハ木片ノ撤去洩レナキ様注意スルコト  
ハ 施設物ノ取付及撤去ハ貨物ノ積卸力貨主ノ負擔ナル場  
合ハ貨主ヲシテ施行セシムルコト  
(註)五 有蓋貨車ニ依リ開扉輸送ヲ爲ス場合ニ於テハ車扉ノ移動

及積載貨物ノ落失ヲ防止スルタメ相當ノ施設ヲ要スルコト  
固ヨリナルカ右ノ場合ニ於テモ前號同様ノ注意ヲ要ス  
(註)六 米穀ハ成ルヘク左記形式ノ貨車ニ又揮發油ハ鐵製有蓋  
車、鐵側有蓋車、若ハ側妻板ノ外部鐵製ノ有蓋車ニ積載ス  
ルコト  
ワム二〇〇〇〇號、二一〇〇〇號及二三〇〇〇號形式、ワ  
二二〇〇〇號形式  
(註)七 冷藏車、通風車、家畜車、豚積車、家禽車及陶器車ニ對  
スル本來使用目的トハ左ノ場合ヲ謂フ  
第五號第一項、第六號第一項、第七號本文及但書前段、第  
八號本文、第九號本文及第十二號本文  
(註)八 土運車、水槽車及省有ノタンク車ハ省用品ノ運送ニ使用  
スルコト  
(註)九 貨車ハ使用ニ先テ着驛到達迄ニ仕立検査期限ヲ經過セサ  
ルモノナルヲ確認スルコト

第十五條 冷藏車、通風車、豚積車、活魚車又ハ陶器車  
等ヲ使用シテ所定ノ貨物ヲ運送スル場合ハ取扱上入念  
慎重ヲ期シ當該貨車ノ特殊機能ヲ發揮セシムルコトニ  
努ムヘシ

(註)一 冷藏車ノ水槽ニハ冷却素以外ノモノヲ積載セサルコト  
(註)二 冷藏車ヲ使用シテ冷藏輸送ヲ爲ス場合ハ左記ニ依ルコト  
イ 使用ニ先テ車内清潔ニシテ積載貨物ニ感染ノ虞アル臭

氣ナキコトヲ確認スルコト

ロ 特ニ低溫ヲ要スル貨物輸送ノ場合及高溫ノ季節ニ於テ  
ハ貨物積込相當時間前水槽又ハ車内ニ冷却素ヲ用ヒ豫冷  
ヲ行フコト

ハ 水槽ニ冷却素ヲ容レル場合ハ氷ノ附着物ヲ取除キ鶏卵  
大ニ碎キ冷却力ヲ強化スル必要アル場合ハ碎氷ノ二割程  
度ノ鹽ヲ混和スルモノトシ、レ二九〇〇號形冷藏車ニ  
アリテハ水槽ノ排水管カ閉塞セサルコトヲ確認シ金屬製  
ニアラサル棒狀ノモノニテ碎氷ヲ水槽ノ四隅ニ詰込ムコ  
ト

ニ 排水管末端ノ排水受皿及レ二九〇〇號形冷藏車中車内  
排水管首ニ覆蓋ノ設ケアルモノハ之ヲ完全ニ取付ケ置ク  
コト

ホ 車扉ノ密着ヲ缺ク場合ハ間隙ニ古綿若ハバテノ類ヲ當  
テ又ハ建付口ニテプノ類ヲ貼付シ外氣ノ侵入及ドライ  
アイスヲ冷却素トシテ使用セル場合ニ於ケル炭酸ガスノ  
逸出ヲ防止スルコト

ヘ ドライアイスヲ使用シテ冷藏輸送ヲ爲ス場合ハ成ルヘ  
クレ二五〇〇號形冷藏車ヲ使用スルコト  
此ノ場合豫メ受持検査區長ニ通知シ車輛ノ検査ヲ受クル  
コト

ト レ二五〇〇號形冷藏車ノ水槽ニハ冷却素トシテドライ  
アイスノミヲ使用スルモノトシ先ツ水槽内ニ紙片其ノ他  
通氣ヲ妨クルモノ、殘留セサルコトヲ確認シタル後ドラ

イ アイスヲ容レルコト

チ ドライアイスハ約四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ、右ノ程度ヲ超ユル遠距離輸送ニハ古  
新聞紙ノ類ヲ以テ適度ニ之ヲ包ミ氣化ヲ抑制スルコト

リ ドライアイスヲ使用シタル冷藏車ノ荷卸ヲ爲ス場合ハ  
車扉ヲ開キテ車内ノ瓦斯ヲ放散セシメタル後取卸ヲ開始  
シ其ノ終了後排水口ノ詰物古新聞紙其ノ他ヲ除去シ且通  
氣路底部ノ排水コックヲ開キ溜水ヲ排出スルコト

ヌ 冷藏車ヲ代用車トシテ使用シ施設セシメテ運行セシム  
ル場合ハ針金ヲ以テ把手ヲ鎖錠桿ニ緊縛シ運轉中ノ開扉  
ヲ防クコト

(註)三 冷藏車ヲ使用シテ保溫輸送ヲ爲ス場合ハ左記ニ依ルコト  
イ 使用ニ先立チ水槽ニ氷其ノ他冷却素ノ殘留セサルコト

ヲ確認シタル後排水管ニ適當ナル詰物ヲ施シテ外氣ノ侵  
入ヲ防キ積込前炭火ノ類ヲ以テ車内ヲ温メ積込ヲ終リタ  
ルトキハ直ニ車扉ヲ閉鎖スルコト、尙積込作業ノ爲開扉  
中車内ノ溫度著シク低下セル場合又ハ甚シク冷却シタル  
貨物ヲ積載シタル場合ハ開扉前更ニ車内ヲ温ムルコト  
車内ニ持込タル炭火ノ類ハ貨物積込前又ハ貨車閉扉前撤  
去スルコト

ロ 輸送中ノ保溫ノミニ止メスシテ貨物發着兩地ニ於ケル  
小運送及保管ニ付テモ凍結防止ヲ考慮スルコト  
ハ 生野菜ノ保溫輸送ヲ爲ス場合ハ蒸熱ニ依ル損傷ヲ防ク  
爲成ルヘク同一種類ノモノヲ輕積トシ積載貨物間ニ空氣



ノ流出ヲ計リ必要ニ應シ床上ニ棧若ハ假床ヲ設ケ又ハ貨物ト貨物トノ間ニ適當ナル柵ヲ挾ムコト  
已ムコトヲ得シテ異種類ノモノヲ混載スル場合ハ塊根類ヲ下積トシ葉菜類ヲ上積トスルコト

(註)四

通風車ヲ使用スル場合ハ左記ニ依ルコト

イ 生果、生野菜等通風ヲ要スル貨物ヲ積載スル場合ハ通風口ヲ閉塞セサル様貨物ヲ配置シ且必要ニ應シ床上又ハ貨物ト貨物トノ間ニ適當ナル柵ヲ挾ミテ通風ノ完全ヲ計ルコト

ロ ツ四〇〇號形通風車ノ柵ヲ裝置セントスル場合ハ柵受支柱ヲ立テタル後柵板ヲ卸シ之ヲ取外ス場合ハ柵板ヲ折疊ミタル後柵上ニ懸ケ柵受支柱ヲ床上ニ收ムルコト  
本貨車ハ荷卸ヲ終リタルトキハ直チニ柵裝置ヲ取外シ置クコト

ハ ツ一四〇〇號形及ツ二五〇〇號形通風車ニ通風ヲ要セサル貨物ヲ積載セントスル場合ハ通風口ヲ閉塞スルコト  
ニ 冬季ニ於テハ新潟、仙臺及札幌鐵道局管内ノ如キ寒冷地帯ニ跨リ運送スル生果、生野菜ニ本貨車ヲ成ルヘク使用セサルコト

(註)五

ウ二〇〇號形豚積車ヲ使用スル場合ハ左記ニ依ルコト

イ 戸口部ノ柵ヲ裝置セントスル場合ハ柵受梁ヲ抽キ出シテ掛金具ニ嵌込ミ柵受梁末端ノ小孔ニ附屬ノピンヲ挿入シテ脱落ヲ防キタル後柵板ヲ卸シ之ヲ取外ス場合ハ柵板ヲ折疊ミタル後柵受梁ヲ柵裏ニ收メ置クコト

スル場合ハ左ノ各號ニ依リ煽戸ノ上部ニ取付アル側板ヲ取外シ積卸ヲ爲スコトヲ得但シ社線行貨物ニ對シ本條ノ取扱ヲ爲サス

一 取外シタル側板ハ貨物ヲ積込又ハ取卸後直ニ復舊スルコト

二 貨物取卸ノ際側板ノ取外シヲ必要トスル貨車ニ付發驛ハ其ノ貨車番號及發送列車ヲ着驛ニ電報スルコト

三 側板ノ取外及取付ハ驛ノ要求ニ依リ檢車區ニ於テ之ヲ爲スコト

(註) 一 トム一九〇〇號形又ハトヲノ如キ側板總開キノ無蓋車不足ノ場合ニ限リ本條ノ取扱ヲ爲スコト

第十七條 シキ六〇號形大物車ハ平素ハ弓形荷受梁ヲ取付ケテ運用シ之ヲ要セサルカ又ハ落込形荷受梁ニ依ル貨物ヲ運送スル場合ニ限リ之カ取外シヲ爲スカ又ハ落込形荷受梁ト取替ヲ爲スモノトス  
前項ノ荷受梁ノ取外シ若ハ取替又ハ之カ復舊ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 弓形荷受梁ノ取外ヲ要スル場合ハ最寄ノ左記工場ニ廻送シ之カ復舊ハ當該取外工場ニ於テ施行スルコト

大井、大宮、名古屋、吹田、鷹取、小倉、苗穂

ロ 戸口柵棒ハ輸送途中給飼作業其ノ他ノ爲之ヲ開ク必要アル場合ノ外必ス之ヲ閉鎖シ戸口柵ニ嵌込シ置クコト

ハ 通風窓ヲ開キ輸送スル場合ハ下方ノ扉ノ上ニ上方ノ扉ヲ重ネ必ス懸金具ニテ止メ置クコト

ニ 荷卸後貯水槽ノ殘溜水ヲ排出スルコト

ホ 廻送スル場合ハ戸口部ノ柵、戸口柵棒、中仕切又ハ車側閉窓等ハ到着状態ノ儘ト爲シ置クコト

(註)六

活魚車ヲ使用スル場合ハ左記ニ依リ取扱フコト

イ 使用又ハ廻送前受持檢車區長ニ通知シ機能ノ検査ヲ受ケ且魚槽内ヲ入念ニ清掃スルノ外通路、附添入室及貯米庫ヲモ清掃スルコト

ロ 到着驛ニ於テハ荷卸後貯水槽及魚槽内ノ水ヲ悉ク排出スルコト

ハ 鹹水ヲ使用シタル場合ハ前號ニ依ルノ外魚槽、貯水槽及送水管ヲ清水ニテ充分清掃スルコト

(註)七

陶器車ヲ廻送スル場合ハ其ノ發驛ニ於テ之ニ附屬スル部分品ノ充備セルコトヲ確認シ施封ノ上發送スルコト

陶器車部分品ノ主ナルモノ左ノ如シ但シ數量力之ト一致セサルモノアルニ付現車ニ付注意スルコト

ポ一號形、柵板七、戸扉板一四、ボ五〇號形、柵板二四、戸扉板一四、柵受金具二

第十六條

トム五〇〇號形又ハトム一六〇〇號形無蓋車(煽戸上部側板カ嵌込式トナリアルモノヲ除ク)

ニ依リ砲車又ハ濶大ナルカ若ハ重量大ナル貨物ヲ運送

二 落込形荷受梁ト取替ノ場合ハ大井工場ニ廻送シ取替及復舊ヲ爲スコト

三 取外、取替、又ハ復舊ノ爲工場ニ廻送スル場合ハ廻送事由及取付若ハ取外後ノ廻送先ヲ運輸局ヨリ當該工場入出場受持檢車區ニ通知スルコト

(註) 一 落込形荷受梁ハ大井工場ニ一箇保存シ六〇號車乃至六二號車共通ニ使用スルコト

(註) 二 工場別入出場受持檢車區ニ付テハ第二百一條註一ニ依ルコト

第十八條 車輛貸渡及使用規則ニ依リ建設、改良工事ニ使用スル貨車(以下單ニ建設、改良工所用貨車ト稱ス)ニ對シテハ「……工所用車」ト記載シタル又建設、工務所屬貨車ヲ營業用トシテ借入シタル貨車(以下單ニ營業用借入車ト稱ス)ニ對シテハ「營業用借入車」ト記載シタル孰レモ長四十五糧、幅七糧ノ木札ヲ車體兩側ニ附スヘシ但シ一鐵道局管内ニ限リ運用スルモノニシテ鐵道局長ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

(註) 一 車輛貸渡及使用規則第一條但書ニ依リ運輸局長ニ協議ヲ要スル貨車ノ種類左ノ如シ

冷蔵車、通風車、家畜車、活魚車、家禽車、豚積車、長物車、大物車



(註) 二 特種貨物運送手續第四十條第一項ニ依ルモノハ建設改良工事用貨車ニ非ス又同條第二項ニ依ルモノハ營業用借入車ト看做スコト

第十九條 貨車運用上必要ナル場合ニ於テ左ノ各號ニ付下記ノ略號ヲ用フルコトヲ得

- 一 ワフ二一〇〇〇號形有蓋緩急車
  - 二 ワフ二五〇〇〇號形有蓋緩急車
  - 三 チキ一號形長物車
  - 四 チキ三〇〇號形長物車
  - 五 チキ一五〇〇〇號形長物車
  - 六 冷蔵車ノ標記噸數十噸以下ノモノ
  - 七 同 十二噸以上ノモノ
- 冷蔵車及通風車ノ構造ヲモ表示スル必要アル場合ハ左ノ略號ニ依ルヘシ

車種	標記噸數	構造別略號
冷蔵車	標記十噸以下ノモノ	懸垂鈎付ノモノ 水槽付ノモノ 水槽ナキモノ レコシ レコウ レコム
	標記十二噸以上ノモノ	天井水槽付ノモノ ドライアイス専用ノモノ 懸垂鈎付ノモノ レオテ レオト レオシ

通風車	標記十噸以下ノモノ	其ノ他ノ水槽付ノモノ 水槽ナキモノ
有蓋車ニ兼用シ得ルモノ 棚付ノモノ	ツ ツ ツ	レオウ レオム

(註) 一 冷蔵車及通風車ノ形式別標記噸數及構造ノ概要左ノ如シ

車種	形式	標記噸數	構造ノ概要其ノ他	略號
冷蔵車	レ一	八	水槽ナシ	レコム
	レ二〇〇	九	同	同
同	レ九〇〇	八	半水槽(懸垂鈎付)	レコシ
	レ一〇〇〇	九	半水槽	レコウ
	レ一三〇〇	一二	同(自一四三〇號車懸垂鈎付至一四六九號車懸垂鈎付其ノ他)	レオシ レオウ
同	レ二二〇〇	一二	全水槽乳運用(東局専用)	レオウ
	レ二三〇〇	一二	同	同
	レ二五〇〇	一二	ドライアイス専用	レオト
	レ二九〇〇	一二	天井水槽	レオテ
同	レ五〇〇〇	一二	水槽ナシ	レオム
	レ一	一〇	同	レオム
通風車	レ四〇〇	一〇	棚付	レオタ
	レ一〇〇〇	一〇	同	レオタ

二四〇

- 同 ツ一三〇〇 一〇 乳運用(札局専用)
- 同 ツ一四〇〇 一〇 有蓋車兼用
- 同 ツ二〇〇〇 一〇
- 同 ツ二五〇〇 一〇 有蓋車兼用

### 第三章 貨車附屬品

#### 第一節 貨車用覆布及綱

第二十三條 覆布ヲ使用スル場合ハ之ヲ以テ貨車ノ各種標示ヲ掩ヒ又ハ連結器、制動機等ノ機能ヲ妨クヘカラス綱ヲ使用スル場合ハ之ヲ懸垂具以外ノ箇所ニ括付クヘカラス

- (註) 一 覆布ノ使用ニ付テハ左記ノ注意ヲ要ス
- イ 貨車車票挿、貨車表示票挿、検査票挿、修繕票挿、貨車記號番號及車側制動機把手等ヲ掩ハサルコト
  - ロ 縁紐ヲ連結器、車側制動機若ハ之等ノ部分品ヲ括付ケサルコト
  - ハ 覆布ノ四隅ハ妻板側ニ折曲グルコト
  - ニ 貨物及貨車ノ尖角ハ必要ニ應シ葦蓆等ヲ當テ覆布ノ裂損ヲ防止スルコト
  - ホ 降雨ニ際シ覆布上ニ雨水ノ溜ラサル様貨物ノ積付及覆布ノ使用ニ注意スルコト
  - ト 輸送中覆布カ續轉セサル様縁紐ヲ以テ緊縛スルコト

### 第四章 貨車々票及貨車表示票

#### 第二節 貨車表示票

第三十八條 貨車表示票(以下單ニ表示票ト稱ス)ノ様式ハ左ノ通りトス

(様式省略)

第三十九條 表示票ハ左ノ區別ニ依リ貨車兩側ノ表示票挿ニ挿入スヘシ

- 一 火藥甲表示票ハ甲種火藥類(小口貨物ヲ除ク)ヲ積載シタル場合ニ用フ
- 二 火藥乙表示票ハ乙種火藥類(小口貨物ヲ除ク)ノミヲ積載シタル場合ニ用フ
- 三 火藥小口表示票ハ小口貨物ノ火藥類二口以下ヲ積載シタル場合ニ用フ
- 四 危險品表示票ハ火藥類以外ノ危險品ヲ積載シタル貨車ニシテ危險品車票ヲ使用シ得サル場合ニ用フ但シ小口貨物ノアセチレンガス又ハ圧縮水素ガスを積載シタル貨車ニ對シテハ、突放禁止表示票ノミヲ用フ
- 五 突放禁止表示票ハ附添人ヲ附シタル場合(甲種ノ

ト 着驛ニ於テ覆布ヲ車上ヨリ撤去スル場合ハ前後左右ヨリ順次疊上ケタル上取卸ヲ爲スモノトシ車上ニ展ケタル儘地上ニ引卸スカ如キ取扱ヲ爲サ、ルコト



鐵道車輛ヲ除ク、車扱ノ壓縮ガス液化ガスヲ積載シ又ハ小口貨物ノアセチレンガス若ハ壓縮水素ガスを積載シタル場合及車扱ノ揮發油ヲ積載シタル場合(タンク車積ヲ除ク)竝ニ特種貨物運送手續第四條ニ依ル貨物ニシテ鐵道局ニ於テ突放入換ヲ危險ト認メ特ニ本表示票ノ使用ヲ指示シタル場合ニ用フ但シ小口貨物ノアセチレンガス又ハ壓縮水素ガスを積載シタル貨車ニ對シテハ(註)ト餘白ニ附記ス

六 列車指定表示票ハ前各號ノ表示票ヲ使用シ得サルモノニシテ貨主ノ請求ニ應ジ輸送列車又ハ連絡船ヲ指定シタル場合及運輸局ニ於テ特ニ本表示票ノ使用ヲ指示シタル場合ニ用フ

表示票使用ノ貨車ニ對シ輸送列車又ハ連絡船ヲ指定サレタル場合ハ當該表示票ノ區間及列車欄ニ指定區間ノ輸送列車及其ノ區間ヲ明瞭ニ墨書スヘシ  
壓縮ガス液化ガスヲ積載シタル貨車(タンク車ヲ除ク)ニハ車扱ノ場合及アセチレンガス又ハ壓縮水素ガスノ小口貨物ノ場合ハ「ガス甲」、アセチレンガス又ハ壓縮水素ガス以外ノ小口貨物ノ場合ハ「ガス乙」ト突放禁止表示票又ハ危險品表示票ノ餘白ニ附記スヘシ  
表示票ハ貨物掛ニ於テ必要ヲ生シタルトキ挿入シ其

專屬セシムベキ鐵道局、車種、番號等ハ運輸局ニ於テ定ムベシ

第六十七條 鐵道局ハ其ノ專屬貨車ニ對シ常備驛又ハ運用方ヲ定ムベシ

專屬貨車ニシテ常備驛ノ定アルモノハ其ノ常備驛ニ返送スヘシ但シ返送順路ニ使用ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
(註) 一 專屬貨車ニハ昭和四年三月達第一五一號塗色及標記方式ニ依リ兩側ニ專屬ノ鐵道局ヲ表ハス文字ヲ標記(門局及札局專屬石炭車ヲ除ク)シ尙常備驛ヲ定メアルモノニハ常備驛名ヲモ標記スルコト

### 第五節 專用貨車

第七十條 專用貨車ニハ「何々區間專用車」又ハ「何驛專用車」ト記載シタル長四十五糧、幅十五糧ノ木札ヲ車體兩側ニ附スヘシ但シ省工用品ヲ運送スルモノ及折返運用ヲ定メタルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得  
(註) 一 標示板ヲ取付ケ難キ貨車ハ第六十七條註一ニ準スルコトヲ得

## 第九章 小口貨物輸送

### 第三節 代用車及緩急車

第一百七條 火藥類ハ成ルヘク途中積換ヲ要セサル有蓋車

ノ用ヲ終リタルトキハ速力ニ取除クヘシ  
(註) 一 貨車ニハ左ノ各號ノ場合ヲ除キ車票及表示票以外ニ木札、紙片等ヲ附シ又ハ所定以外ノ事項ヲ記入スルコトヲ得ス

イ 第十四條註一、第十八條、第四十條、第七十條及第一百三條(代用車多數連結ノ場合ノ順位票)ノ表示ヲ爲ス場合

ロ 特種貨物運送手續第十四條ニ定ムル表示ヲ爲ス場合  
ハ 貨物運送規則第十四條補則五ニ依リ小運送業者ノ送狀又ハ添狀ヲ車票挿(車票裏側)ニ挿入スル場合  
ニ 鐵道局ニ於テ運送上ノ必要ニ依リ特ニ指定シタル場合

第四十條 甲種ノ鐵道車輛ヲ輸送スル場合ハ發著驛名及換算車數ヲ木札ニ記載シ之ヲ車輛兩側ノ見易キ箇所ニ括付クヘシ  
前項ノ表示ハ其ノ用ヲ終リタル後速力ニ取除クヘシ

## 第八章 貨車及貨車附屬品運用

### 第四節 專屬貨車

第六十六條 特種構造ノ貨車又ハ特殊地域ニ限り運用スル貨車ハ必要ニ應ジ鐵道局ニ專屬セシム

ノ代用車ニ積載スヘシ

火藥類ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限り他ノ貨物ト同一ノ代用車ニ積載スルコトヲ得  
一 火藥類ノ容器外部見易キ箇所ニ其ノ品名ヲ明記スルコト

二 他ノ貨車カ容易ニ燃燒シ、自然發火シ腐蝕シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルコト

三 火藥類ノ數量ハ二口以下ナルコト  
(註) 一 火藥類鐵道運送規程中抄録

第七條 火藥類ハ其ノ包裝ノ外部見易キ箇所ニ火藥爆藥又ハ火工品ト赤書シ又ハ赤書シタル標札ヲ附シ且轉輾セシムヘカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スヘシ  
第八條 一車ヲ專用シテ積載スヘキ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得 附添人ハ火藥類ヲ積載シタル貨車ニ乗車スルコトヲ得ス

第九條 以下省略

## 第十章 貨車輸送

### 第一節 通則

第二百二十八條 貨車ノ輸送ニ付テハ左ノ各號ノ取扱ヲ爲スヘシ  
一 貨物ノ積載方又ハ覆布若ハ綱ノ掛方等ノ不完全ナ



ル貨車ハ積直又ハ掛直ヲ爲スコト  
 二 火藥類其ノ他危險品ヲ積載セル貨車ニ對シテハ火氣、臭氣又ハ焦氣等ノ發生ニ注意シ、引火燃焼シ易キモノナルトキハ火氣ヲ接近セシメザルコト  
 第百二十九條 有蓋貨車ハ左ニ掲クル場合ノ外車扉ヲ開キタル儘輸送スルコトヲ得ス  
 一 附添人ノ同乗スル場合  
 二 第五條第二號及第三號ニ定ムル貨物又ハ之ニ準スヘキ腐敗變質シ易キ貨物ヲ積載シタル場合  
 三 危險品包裝表第三十一號ノ荷造ニ依ル車扱ノ二硫化炭素ヲ積載シタル場合  
 四 積合車、代用車又ハ緩急車ニシテ動物其ノ他車扉ノ密閉ヲ避クヘキ貨物ヲ積載シタル場合  
 第百三十條 空車ヲ輸送スル場合ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一 有蓋貨車ハ車扉ヲ閉鎖シ掛金ヲ掛ケ置クコト但シ冷藏車ハ針金ヲ以テ把手ヲ鎖錠桿ニ緊縛シ置クコトヲ要ス  
 二 無蓋車ハ煽戸ヲ定位ニ復シコツターヲ挿入シ置クコト  
 柵柱付長物車ハ柵柱ヲ柵柱受ニ挿入スルコト  
 第百三十一條 左ノ各號ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車

ニ依リ輸送スルコトヲ得ズ但シ貨物列車ノ運轉セサル區間ニ於テハ客車ヨリ六軸以上隔離シテ連結シタル場合一車(二軸)ニ限り混合列車ニ連結スルコトヲ得  
 一 火藥類積車(「火藥乙」「火藥小口」ノ表示票ヲ附シアル火藥類積車ヲ除ク)  
 二 車扱ノ圧縮ガス液化ガスヲ積載シタル貨車(タンク車ヲ除ク)小口扱ノアセチレンガス又ハ圧縮水素ガスヲ積載シタル貨車  
 (註) 一 軍用ニ專用スル列車ニハ本條ヲ適用セス

### 第十一章 貨物輸送ニ關スル帳表

#### 第六節 集配報告

第百八十一條 驛ハ自驛現在及運轉途中ニアル列車ノ連結貨車數ヲ調査シ所管運輸事務所ニ報告スヘシ但シ修繕車ニ付テハ工場、機關區又ハ檢車區ニ於テ調査シ之ヲ鐵道局ノ指定スル驛ニ通報スルモノトス  
 前項ノ調査時刻及報告様式ニ運轉途中ニアル列車ノ連結貨車ニ對スル報告驛ハ運輸事務所ニ於テ定ムヘシ  
 第百二十一條 驛ハ新製貨車落成シ運用車中ニ繰入シタルトキハ其ノ車種及車數ヲ速カニ運輸局所管鐵道局及所管運輸事務所ニ報告スヘシ

(註) 一 車輛製作工場及之カ落成報告責任驛左ノ如シ但シ片途試運轉ニ依リ運用車中ニ繰入レヲ爲スカ如キ場合

ハ本表ニ拘ラス現車ノ引渡ヲ受ケタル驛ヲ報告責任驛トシ試運轉受持檢車區長ハ當該驛長ニ通告スルコト

鐵道局別		工場別		工場名		受持檢車區		報告責任驛	
東京	名古屋	大阪	廣島	省外工場	省内工場	省外工場	省内工場	省外工場	省内工場
大井工場 大宮工場 新小岩工場	新鶴見(大崎派出所) 大宮 錦糸町(新小岩支區)	汽車製造會社東京支店 日本車輛會社東京支店	日本車輛會社熱田工場	鷹取工場 吹田工場 後藤工場	川崎車輛會社 田中車輛會社 梅鉢車輛會社	多度津工場 幡生工場	日立製作所笠戸工場	大宮 大宮 新小岩 小名木川 藤	大崎 大宮 新小岩 小名木川 藤
名古屋 名古屋	金澤	名古屋(熱田派出所)	明石(鷹取支區) 吹田 米子	明石(鷹取支區) 龍華 同右	下關(幡生支區) 高松(多度津派出所)	廣島	名古屋 金澤 大宮 小名木川 藤	熱田 笹島 松任 小名木川 藤	熱田 笹島 松任 小名木川 藤
大井工場 大宮工場 新小岩工場	新鶴見(大崎派出所) 大宮 錦糸町(新小岩支區)	汽車製造會社東京支店 日本車輛會社東京支店	日本車輛會社熱田工場	鷹取工場 吹田工場 後藤工場	川崎車輛會社 田中車輛會社 梅鉢車輛會社	多度津工場 幡生工場	日立製作所笠戸工場	大宮 大宮 新小岩 小名木川 藤	大崎 大宮 新小岩 小名木川 藤



札 幌	仙 臺	新 潟		門 司
		省 外 工 場	省 内 工 場	
省 内 工 場	盛 岡 工 場	新 潟 鐵 工 所	土 長 野 工 場	西 若 小 鹿 松 倉 工 場
苗 穂 工 場	五 稜 廓 工 場	函 館 小 樽 築 港 (札 幌 支 區)	秋 田 (土 崎 派 出 所)	門 司 (小 倉 派 出 所)
旭 川 工 場	盛 岡 工 場	新 潟 (沼 垂 派 出 所)	長 野 工 場	若 松 工 場
鋼 路 工 場	盛 岡 工 場	沼 垂	土 長 野 工 場	西 若 小 鹿 松 倉 工 場

(註) 二 新製車落成シ運用車中ニ繰入レタルトキハ受持檢車

區長ニ於テ試運轉終了セシ旨縣長ニ通告アリタルトキヲ謂フ

(註) 三 本報告ノ電文例左ノ如シ

### 五一、火藥類鐵道運送規程 (鐵一四、五、二七)

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合(航路ヲ介シ鐵道連絡ノ爲貨車積ノ儘船舶ニ依リ運送スル場合ヲ含ム)ハ本規程ニ依ル

ウケイレ(新製貨車受入ノ略稱)ヲム五トム一〇

附 則

本手續ハ昭和十五年四月十一日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十一年八月達第七〇四號貨物輸送手續ハ之ヲ廢止ス

第二條 本規程ニ於テ火藥類トハ左ニ掲グル火藥、爆藥

及火工品ヲ謂フ  
甲種

#### 火 藥

硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥

#### 爆 藥

- 一 點火點爆藥
- イ 雷鹽酸雷汞ノ類
- ロ 起爆ノ用途ニ供スル窒化物、窒化鹽ノ類
- ハ 其ノ他
- 二 ニトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆發藥、各種ダイナマイトノ類
- 三 摺素酸鹽ヲ主トスル爆發藥
- 四 ニトロマンニツト。四硝酸ペンタエリスリツト、硝酸澱粉
- 五 其ノ他

#### 火工品

火藥又ハ爆藥ヲ裝填シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

#### 乙 種

#### 火 藥

- 一 無煙火藥
- 二 濕藥、箱内ノ火藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ

#### 爆 藥

- 一 爆發ノ用途ニ供スル棉火藥又ハ之ヲ主トスル混和物
- 二 爆發ノ用途ニ供スル芳香系列ノ硝化物、ニトロベンゾール、ニトロナフタリン、ニトロトリオール、ピクリン酸及テトリールノ類又ハ之ヲ主トスル混和物
- 三 硝酸アンモン又ハ過摺素酸鹽ヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有スルモノ其ノ含有總量百分ノ六ヲ超エサルモノ
- 四 硝酸アンモンヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有スルモノ其ノ含有總量百分ノ六ヲ超エサルモノ
- 五 濕藥、箱内ノ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ
- 六 トリメチレントリニトロアミン

#### 火工品

- 一 藥筒、藥包、彈藥筒
- 二 火藥又ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸、爆彈又ハ水雷
- 三 銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ裝填セザル雷



管附又ハ爆管附藥莢

- 四 雷管、信管、爆管、門管
- 五 速燃導火線、緩燃導火線、電氣導火線、導爆線

六 信號用雷管、煙火

- 七 信號青焰、信號紅焰、星火ヲ發スル榴彈、一箱ノ内容十二筒以下ニ限ル。火箭、一箱ノ内容六筒以下ニ限ル。救命素發射器用ロケット

點火點爆藥類ヲ附シタル爆藥、ニトログリセリン及乾燥セル起爆藥(雷汞窒化鉛ノ類)ハ鐵道ニ依リ運送スルコトヲ得ズ

第九條

火藥類ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スベシ但シ止ムヲ得ザル事由アルトキニ限り鐵道大臣ノ許可ヲ受ケ無蓋貨車ヲ使用スルコトヲ得

火藥類ヲ積載スヘキ貨車ハ危險防止ノ爲嚴重ニ検査ヲ爲スベシ  
貨車内部ノ火藥類ヲ積載スベキ位置及其ノ附近ノ鐵類ハ木板、革、布又ハ葎ノ類ヲ以テ之ヲ覆フベシ但シ之等ノ材料ヲ以テ火藥類ヲ覆ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突、顛落又ハ轉輾セザル様積載スベシ

三 甲種ノ火工品 其ノ原料タル甲種、乙種ノ火藥若ハ乙種ノ爆藥ガ四十五瓦以下ノモノ又ハ甲種ノ爆藥ガ十一瓦二百五十瓦以下ノモノ

四 乙種ノ火藥類

前項但書ノ規定ニ依リ火藥類ト混載シ得ル他ノ貨物ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス 此ノ場合火藥類ハ他ノ貨物ト相當ノ間隔ヲ保タシメ又ハ木板、革、布、若クハ葎ノ類ヲ以テ厚サ十種以上ノ隔離層ヲ設ケ且墜落セサル様緊密ニ積載スベシ

- 一 容易ニ燃焼シ、自然發火シ、腐蝕シ又ハ爆發ノ誘引トナルベキ處ナキモノナルコト
- 二 包裝完全ニシテ轉輾ノ虞ナキモノナルコト
- 三 包裝ノ外部ニ鐵ノ露出セザルモノ又ハ露出スルモノ外部ヲ木板、革、布若クハ葎ノ類ヲ以テ覆ヒタルモノナルコト

火藥類ト他ノ貨物ト混載スルトキノ重量ハ兩者ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ左記數量ノ火藥類ヲ混載スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
一 甲種又ハ乙種ノ火藥 九十瓦以下ノモノ  
二 甲種ノ爆藥 二十二瓦 五百瓦以下ノモノ  
三 乙種ノ爆藥 九十瓦以下ノモノ

第十一條 火藥類ノ積載重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ズ

第十二條 二種類以上ノ火藥類ヲ同一貨車ニ積載スルトキハ左ノ各號ノ火藥類毎ニ相當ノ間隔ヲ保タシメ又ハ木板、革、布若クハ葎ノ類ヲ以テ厚サ十種以上ノ隔離層ヲ設クベシ

- 一 有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品並ニ硝酸鹽、鹽素酸鹽、若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機硝化物ヲ含有セザルモノ
- 二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品
- 三 爆藥 第一號ノ爆藥ヲ含ム
- 四 火工品第一號及第二號ノ火工品ヲ含ム

第十三條

火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一貨車ニ混載スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル火藥類ハ各號ノモノ二種以下ニ限り第二項ニ定ムル條件ヲ具備スル貨物ト混載スルコトヲ得 此ノ場合第一號乃至第三號ノ火藥類ニシテ各號ノ一ノミノトキハ各下記數量ノ二倍迄積載スルコトヲ得

- 一 甲種ノ火藥 四十五瓦以下ノモノ
- 二 甲種ノ爆藥 十一瓦二百五十瓦以下ノモノ

四 甲種又ハ乙種ノ火工品

其ノ原料タル甲種、乙種ノ火藥若ハ乙種ノ爆藥ガ九十瓦以下ノモノ又ハ甲種ノ爆藥ガ二十二瓦五百瓦以下ノモノ

五 第一項但書ノ規定ニ依リ二種ノ火藥類ヲ混載スル場合ハ其ノ數量前各號ノ二分一以下ノモノ

第十七條

火藥類積載貨車ハ兩側面見易キ箇所ニ白地ニ火藥ト赤書シタル標札ヲ附スベシ

第十八條 甲種ノ火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ連結スベシ但シ轉動ノ爲火藥類積載貨車ニ衝突ヲ與フル虞アル貨物以外ノ不燃質物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナキ貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得

乙種ノ火藥類積載貨車ノ前後ニハ發火ノ虞アリ若クハ燃焼シ易キ貨物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞アル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ連結スルコトヲ得ズ

第一項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス  
第一項及第二項ノ規定ハ第十三條第三項但書ノ火藥類ヲ積載シタル貨車ニハ之ヲ適用セズ  
第一項、第二項又ハ前項ノ火藥類積載貨車ヲ相互ニ連續連結スル場合ハ第一項又ハ第二項ノ規定ノ適用ニ付其ノ全部ヲ重キ制限ヲ附シタル火藥類積載貨車ト看做



第十九條 一車ヲ専用シテ積載スベキ火藥類積載貨車ハ十四輛以下ニ限リ一箇列車ニ連結スルコトヲ得但シ七輛ヲ超エテ連續連結スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第二十二條 火藥類積載貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ連結スルコトヲ得ス但シ第十三條第一項但書ノ火藥類積載貨車及之ト他ノ貨物ヲ混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラズ

貨物列車ヲ運轉セザル區間ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ甲種ノ火藥類積載貨車ハ一輛ニ限リ之ヲ混合列車ニ連結スルコトヲ得

第一項但書ノ場合火藥類積載貨車ハ客車ヨリ二輛以上又前項ノ場合ハ客車ヨリ三輛以上ヲ隔離スベシ

前二項ノ場合ボギー車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第二十四條 火藥類ヲ積載スル貨車ニ對シテハ途中驛ニ於ケル車輛ノ點檢ヲ特ニ嚴シク危險アリト認ムルトキハ即時ニ該貨車ヲ解放シ成ルヘク隔離シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

列車運轉中車軸發熱又ハ制動機緩解不良ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ發熱部ヲ冷却シ制動機ニ在リテハ之ヲ緩解シ該貨車ノ制動機ノ締切コツクラ

締切リ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ至リ前項ノ處置ヲ爲スヘシ

火藥類積載貨車ヲ停留セシムル場合周圍ノ狀況ガ火藥類ニ危險ヲ及ボス虞アリト認ムルトキハ該貨車ヲ成ルベク隔離シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スベシ

第一項及第二項ノ規定ニ依リ貨車ヲ解放シ又ハ前項ノ場合五時間以上停留セシムルトキハ所轄警察署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出スベシ但シ輸送上ノ事由ニ依リ停留セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 第七條、第八條、第十二條、第十三條第一項及第二項並ニ第十九條ノ規定ハ鐵道軍事供用令ニ依リ運送スル場合及航路ト鐵道軍事供用令ニ依ル鐵道トヲ通シ運送スル場合之ヲ適用セズ

第十六條ノ規定ハ鐵道軍事供用令ニ依リ運送スル場合之ヲ適用セズ

第十八條ノ規定ハ軍用列車ニ依リ運送スル場合之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ昭和十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月閣令第一號火藥類鐵道運送規程ハ之ヲ廢止ス

### 五二、貨物運送規則、貨物運送規則補則(拔萃)

(規) 昭一七、三、二五、鐵告 三一  
(補) 昭一七、三、二五、達 九六

#### 第一章 總 則

第一條 鐵道省所管ノ鐵道及航路及自動車線ニ於ケル貨物ノ運送ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除キ本規則ニ依ル

補則 一 小口扱及車扱貨物ノ運送ニ付テハ別段ノ定メアル場合ヲ除キ本補則ニ依ルベシ

本規則及補則其ノ他定ナキ事項又ハ異例ノ取扱ヲ爲スヘキ事項ニ關シテハ上長ノ指揮ヲ受クベシ

(註) 一 本規則及補則ノ外貨物ノ運送ニ關係アル規程中主ナルモノ左ノ如シ

規定事項	規程ノ名稱
貨主及鐵道ノ權利義務ニ關スル事項	鐵道營業法、鐵道運送規程、鐵道船舶通シ運送規則
火藥類ノ運送ニ關スル事項	火藥類鐵道運送規程
軍事輸送ニ關スル事項	鐵道軍事供用令、鐵道軍事輸送規程、特種貨物運送手續
内地連絡運送ニ關スル事項	内地連絡運送規程、内地連絡運輸取扱細則
運輸帳表ノ取扱ニ關スル事項	運輸帳表取扱手續
省用貨物、購買貨物、運輸營業ヲ爲サ、ル線路又ハ驛	特殊貨物運送手續

等發又ハ着ノ貨物、臨時約東貨物等ノ運送ニ關スル事項

輸送ニ關スル事項 貨物輸送手續

事故及損害賠償ニ關スル事項 荷物事故處理規程

補則 一 鐵道局長ハ本補則ノ範圍内ニ於テ其ノ專決施行スヘキ事項ヲ運輸事務所長(鐵道局出張所長ヲ含ム以下同シ)又ハ驛長(自動車線ニ於ケル自動車區長又ハ驛務掛ヲ含ム以下同シ)ニ委任スルコトヲ得

補則 三 本規則及補則ニ定メアル事項中貨主ニ對スルモノニシテ特ニ權限ノ明示ナキモノハ驛長ニ於テ之ヲ行フベシ

第二條 本規則ニハ左ノ略語ヲ用フ

- 一 非航送航路トハ下關釜山間及稚内大泊港間航路
- 二 航送航路トハ前號以外ノ航路
- 三 狹軌線トハ〇・七六二米ノ軌間ヲ有スル線
- 四 驛トハ驛、營業所及棧橋待合所
- 五 私有貨車トハ鐵道省ノ所有ニ非サル貨車ニシテ鐵道省ノ車籍ニ編入シタルモノ(鐵道省ニ於テ連絡運



輸機關以外ノ者ニ貨渡シタル貨車ヲ含ム

六 甲種ノ鐵道車輛トハ自己ノ車輪ニ依リ運轉シ運送セラルル鐵道車輛

本規則ニ掲グル貨物ノ名稱ハ貨物等級表ノ品類又ハ品目ニ依ル但シ動物ニハ其ノ死シタルモノヲ含マズ

(註) 一 第一項第六號ノ甲種ノ鐵道車輛中ニハ第五號ノ私有貨車ヲ含ム

第五條 一口ト爲スベキ貨物ハ左ニ掲グル條件ヲ具フルコトヲ要ス

二 火藥類ニ在リテハ他ノ貨物ノ混セザルコト又小口扱ニ依ル火藥類ニ在リテハ其ノ全部ガ甲種ノ火藥、

甲種ノ爆藥、甲種ノ火工品、乙種ノ火藥、乙種ノ爆藥、乙種ノ火工品ノ區別ニ從ヒ其ノ一種ニノミ屬ス

ルモノニシテ中味ノ火藥類ガ左ノ重量ヲ超エザルモノナルコト

甲種又ハ乙種ノ火藥、乙種ノ爆藥 四十五疋  
甲種ノ爆藥 十一疋二百五十疋

其ノ原料ガ甲種若ハ乙種ノ火藥又ハ乙種ノ爆藥ナルトキハ四十五疋、甲種ノ爆藥ナルトキハ十一疋二百五十疋

三 甲種ノ鐵道車輛、容器ヲ用ヒザル家畜(容器ヲ用

ヒタル家畜ヲ共ニ託送スル場合ハ之ヲ容器ヲ用ヒザル家畜ト看做ス)又ハ死體ニ在リテハ他ノ貨物ト混セザルコト

五 車扱貨物(自動車線ノミヲ運送スルモノヲ除ク)ノ數量ハ左ノ制限ヲ起エザルコト

イ 一車又ハ一船ニ積載シ得ル數量 但シ二車以上ニ跨リ積載スル貨物(中間ノ遊車ヲ共用シテ其ノ前後ノ貨車ヲ積載スル貨物ヲ含ム)及之ト他ノ貨物トヲ共ニ託送スル場合ハ其ノ使用車ニ積載シ得ル數量

ロ 甲種ノ鐵道車輛ハ一車  
(註) 一 貨車ノ積載容量ハ十噸ノ貨車ハ約二十二立方米、十五噸ノ貨車ハ約三十六立方米ナリ

第六條 別表貨物標準數量表ニ掲グル貨物ハ其ノ一箇ノ重量一噸當リノ箇數及一立方米當リノ重量ヲ同表所定ニ依リ取扱フ但シ一噸當リノ箇數又ハ一立方米當リノ重量ハ車扱ニ依ル場合ニシテ一口ノ全部ガ一噸當リノ箇數又ハ一立方米當リノ重量ヲ同ジクスルモノニ限り適用ス

貨物標準數量表

標準數量ノ適用方

車扱貨物ニ對シ一噸當リ箇數ヲ適用スル場合ハ其ノ全箇

數ヲ一噸當リ箇數ニテ除シタル商(一未滿ノ端數アルトキハ之ヲ一ニ切上グ)ヲ以テ其ノ貨物ノ噸數トス

品	種	荷	造	一箇ノ噸數	一噸當
紡績綿絲	四十五	布	包帶	一九八・〇	五・二
	二十五	疋	包	一〇〇・〇	一〇・〇
鐵釘	六十疋又ハ百斤	樽	入	六四・〇	一五・七
小麥粉	二十二疋又ハ五貫九百匁	袋	入	二二・〇	四五・五
白米	四斗	俵	入	六三・〇	一六・〇
(朝鮮白米ヲ除ク)	同	俵	入	六二・〇	一六・二
(朝鮮白米ヲ除ク)	六十疋	俵	又ハ俵入	六三・〇	一六・〇
玄米	四斗又ハ六十疋	俵	又ハ俵入	六三・〇	一六・〇
(朝鮮玄米ヲ除ク)	六十疋	俵	又ハ俵入	六三・〇	一六・〇
小麥	六十疋	俵	入	六三・〇	一六・〇
麥酒	大壘四打	箱	入	七七・〇	一三・〇
	大壘二打	透箱	入	三五・〇	二八・五
砂糖	九十疋又ハ百五十斤	袋	入	九三・〇	一〇・八
	六十疋又ハ百斤	安平包	入	六三・〇	一六・〇
	三十疋又ハ五十斤	袋	入	三一・〇	三二・五
	六十疋	俵	又ハ俵入	六三・〇	一六・〇
	五十疋	同		五二・五	一九・二

食鹽	醬油	セメント	大豆粕	硫酸アンモニア	石灰	石炭	窒素	肥料
四十八疋	十六立	百七十疋	大玉	三十七疋五分	二十疋五分	六	三十七疋五分	三十七疋五分
三十五疋	九升	八十五疋	裸	分又ハ十貫	七貫五百匁	六	又ハ十貫	又ハ十貫
三十疋	同	五十疋	同	又ハ十貫	又ハ十貫	同	同	同
同	同	三分一樽	同	同	同	紙袋	紙袋	紙袋
同	同	四分一樽	同	同	同	入	入	入
五〇・〇	二三・五	一八一・〇	二八・〇	四〇・〇	三〇・〇	二四・〇	二四・〇	四〇・〇
二〇・〇	四三・〇	一一・〇	三六・二	二五・〇	三三・四	四一・七	四一・七	二五・〇
三七・〇	二一・七	一九・七	一七・三	二五・〇	三三・四	四一・七	四一・七	二五・〇
二七・四	二一・七	一七・三	二二・二	二五・〇	三三・四	四一・七	四一・七	二五・〇

第七條 左ニ掲グル貨物ハ鐵道省ニ於テ特ニ承諾シタル場合ニ限り運送ヲ引受ク

四 車扱貨物ニシテ左ニ掲グルモノ

イ 汚穢品、甲種ノ鐵道車輛(私有貨車ヲ除ク)及



貴重品ニシテ一級十割増ノモノ

ロ 第二十四條ノ積載制限ヲ越エテ積載スルモノ及大物車ニ積載スルモノ

ニ 鐵道(航送航路ヲ含ム)ノミヲ運送スルモノノシテ一箇ノ長十二米、重量十五噸又ハ容積四十立方米ヲ超ユルモノ

前項ノ貨物ヲ運送スル場合特ニ要シタル費用ハ貨主ノ負擔トス

補則一 本條ニ依ル貨物ノ運送引受其ノ他ニ關シテハ第一項第一號及第四號ルニ定ムルモノハ貨物輸送手續其ノ他ハ特種貨物運送手續ノ定ムル所ニ依ルベシ

### 第二章 貨物ノ取扱

#### 第一節 受 託

第十七條 貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ直ニ其ノ引渡ヲ受ク但シ荷送人ニ於テ積込ヲ負擔スル貨物ハ積込終了後其ノ他ノ貨物ニシテ直ニ發送スルコトヲ得ザルモノハ之ヲ保管シ得ル場合ヲ除キ發送準備後引渡ヲ受ク補則二 車扱ニ依ル火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ驛長ハ使用貨車ノ車種、車數及發送月日ヲ受持檢車區長ニ通知シ積込前ニ於テ貨車ノ檢査ヲ受クベシ

#### 第二節 運 送

第二十三條 貨車ニ積載セラルベキ貨物ノ重量ハ左ノ噸數ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 火藥類ニ在リテハ標記噸數ノ三分ノ二  
二 石炭噸數ノ標記アル貨車ニ積載シタルバラ積石炭ノミニ在リテハ標記石炭噸數

三 前各號以外ノ貨物ニ在リテハ標記噸數

補則一 第六條別表ニ定ムル貨物ヲ特ニ檢量シタル場合ト雖モ同表所定ニ依リ取扱フベシ

第二十四條 大物車以外ノ無蓋貨車ニ貨物ヲ積載スル場合ハ第七條ノ規定ニ依リ鐵道省ニ於テ特ニ承諾シタルトキヲ除キ左ノ各號ニ依ルモノトス

一 貨物ノ幅及長ハ貨車ノ側板及樓板ノ内側ニ添フ直立面(側縁ナキモノハ車體)ヨリ外方ニ突出セシムルコトヲ得ズ

二 貨物ノ高ハ貨車標記ノ貨物積載高ヲ超過セシムルコトヲ得ズ但シ貨車ノ中部ニ於ケル高ヲ貨物積載高ヨリ〇・三米以内ヲ超過セシムルモ超過高ニ等シキダケ貨車兩側ニ於ケル高ヲ逐次低下シテ屋根形ニ積載スルコトヲ得

(註) 一 貨物積載高ハ床板ニ荷摺木又ハ枕木アル貨車(廻轉枕木アル貨車ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ上面ヨリ、其ノ他ノ貨車ニ在リテハ床板上ヨリ測定スルモノトス

第二十五條 貨物ハ其ノ重量ヲ貨車床板上ニ均衡ニ負擔セシムル様積載スルモノトス

左ニ掲グル重量ノ貨物ヲボギ一貨車(大物車ヲ除ク)ノ中央部ニ積載スル場合貨車床板上ニ於ケル荷重負擔面ノ長ハ貨車ニ對シ縱ノ方向ニ於テ下記ノ制限ヲ下ルコトヲ得サルモノトス

荷重負擔面ノ長  
一 箇又ハ一口ノ重量 五 米  
貨車ノ標記噸數ノ五分ノ三ヲ超ユルモノ 七 米  
同 五分ノ四ヲ超ユルモノ

(註) 一 第一項ノ「重量ヲ貨車床板上ニ均衡ニ負擔セシムル様積載」トハ例ヘバ貨物が一箇ナルトキハ貨車ノ中央部ニ積載シ二箇以上ナルトキハ成ルベク引離シテ積載シ一箇所ニノミ荷重ヲ負擔セシメザル様ニシ且重量カ略同一ナルモノナルトキハ前後ノボギ一中心又ハ車軸寄ニ積載スルガ如キヲ謂フ

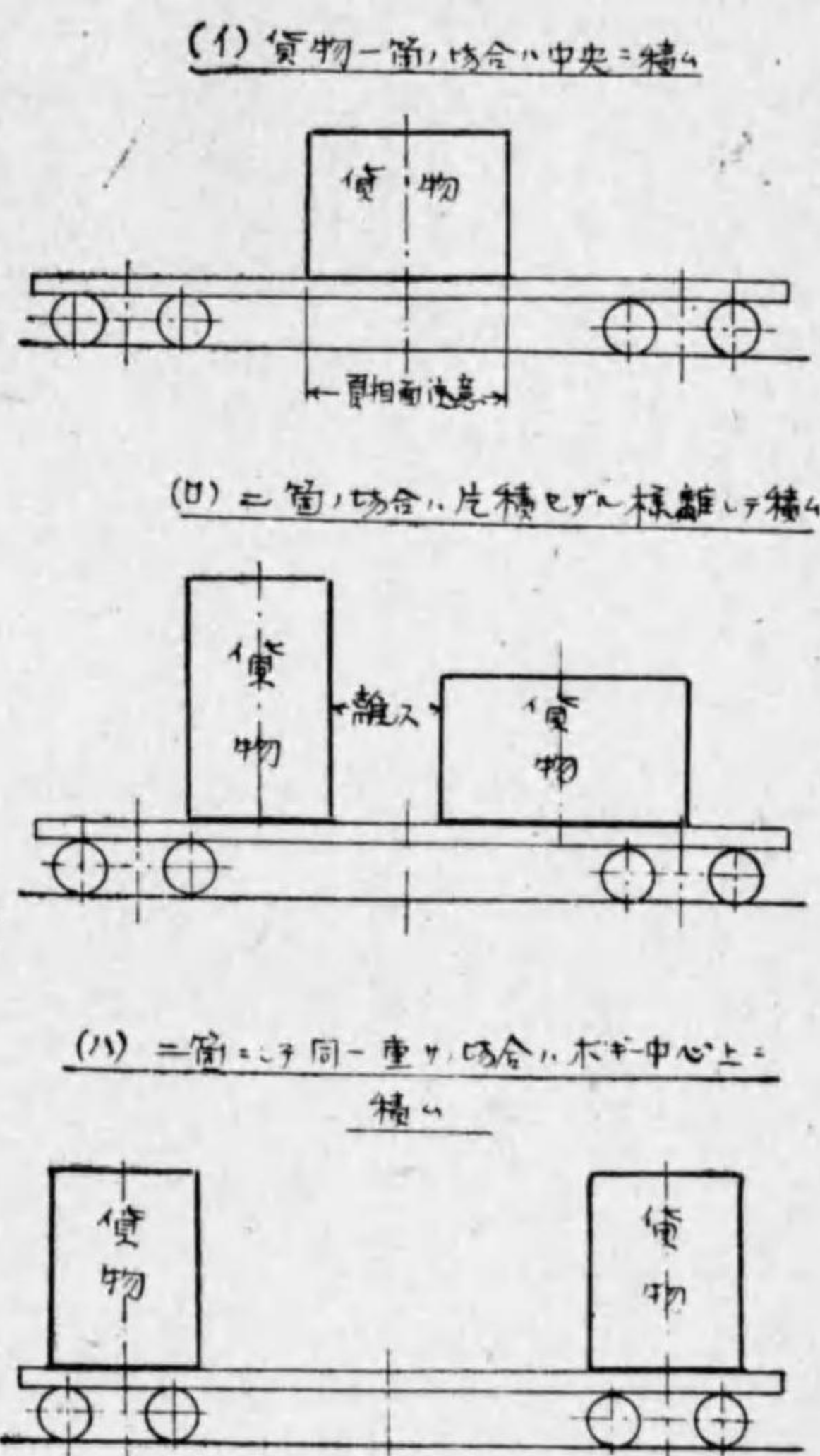
(註) 二 二箇以上ノ枕木ヲ横ニ並べ之ニ荷重ヲ負擔セシムルトキハ枕木ノ最外縁間ノ距離ヲ以テ荷重負擔面ノ長トス  
荷重負擔面ノ長ガ第二項ノ制限ニ達セザルトキハ枕木ノ類ヲ縱ニ使用シテ之ニ充分負擔セシメ荷重負擔面ノ長ヲ増加セシムベキモノトス此ノ場合ハ其ノ最長ナル枕木ノ類(二箇以上ヲ繼合セタルモノヲ含ム)ノ長ヲ以テ荷重負擔面ノ長トス

(註) 三 第二項ノ制限ハ一口中ノ各部分ニ付テモ適用セルモノナルヲ以テ例ヘバ重量品ヲ中央ニ、輕量品ヲ其ノ前後ニ積載スル場合ニ於テ一口全體ノ貨物ノ重量ニ對スル荷重負擔面ノ長ハ制限ヲ下ラザルモ重量品ノミニ付テ見ルトキニ右制限ニ達セザルガ如キ積載方ハ許サレザルモノトス

參考 本條及本條註ニ付テハ次ノ略圖參照

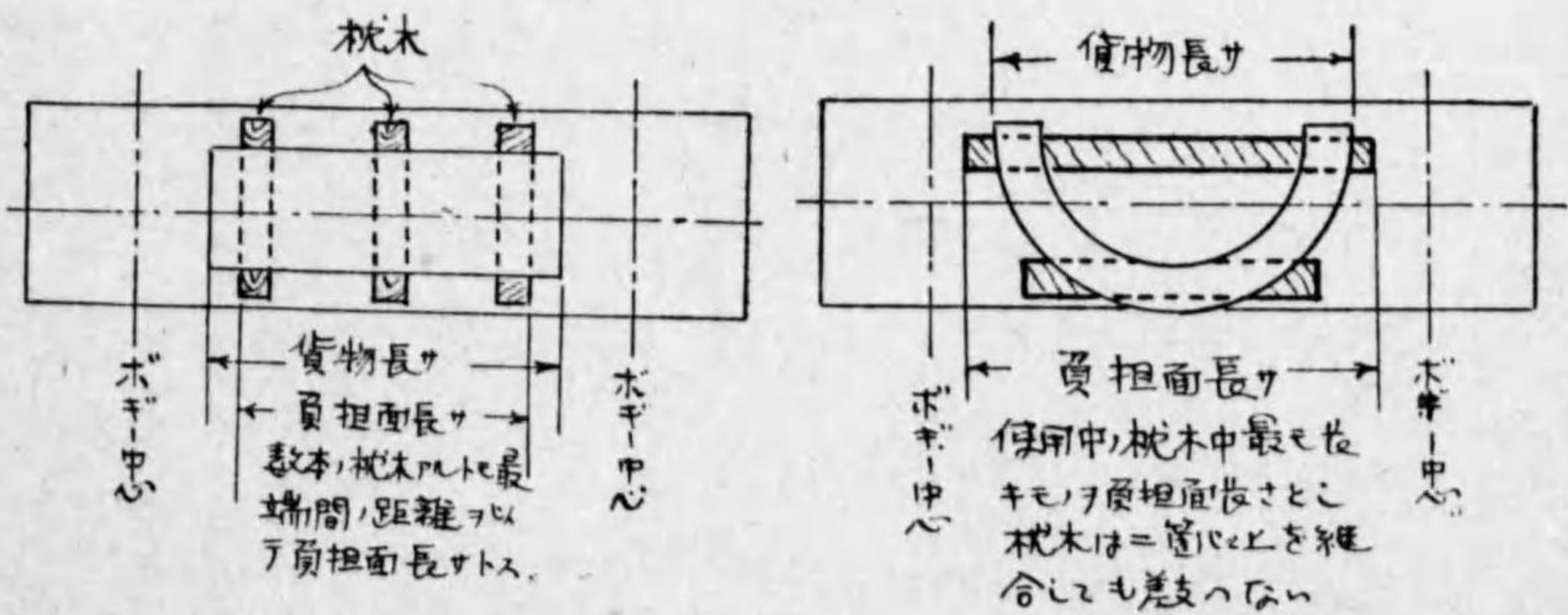
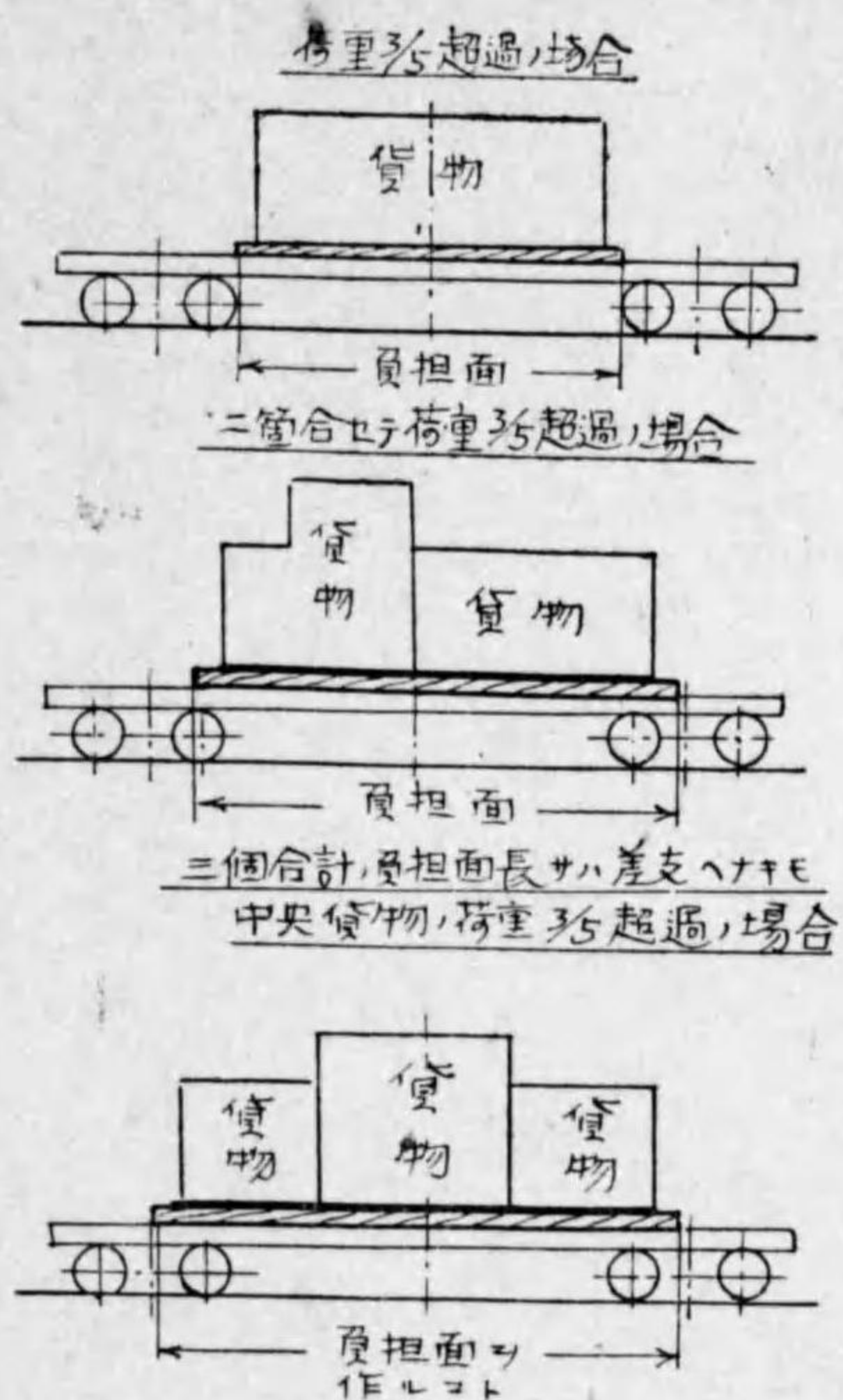


貨物積付位置基礎



二五六

負擔面ノ作り方基礎



第二十七條 車扱貨物、前條ニ依リ積載スル小口扱貨物

及小荷物扱ニ依ル死體ノ發著驛ニ於ケル貨車又ハ自動車積卸（覆布、網、網等ノ掛ケ外シヲ含ム）及貨車又ハ自動車ニ設備ナキ貨物運搬用建木其ノ他ノ積付用品等ノ準備（其ノ取付、取外シ等ノ作業ヲ含ム）ハ貨主ノ負擔トス

前項以外ノ積卸又ハ積換ハ鐵道省ノ負擔トス

補則一 貨物ノ積卸其ノ他ノ作業ニ關シテハ特ニ左ノ各號ニ注意スベシ

一 貨物ノ性質、形狀ニ應ジ自他ニ損害ヲ生ゼザル様積付ヲ爲スコト

二 片積ヲ避クルコト

六 木材ハ之ヲ立積トセザルコト但シ貨車標記ノ貨物積載高ガ二・一米以上ノ無蓋貨車ニ積載スル場合ハ側縁ノ上端ヨリ六十糎ヲ超エザルモノヲ滿載シ且嚴重ニ緊縛シタルトキニ限り立積トスルコトヲ得

十 無蓋貨車積貨物ニ對シ覆布、網、網等ヲ使用スル場合ハ覆布、網等ニ付テハ之ヲ以テ車票挿、貨車記號番號及車側ブレーキ把手ヲ掩ヒ又ハ縁紐ノ類ヲ連結器、車側ブレーキ若ハ之等ノ部分品ニ括付ケザルコト又綱ニ付テハ懸金具以外ノ箇所ニ括付ケザルコト尙運轉中覆布、網等ガ翻轉シ又ハ綱力解舒セザル

樣緊縛スルコト

危險品ニ付テハ前項ニ依ルノ外左ノ各號ニ注意スベシ

一 圧縮ガス、液化ガス、酸化腐蝕劑及燐寸ハ衝動ヲ豫防シ得ル様革、麻布、毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スベキ箇所ヲ覆ヒタルトキノ外轉輾セザルコト

三 引火又ハ爆發ノ虞アル危險品ノ附近ニ於テハ安全燈若ハ電燈以外ノ燈火ヲ使用シ又ハ燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯若ハ喫煙セザルコト

五 可燃性固體又ハ酸化腐蝕劑ヲ他ノ品類ニ屬スル貨物ト共載スル場合ハ其ノ相互間ニ相當間隔ヲ保タシムルコト

六 圧縮ガス、液化ガスニシテボンブ罐入ノモノハ立積トセザルコト

(註) 一 覆布ノ使用方ニ付テハ本補則第一項第十號ニ依ルノ外貨物輸送手續第二十三條註參照

(註) 二 火藥類ノ積卸シ其ノ他ノ作業ニ關シテハ本補則ニ依ルノ外左ノ各號ニ注意シ必要ナル指示ヲ爲スベキモノトス

二 積込ニ際シテハ貨車内部ノ積載位置及其ノ附近ノ鐵類ヲ木片、革、布又ハ葎ノ類ヲ以テ覆フコト但シ之等ノ材料ヲ以テ火藥類ヲ覆ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二五七



三 摩擦、動搖、衝突、顛落又ハ轉輾セザル様特ニ注意シ積載スルコト

第三十六條 荷送人ハ左ニ掲グル貨物ニ對シテハ其ノ看守又ハ保護ノ爲下記員數ノ附添人ヲ附スルモノトス

貨物ノ種類

附添人ノ員數

五 甲種ノ鐵道車輛（私有 機關車ハ一車、其ノ他貨車ヲ除ク） 八二十軸迄ニ付一人

六 前各號以外ノ貨物ニシテ運送中特ニ殊ノ管理ヲ要スルタメ特ニ鐵道省ニ於テ附添人ヲ請求スルモノ 一口又ハ一車ニ付一人

前項ニ掲グル貨車中甲種ノ鐵道車輛ニ對シテハ鐵道省ニ於テ附添人ヲ附スルノ要ナシト認メタルトキハ之ヲ附セザルコトヲ得

第一項以外ノ貨物ニ對シテ附添人ヲ附セントスルトキ及同項所定ノ員數ヲ超エテ附添人ヲ附セントスルトキハ荷送人ハ鐵道省ノ承諾ヲ受クルモノトス

附添人ハ鐵道省ニ於テ特ニ乗車スベキ車輛ヲ指定シタル場合ノ外其ノ貨物ヲ積載シタル貨車（貨物ガ甲種ノ鐵道車輛ナルトキハ其ノ車輛）又ハ船舶ニ乗込ムモノトス

補則一 本條第三項ニ依リ荷送人ガ附添人ヲ附シタキ旨申出タルトキハ支障ナキ限り之ニ應ズベシ  
本條第一項ノ貨物ニ對シ荷送人ガ附添人ヲ附セザル

トキハ本條第二項ニ依ル場合ヲ除キ貨物ノ運送ヲ拒絶スベシ

第六節 事故及錯誤

第五十一條 貨物ノ品名、性質、箇數、重量、長等ガ貨物運送狀ノ記載又ハ荷送人ノ申告ト相違スルトキハ左

ニ掲グル區別ニ依リ處理シ必要ニ應ジ其ノ旨ヲ荷送人又ハ荷受人ニ通知ス

一 發驛ニ於テ事故ヲ知リタル場合ニシテ運賃料金其ノ他ノ運送條件ニ異動ヲ生ズルトキハ期間ヲ定メテ荷送人ノ指示ヲ求ム

二 途中驛ニ於テ事故ヲ知リタル場合ニシテ貨物ノ品名、數量、形狀等ニ依リ積換、分送、取扱別ノ訂正等ヲ要スルトキハ其ノ手續ヲ爲ス此ノ場合分送部分ハ自動車ニ積載シタル貨物ノ數量相違ニ依リ分送スルトキヲ除キ之ヲ別口トスルモ運送條件ニ付テハ鐵道省ニ於テ適當ト認ムル所ニ依ル

三 着驛ニ於テ事故ヲ知リタル場合ニシテ原取扱別ニ依リ難キトキハ相當取扱別ニ訂正ス

前項ノ場合特ニ要シタル費用ハ荷送人ノ負擔トス  
補則一 發驛ニ於テ車扱貨物積載後數量超過ヲ知リタル場合運輸上支障ナシト認ムルトキハ其ノ儘發送シ

支障アリト認ムルトキハ超過部分ヲ取卸サシメ且取卸部分ハ之ヲ別口トシテ相當取扱別ニ訂正ノ手續ヲ爲シタル上貨物送付書ヲ作成シ適宜ノ方法ニ依リ著驛ニ送付スベシ

前項ノ場合荷送人ヨリ取卸部分ノ引渡方申出アリタルトキハ便宜託送取消トシテ處理スベシ

補則三 途中驛ニ於テ本條ノ事故ヲ知リタル場合ニシテ其ノ儘運送シ難キトキハ左ニ依リ處理スベシ

一 原取扱別ニ依リ運送シ難キ場合（一口ト爲スコトヲ得ザル貨物ヲ混ジタルトキハ別口トスルト）ハ小口扱ニ在リテハ車扱ニ訂正ノ手續ヲ爲シ且別口トシタルモノハ貨物送付書ニ依リ着驛ニ送付スベシ

二 前號ノ場合及原取扱別ニ依リ得ルモ貨物ノ性質上他ノ貨車ノ使用ヲ要スルトキハ貨物ノ數量、貨車配置ノ關係等ヲ考慮シ成ルベク貨主ニ有利ト認

五三、特種貨物運送手續（拔萃）

第一章 通 則

第一條 左ニ掲グル貨物ハ本手續ニ依リ運送スベシ

（昭一五、一、二九）  
（達一四、一號）

一 貨物運送規則（以下規則ト稱ス）第七條第一項第三號並ニ第四號イ乃至ヌ及ヲニ該當スル貨物以下臨時約束貨物ト稱ス）

ムルモノヲ使用スベシ  
三 車扱貨物ノ數量超過ノ場合ニシテ運輸上支障ナシト認ムルトキハ其ノ儘運送ヲ繼續シ、支障アリト認ムルトキハ他ノ貨車ニ積換又ハ超過部分ヲ取卸シ且取卸部分ハ之ヲ別口トシテ相當取扱別ニ訂正ノ手續ヲ爲シタル上貨物送付書ヲ作成シ適宜ノ方法ニ依リ着驛ニ送付スベシ、此ノ場合他ノ貨車ヲ使用スルトキハ前號ノ例ニ依ルベシ  
前項ノ場合貨物ガ臨時ノ約束ニ依リ運送スベキモノナルトキハ特種貨物運送手續ノ定ムル所ニ依リ取扱フベシ

附 則  
第九十二條 本規則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
補則一 本補則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



二 左ノ各號ノ一ニ該當スル貨物(以下異例取扱貨物ト稱ス)

イ 貨物ノ運輸營業ヲ爲サザル線及未開業線(以下非營業線ト稱ス)運送貨物

ロ 驛、操車場又ハ信號場(以下驛ト稱ス)構内運送貨物

ハ 取扱ニ制限アル驛(以下取扱制限驛ト稱ス)ニ發着スル取扱制限貨物

ニ 貨物ノ運輸營業ヲ爲ス線路(以下營業線ト稱ス)ノ途中又ハ信號所(以下途中ト稱ス)發着貨物

三 省ノ自用ニ供スル貨物(以下省用貨物ト稱ス)

四 國有鐵道共濟組合購買部託送ニ係ル貨物又ハ職員共同購買ニ係ル貨物(見本、返送品、返送容器ヲ含ム、以下購買貨物ト稱ス)

五 陸海軍ノ官衙、部隊、艦船、學校其ノ他ノ諸機關ノ託送ニ係ル貨物ニシテ左ニ掲グル以外ノモノ(以下軍用貨物ト稱ス)

イ 石炭類

ロ 銑鐵、特殊鋼、鐵合金、鐵材、鐵屑

註一 第二號ハ「取扱ニ制限アル驛」トハ貨物ノ取扱ヲ爲スモ其ノ範圍ニ制限アル驛、貨物ノ取扱ヲ爲サザル驛、操車場及信號場ヲ指スモノトス

第二章 臨時約束貨物

第二條 臨時約束貨物ノ取扱ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルベシ

第三條 臨時約束貨物ノ運送申込アルトキハ鐵道局長ノ指揮ヲ受クベシ但シ左ニ掲グル貨物ニシテ第十九條ニ定ムル費用ヲ要セザルモノニ限り驛長(自動車線ニ於ケル自動車區長又ハ驛務掛ヲ含ム以下同ジ)ニ於テ之ガ運送ヲ引受クルコトヲ得

三 車扱貨物ニシテ左ニ掲グルモノ

イ 鐵道(航送航路ヲ含ム)ノミヲ運送スル貨物ニシテ規則第七條第一項第四號ロ、ニ又ハホニ該當スルモノ規則第二十四條、本手續第六條、第七條又ハ第九條ニ依リ積載シ得ルモノ但シ軌間ノ異ナル線ニ跨リ運送スルモノハ〇・七六二米ノ線發ノ場合ニ限ル

ハ 鐵道ト非航送航路ニ跨リ運送スル貨物ニシテ規則第七條第一項第四號ヘニ該當スルモノ一箇ノ長十米ヲ超エズ且規則第二十四條又ハ本手續第七條ニ依リ積載シ得ルモノ

ニ 甲種ノ鐵道車輛中連絡運輸機關所屬ノ車輛ニシ

上ニ跨リ積載スル貨物

三 大物車ニ積載スル貨物

註一 本條ニ定ムル貨物ニ對シ著驛變更ノ申出アル場合ハ受持檢車區長ト打合ノ上支障ナキコトヲ確メタル上之ニ應ズルモノトス

第五條 規則第二十四條ノ制限ヲ超ユル貨物及大物車ニ積載スル貨物ノ積載限界ハ左ノ通トス

軌間 一・〇六七米ノ線 別表第一圖

軌間 〇・七六二米ノ線 別表第二圖

(註) 一 主要無蓋貨車ノ床面高其ノ他ハ左ノ如シ

二 三車(ボギー貨車ハ一車ヲ以テ二車ニ換算ス)以

テ省線ニ直通運轉ヲ承認シタルモノ(以下直通承認社車ト稱ス)

註一 本條但書ニ依リ驛長限リ受託シ得ルモノニ在リテモ第四條ニ該當スルモノハ受持檢車區長トノ打合ハ之ヲ要スルモノトス

第四條 左ノ各號ニ該當スル貨物ノ運送ニ當リテハ豫メ受持檢車區長ト打合セ且其ノ積載方ニ付檢査ヲ受クベシ

一 規則第二十四條ノ高及幅ノ制限ヲ超エテ積載スル貨物

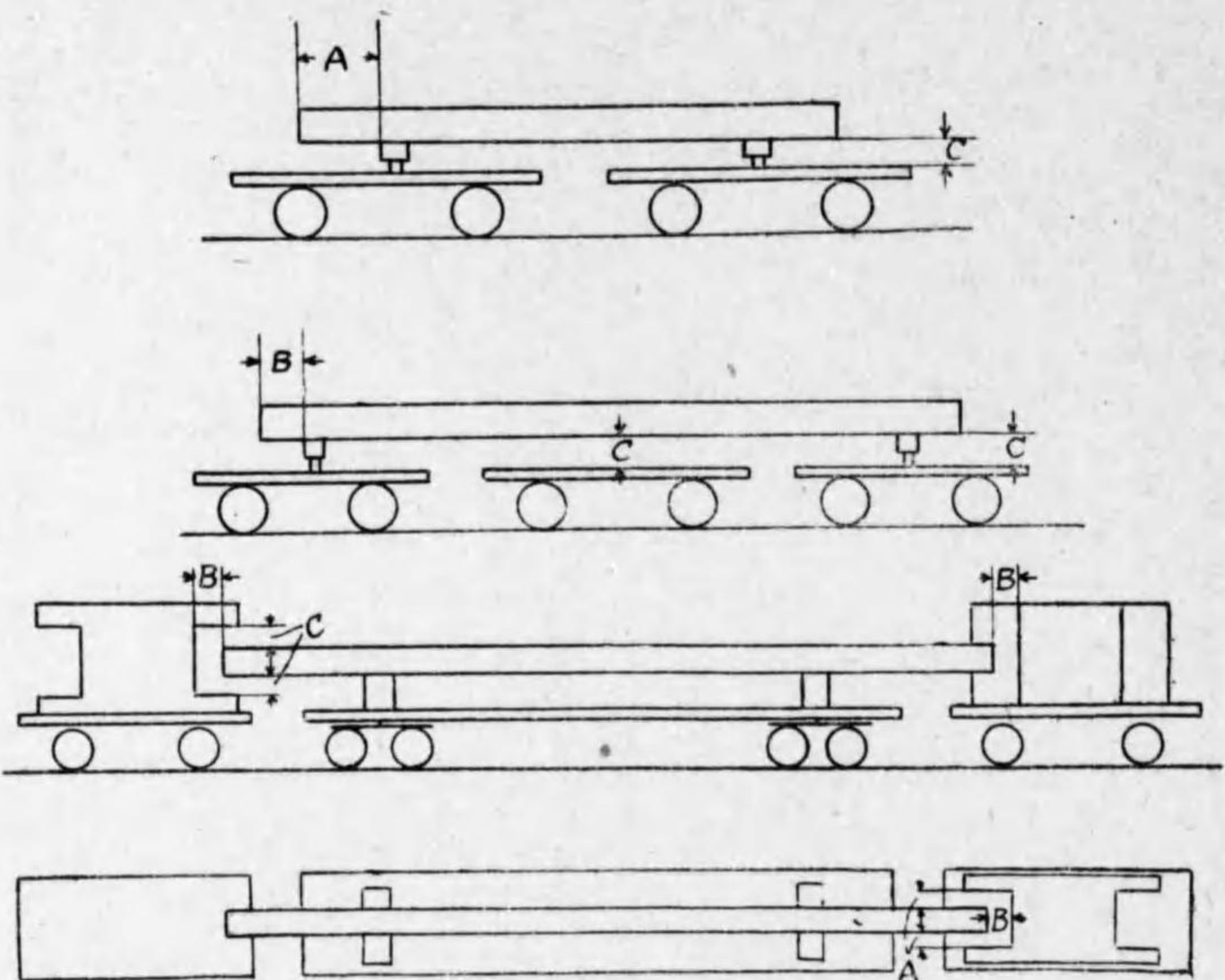
形式	床面高 (大物車ハ低床面)	車體幅	車體長	標記荷 重噸數	標記積 載高	摘要
ト	一〇九〇耗 一〇四〇	二〇五〇耗 二四〇〇	五四〇〇耗 五六〇〇	一〇噸 一〇	二・一米 一・八	側板總開
トム	一九〇〇〇 一〇〇〇〇 五〇〇〇〇	二一八四 二四八〇 二四八〇	六九三〇 七二五〇 七一五六	一五 一五 一五	二・四 二・一 二・一	側板總開 側板總開
トラ	一〇九五 一〇〇〇	二四八〇 二四八〇	八一三〇 八一三〇	一七 一七	二・一 二・一	側板總開
チ	一〇九〇	二二〇〇	五五〇〇	一〇	一・八	
一	一〇九〇	二三〇〇	一〇六六八	二五	二・一	







- 二 貨物ハ荷重負擔車ノ車體ヨリ前方又ハ後方ニ四・五米ヲ超エテ突出セシムルコトヲ得ズ 又其ノ突出部ニハ遊車ヲ使用スルコト
- 三 一車ニ荷重ヲ負擔セシムル場合ハ二軸貨車又ハ三軸貨車ニ在リテハ車軸ノ上方ニ、ボギー貨車ニ在リテハボギー中心ノ上方ニ枕木ヲ置キ又二車ニ荷重ヲ負擔セシムル場合ハ廻轉枕木ヲ使用シ成ルベク標記馳數ノ割合ニ應ジ荷重ヲ負擔セシムルコト
- 四 廻轉枕木ヲ使用シテ二車ニ荷重ヲ負擔セシムル場合ハ成ルベク曲線上ニ於テ積載スルコトヲ避ケ已ムコト得ザル事由アル場合ニハ廻轉枕木ノ位置ガ貨物ノ縱方向ニ於ケル軸線ト直角トナル様配備シタル後貨物ヲ積載シ且左ノ如ク廻轉枕木ノ外方ニ突出セシムルコト
- イ 中間遊車ヲ使用セザル場合ハ貨物ノ廻轉枕木ニ接スル部分ガ金物ナルトキハ四十五種以上其ノ他ハ三十種以上
- ロ 中間遊車ヲ使用スル場合ハ貨物ノ廻轉枕木ニ接スル部分ガ金物ナルトキハ六十種以上其ノ他ハ四十五種以上
- 五 遊車ノ床面(棲板、側板等アルモノハ其ノ上面)又ハ廻轉枕木ヲ使用シタル荷重負擔車ノ床面ト貨物



- ノ下面トハ荷重ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル箇所ヲ除キ十五種以上ノ遊間ヲ存セシムルコト
- 六 中間ニ使用スル遊車ハ其ノ最大長七米以下ノモノ一車ニ限ルコト
- 七 途中解放ヲ防止スル爲貨車相互間ノ連結器解放挺子ヲ緊縛シ置クコト
- (註) 一 廻轉枕木ヲ使用シテ貨物ヲ積載スル場合ハ左ノ各號ニ注意スベシ
  - 一 廻轉枕木ノ附近ニ塵埃堆積スルトキハ廻轉不具合トナルニ付使用ニ先ダチ之ヲ清掃スルコト
  - 二 廻轉枕木ト貨物トハ一箇所ニ於テ嚴重ニ緊縛シ其ノ他ノ箇所ニ於テハ荷崩ヲ生ゼザル様緊縛スルコト
  - 三 鐵製又ハ鐵張ノ廻轉枕木ヲ使用スル場合之ニ接スル部分ガ金物ナルトキハ薄キ木板又ハ葎ノ類ヲ敷クコト
  - 四 竹材、鐵板等ノ如キ撓ミ易キ貨物ヲ積載スル場合ハ貨車床板面ト貨物ノ下面トノ遊間等ニ付キ特別ノ注意ヲ拂フコト
- (註) 二 中間ニ遊車ヲ使用シテ二車ニ荷重ヲ負擔セシムル積載方ハ荷崩ノ危險多キニ付已ムコトヲ得ザル事由アル場合ノ外之ヲ避クベシ
- 參考 本條第四號乃第五號ニ付テハ次ノ略圖參照

- 第八條 前條ニ依リ使用シタル遊車ニハ荷重ヲ負擔セシムルコトヲ得ズ但シ二車以上ニ跨リ積載シタル貨物トノ間ニ左ノ遊間ヲ存セシムル場合ハ之ニ他ノ貨物ヲ積載シ一口トシテ運送スルコトヲ得
 

前	後
上	六十種以上
左	六十種以上
右	六十種以上
下	十五種以上
- 前項ノ規定ハ中間ノ遊車ヲ共用シ其ノ前後ノ貨車ニ積載スル貨物相互間ニ付之ヲ準用ス
- (註) 一 本條第一項但書ノ場合遊車ニ積載スル貨物ハ片積トナラザル様特ニ注意スベシ
- 參考 本條第一項ニ付テハ前條略圖參照
- 第九條 長二十米又ハ二十五米ノ軌條ヲ長物車ニ掛渡積トシ運送スル場合ハ左ノ各號ニ依ルベシ
  - 一 發驛驛長ハ積載スベキ軌條ノ種類、數量及發送月日ヲ豫メ受持檢車區長ニ通知シ其ノ積載方ニ付檢査ヲ受クルコト
  - 二 貨主ニ於テ準備、取付ヲ爲シタル積載用具ハ軌條ノ取卸後直ニ之ヲ取外サシムコト但シ當該貨車ヲ發驛ニ返送方申出アルトキハ豫メ關係ノ向ト打合セノ上貨車ニ取付ケタル儘返送スルコトヲ得
- 第十條 甲種ノ鐵道車輛(直通承認社車ヲ除ク)ノ運送ニ當リテハ驛長ハ豫メ受持檢車區長ト打合セ且現車ニ



付検査ヲ受クベシ

第十一條 前條ノ場合鐵道局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ荷送人ヨリ左ノ費用ヲ收受シ試運轉ヲ行フベシ

一 特ニ臨時列車ヲ以テ運轉スルトキ

貨切列車ニ依リ運送スル甲種ノ鐵道車輛ノ運賃

二 其ノ他

甲種ノ鐵道車輛ノ運賃

前項ノ場合係員ヲ添乗セシメタルトキハ一人毎ニ第十條ニ定ムル費用ヲ收受スベシ

第十二條 託送車輛ノ連結器ガ省所屬ノモノト異ルトキ又ハ車輛ニ取付ケタル扛重機其ノ他ガ車體ノ前又ハ後ニ突出スルトキハ遊車ヲ使用シ途中解放ヲ防止スルタメ車輛相互間ノ連結器ヲ緊縛スル等適當ノ處置ヲ講ジ置クベシ此ノ場合ニハ左ノ條件ヲ具備スル車扱貨物ヲ積載シタル貨車ヲ以テ遊車ニ代フルコトヲ得

一 託送車輛ト發驛、着驛、荷送人及荷受人ヲ同ジクスルモノナルコト

二 託送車輛ノ突出部トノ間ニハ左右及前後ニ於テ六十糎以上、上下ニ於テ十五糎以上ノ遊間ヲ存スルモノナルコト

第十三條 甲種ノ鐵道車輛ヲ運送スル場合荷送人ニ於テ適當ナル附添人ヲ附スルコト能ハザルトキハ鐵道局長ニ於テ附添人ニ代ヘ相當係員ヲ乗車セシムルコトヲ得

備考

一 幅ハ車體中心線ヨリ測リ何レカノ側ニテ最モ大ナル寸法ノ二倍ヲ記入スルコト

二 車端ヨリ突出シテ積載スル貨物ニ對シテハ突出シタル部分中第七條第一號ノ制限ニ最モ近キ部分ノ幅及該部ノ突出寸法ヲ括弧ヲ附シ夫々最大幅及最大長欄ニ併記スルコト但シ突出部ノ幅カ第七條第一號ノ制限ヲ超ユルトキハ鐵道局長ノ指示スル部分ノ寸法ニ依ル

三 貨物ノ下面ト軌條面トノ間隔ハ側面上面ヨリ下方ニ突出シテ積載スル場合ニ限り記入スルコト

第十五條 前條ノ特種貨物検査票ナキ貨物ニシテ規則第二十四條ノ幅又ハ高ノ制限ヲ超エテ積載シタルモノヲ發見シタル場合ハ受持檢車區長ニ於テ検査シ、規則第五十一條補則一又ハ三ニ依リ其ノ儘運送セシメ差支無シト認メタルトキハ特種貨物検査票ヲ作成挿入スベシ規則第五十一條補則三ニ依リ其ノ儘運送ヲ繼續スル場合ハ前項ノ特種貨物検査票ノ上部赤地ノ部分ニ「事故」ナル文字ヲ墨書スベシ

前二項ノ規定ハ大物車ニ積載シタル貨物、三車以上ニ跨リ積載シタル貨物及甲種ノ鐵道車輛（直通承認社車ヲ除ク）ニシテ前條ノ特種貨物検査票ナキモノヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 臨時約束貨物運送ノ場合特別ノ手配又ハ貨車

此ノ場合ハ左ノ費用ヲ收受スベシ

一 機關車 一車一料迄毎ニ 五 錢

二 其ノ他ノ車輛 同（ボギー車ハ二車ニ換算） 一錢五厘

（註）一 航送航路ニ跨リ運送スル場合ハ該航路ニ對スル本條ノ費用ハ之ヲ收受セザルモノトス

第十四條 第四條又ハ第十條ニ依リ検査ヲ行ヒタル檢車區長ハ特種貨物検査票ヲ貨車表示票挿（貨車表示票アルトキハ其ノ内側）ニ挿入スルノ外第四條ニ依ルモノニ在リテハ貨物ノ移動ヲ識別シ易カラシムル標示ヲ爲スベシ

特種貨物検査票ノ様式ハ左ノ通トス

九五糎			
特種貨物検査票			
検査 年月日			
輸送	積載	積載	限界以内
番号	限度	限度	
最大高			糎
最大幅			糎
最大長			糎
貨物下面	軌條下面	關係	
ト	ト	ト	
檢車區			
一四五糎			

特種貨物検査票欄（點線上部）赤地白抜トシ検査月日欄以下ハ白地赤色刷トス

ニ特殊ノ設備ヲ爲ス等ノ爲要シタル費用ハ請願工事經費負擔規程ノ定ムル所ニ依リ收受スベシ

模型ヲ取付ケタル車輛ヲ試運轉シタル場合ニ於テハ模型ノ製作及取付ノ費用ヲ前項ノ規定ニ依リ收受スルノ外使用シタル車輛ニ付車輛貸渡及使用規則第九條第二項ニ定ムル料金及第十一條ニ準ジ試運轉ニ要シタル費用ヲ收受スベシ

（註）一 本條ノ「費用」トハ貨物積卸ノ爲ニ積卸場ニ特殊ノ設備ヲ施シ又ハ貨車ニ特殊ノ設備ヲ施ス等ノ爲特ニ要スル諸費用ヲ謂フ

附則

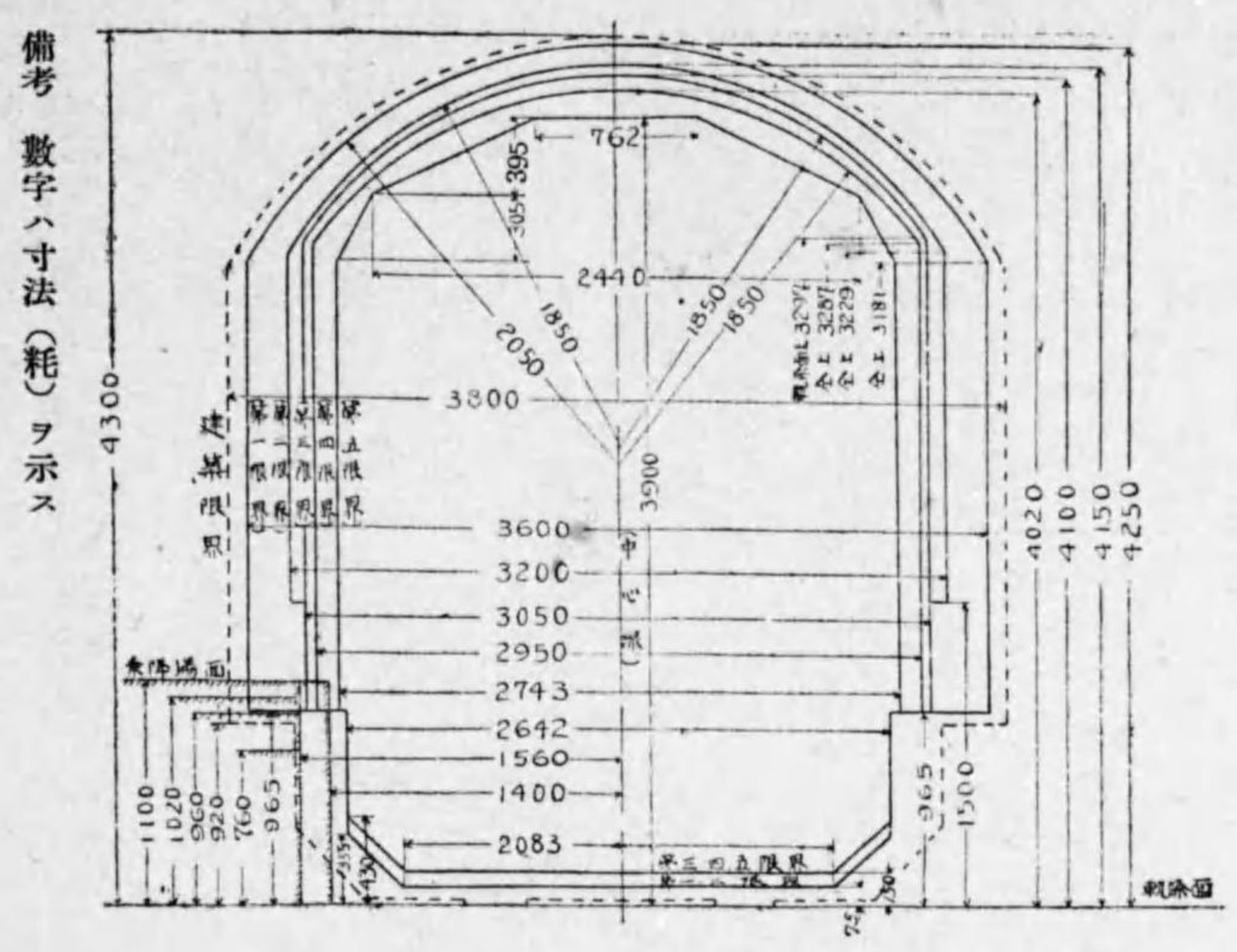
第六十七條 本手續ハ昭和十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年三月達第二〇八號特種貨物運送手續ハ之ヲ廢止ス

第六十八條 本手續施行前引渡ヲ受ケタル貨物ノ運送ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルベシ

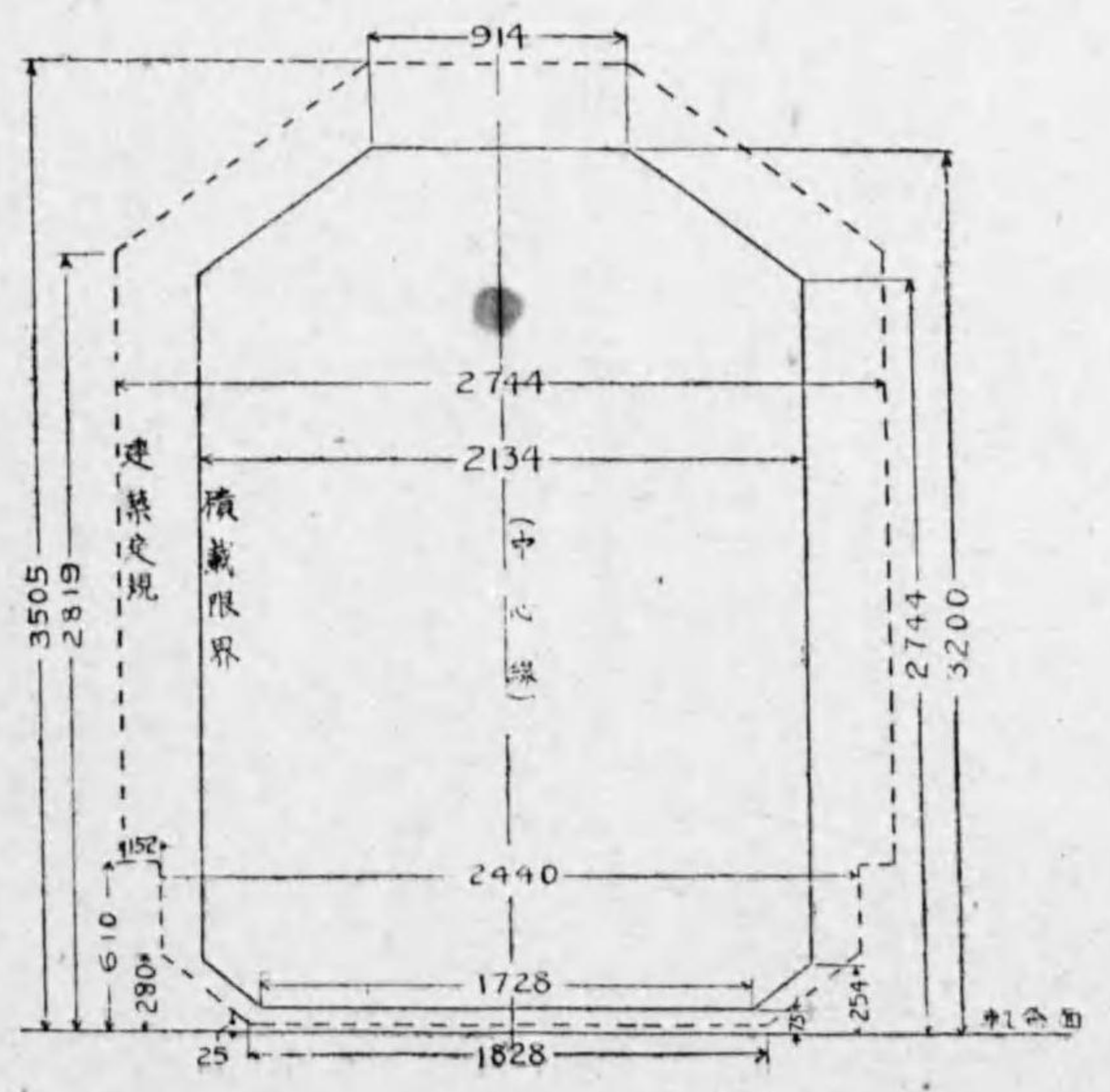


(別表第一圖)  
貨物ノ積載限界



備考 數字ハ寸法(耗)ヲ示ス

(別表第二圖)  
貨物ノ積載限界



備考 數字ハ寸法(耗)ヲ示ス

### 五四、潤大貨物其ノ他輸送検査取扱心得

潤大貨物其ノ他輸送検査取扱心得左ノ通定メ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 潤大貨物其ノ他輸送検査取扱心得

##### 第一章 總 則

第一條 潤大貨物、特殊車輛其ノ他ノ輸送ニ關スル検査取扱ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除キ本心得ニ依ルベシ

註一 本心得ニ關係アル規程ノ主ナルモノ左ノ如シ

- |               |                     |
|---------------|---------------------|
| 規定事項          | 規程ノ名稱               |
| 車輛ノ構造ニ關スル事項   | 國有鐵道建設規程            |
| 車輛ノ検査ニ關スル事項   | 客貨車検査規程並ニ客貨車検査取扱心得  |
| 車輛ノ運轉取扱ニ關スル事項 | 運轉取扱心得、客貨車運轉禁止ニ關スル件 |
| 車輛ノ換算ニ關スル事項   | 車輛換算法               |
| 貨物運送ニ關スル事項    | 貨物運送規則並ニ同補則         |
| 特殊貨物ノ運送ニ關スル事項 | 特殊貨物運送手續            |
| 貨物輸送ニ關スル事項    | 貨物輸送手續              |

(昭和一七、三、二〇) 達第一七、三、六號

- 火藥類ノ運送ニ關スル事項 火藥類鐵道運送規程
- 車輛ノ貨渡ニ關スル事項 車輛貨渡及使用規則
- 内地連絡運輸ニ關スル事項 内地連絡運輸規則並ニ内地連絡運輸取扱細則

第二條 本心得ニハ左ノ略語ヲ用フ

- 一 規 則 貨物運送規則
- 二 手 續 特殊貨物運送手續
- 三 直通社線 省線ト貨車ノ直通運轉ヲ爲セル地方鐵道又ハ軌道

第三條 本心得ニ依リ検査取扱ヲ爲スベキ範圍ハ左ノ通

- トス
- 一 潤大貨物
- 二 特殊作業ヲ伴フ軍用貨物
- 三 甲種鐵道車輛
- 四 第一縮小車輛限界ヲ超ユル省有車輛
- 五 操重車及起重機車
- 六 毀損車輛
- 七 車扱ニ依ル火藥類積載貨車
- 八 活魚車及ドライアイスヲ使用スル冷藏車
- 九 貨物積卸及輸送ニ必要ナル一時的貨車施設



- 註一 第一號ニ定ムル潤大貨物トハ手續第四條ニ該當スル貨物ヲ謂フ
- 註二 第二號ニ定ムル特殊作業ヲ伴フ軍用貨物トハ潤大貨物以外ノモノニシテ別ニ積載基準ヲ定メタルモノ及軍用車輛類ニシテ轉動防止ヲ要スルモノ或ハ負擔面ノ關係上積卸ニ當リ特別ノ考慮ヲ要スルモノ並ニ軍馬積貨車ニ通風裝置ノ取付取外作業等ヲ謂フ
- 註三 第三號ニ定ムル甲種鐵道車輛トハ自己ノ車輪ニ依リ運轉シ運送セララル鐵道車輛ヲ謂フ但シ規則第二條第五號ニ該當スル私有貨車及直通社線所屬ノ車輛ニシテ省線ニ直通運轉ヲ承認シタルモノヲ除ク
- 註四 第六號ニ定ムル毀損車輛トハ省有客貨車、規則等二條第五號ニ該當スル私有貨車及省線ニ直通運轉ヲ承認シタル直通社線所屬ノ車輛ニシテ毀損シタルモノヲ謂フ
- 第四條 前條ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ輸送其ノ他ニ當リテハ檢車區長其ノ檢査取扱ヲ爲スベシ
- 第五條 第三條ニ定ムル貨物、車輛及其ノ他ノ檢査取扱ニ關スル檢車區受持區域ハ鐵道局長ニ於テ之ヲ定ムベシ

### 第二章 調査並ニ取扱

第六條 檢車區長ハ第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ運送方其ノ他ニ付通知ヲ受ケタル場合ハ現物ニ付調査ヲ爲

シ驛長限リ受託シ得ルモノニ在リテハ速ニ其ノ積載方其ノ他ヲ荷送人ニ指示スベシ  
鐵道局長ノ承認ヲ要スルモノニ在リテハ左ニ掲グル調書及圖面ヲ作成シ驛長ト打合ノ上之ヲ提出シ指示ヲ受クベシ

- 一 潤大貨物
    - イ 第一號様式ニ依ル潤大貨物積載圖ニ積載要領ヲ記入シタルモノ
    - ロ 第二號様式ニ定ムル輸送手配及特別手配ノ費用
  - 二 甲種鐵道車輛
    - イ 車輛ノ組立圖、臺枠、走行部、連結器、緩衝裝置及制動裝置ノ圖面
    - ロ 車輛斷面形狀ヲ第一號様式ニ依ル潤大貨物積載圖ニ記入シタルモノ
    - ハ 第二號様式ニ依ル甲種鐵道車輛調査要項
    - 三 其ノ他
      - 特別手配ノ概要並ニ其ノ他參考事項
- 註一 驛長ハ第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ運送申込ヲ受ケタル場合ハ直ニ其ノ品名、數量、形狀、寸法其ノ他ノ要領ヲ受持檢車區長ニ通知スルモノトス
- 註二 本條第二項第二號イニ定ムル圖面ハ荷送人ヨリ之ヲ徴シ

### 載大サニ關スル制限

- 四 直通社線内ニ於ケル運轉車輛及貨物積載大サニ關スル特別ノ制限
- 五 高九二〇耗又ハ一一〇〇耗ノ乗降場ヲ有スル區間ニ於ケル貨物ノ幅ニ關スル制限
- 六 車輛又ハ貨物ノ軌條面上最低高ニ關スル制限
- 七 航送ニ關スル制限
  - 註一 本條第一號ニ付テハ左記參照  
大正十三年十二月達第九一三號 運轉取扱心得第二章 昭和三年七月達第五四〇號 客貨車運轉禁止ニ關スル件
  - 註二 本條第二號及大形客車運轉禁止區間ニ付テハ昭和三年七月達第五四〇號客貨車運轉禁止ニ關スル件別表其ノ一參照
  - 註三 本條第四號ニ付テハ昭和四年十月達第七八八號連絡運輸ヲ爲セル地方鐵道及軌道ト省線相互間貨車直通運轉ノ件別表其ノ一參照
  - 註四 當時貨物列車ノ運轉スル區間ニシテ高九二〇耗又ハ一一〇〇耗ノ乗降場ヲ有スル區間ハ左ノ如シ

- 甲種鐵道車輛ノ運送區間ガ一鐵道局又ハ一直通社線ヲ増ス毎ニ一組ヲ増スモノトス但シ省拂下車輛等ニシテ其ノ形狀構造等ヲ判明シ得ルモノニ在リテハ圖面ヲ省略スルコトヲ得
- 註三 鐵道局長ノ承認ヲ要スルモノニシテ他局又ハ直通社線ニ跨リ運送スル場合ハ發鐵道局ニ於テ關係鐵道局又ハ直通社線ト豫メ打合セテ爲スモノトス
- 前項ノ場合直通社線ガ他局管内ヨリ接続スルモノニ在リテハ關係鐵道局ヲ經由スルモノトス
- 第七條 前條ノ調査ニ當リテハ必要ニ應ジ製作工場等ニ出向スルモノトシ、荷造、積付其ノ他ノ爲、重心位置、荷重負擔面ノ適否等ヲ判定スルコト困難ナルモノニ在リテハ驛長及荷送人ト協議シ之ヲ確認スベシ
- 第八條 貨物ノ積卸並ニ輸送ニ當リテ車體部分ノ取付、取外其ノ他特殊ノ作業ヲ要スルモノニ在リテハ檢車區長其ノ手配ヲ爲スベシ
- 第九條 第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ調査ニ當リテハ豫メ輸送經路ニ於ケル運轉又ハ積載ニ關スル左ノ各號ノ制限ニ付注意スベシ
  - 一 車輛ノ構造其ノ他ニ依ル連結軸數、連結位置及運轉速度又ハ入換方法等ニ關スル制限
  - 二 簡易線ニ於ケル運轉車輛ニ關スル制限
  - 三 大形客車運轉禁止區間ニ於ケル車輛又ハ貨物ノ積



高九二〇耗ノ乗降場ヲ有スル區間

線名	區間	線名	區間
東海道本線	京都—塚本	東海道本線	神崎—明石
西成線	福原—櫻島	中央本線	飯田町—國立
横須賀線	大船—横須賀	總武本線	兩國—千葉
中央本線	立川—淺川	横濱線	長津田—菊名
山手線	板橋—十條	城東線	京橋—玉造
常磐線	三河島—松戸	片町線	片町—四條畷
可部線	横川—可部		
福鹽線	福山—府中町		

註五 車輛ノ軌條面上最低高ニ付テハ昭和四年七月省令第二號

國有鐵道建設規程第五十六條第四圖參照

註六 本條第七號ニ付テハ昭和十三年四月達第二六六號車輛渡

船甲板上縮小建築限界參照

第十條 第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ニシテ輸送途中特ニ監視ヲ要スル場合ハ關係係檢車區長ハ係員ヲ添乗セシメ輸送ノ安全ヲ期スベシ

### 第三章 檢査

#### 第一節 潤大貨物及特殊作業ヲ伴フ軍用貨物

第十一條 潤大貨物ノ積載ニ當リテハ左ノ各號ヲ確認スベシ

- 一 使用貨車ノ完全ニシテ且輸送途中ニ於テ其ノ檢査期限ガ經過セザルコト
- 二 積載後ノ貨物ノ偏重ヲ防止シ成ル可ク重心位置ヲ低下セシムルコト
- 三 荷受臺ノ位置及荷重負擔面ノ長ガ適正ナルコト
- 四 僅少ナル負擔面積ヲ以テ大ナル荷重ヲ受ケ床板ヲ損傷セシムル虞アルモノニ在リテハ適當ノ敷板ヲ用ヒテ其ノ面積ヲ増スコト
- 五 前號ノ貨物ヲ貨車上ヲ移動シテ積卸スル場合ハ貨物ノ通路ニ當ル貨車ノ床板上ニ適當ノ敷板ヲ用フルコト
- 六 貨物積載後ニ於ケル荷造又ハ積付材料等ヲ含ミタル軌條面上ノ積載高及幅ガ所定ノ制限以內ナルコト
- 七 貨物ノ積載ニ當リ貨車ノ部分品ヲ取外シタル場合及廻轉枕木又ハ柵柱ニシテ運轉ニ支障スル虞アルタメ之ヲ取外シタルトキハ脱落又ハ紛失セザル様當該貨車ノ適當ノ位置ニ積込ムコト

註一 第三號ニ付テハ規則第二十五條及同註參照

註二 第六號ニ付テハ手續第六條及第七條參照

註三 二車以上ニ跨リ貨物ヲ積載スル場合ハ本條ニ依ルノ外手續第七條、第八條並ニ同註參照

第十二條 貨物ヲ車體ニ緊縛固定シタル場合檢車區長ハ

中心ピン	縮金	取付ボルトナット	パツキン(木板)
7 二	8 二	9 二	10 二
			二六
			五

註一 積載用具ノ準備ハ荷送人ニ於テ之ヲ爲スベキモノナルモ當時定尺軌條ノ發送アル場所ニ在リテハ其ノ保管ヲ檢車區長ニ於テ爲スコトヲ得

第十四條 定尺軌條ノ種類別使用貨車形式及積載限度數量ハ左記ニ依ルベシ

定尺軌條種類	使用貨車形式	積載限度數量
五〇距二五米	チキ一〇〇〇又ハ一五〇〇形式各二輛一組	本數 四八 重量(噸) 六〇、五
三七距二五米	チキ一〇〇〇、一五〇〇又ハ八〇〇形式各二輛一組	本數 六六 重量(噸) 六一、三
三〇距二〇米	チキ一〇〇〇形式各二輛一組	本數 八〇 重量(噸) 四八、〇
五〇距二五米	チキ八〇〇形式二輛一組	本數 三六 重量(噸) 四五、四
三七距二五米	チキ一又ハ三〇〇形式各二輛一組	本數 四八 重量(噸) 四四、六
三〇距二〇米	チキ一又ハ三〇〇形式各二輛一組	本數 七〇 重量(噸) 四二、〇

第十五條 定尺軌條ノ積載檢査ニ當リテハ左ノ各號ニ依ルベシ  
一 一組ノ長物車ハ同一形式ノモノヲ使用シ床面高、

左ノ各號ニ注意スベシ

- 一 綱ハ乾燥セルモノヲ使用シ必要ニ應ジ鋼索ヲ使用スルコト
- 二 綱又ハ鋼索ノ捲付部ニ於ケル弛緩、脱出竝ニ摺動ニ依ル切斷ヲ防止スルコト
- 三 移動止ハ貨物ノ品質、形狀ニ應ジ適當ナルモノヲ使用シ必要ニ應ジ貨物又ハ移動止ヲ直接車體ニボルト締トスルコト

註一 錠ハ補助締ノ外使用セザルモノトス

#### 第二節 軌條

第十三條 ポギー長物車二車ヲ使用シテ長二十米又ハ二十五米ノ軌條(以下定尺軌條ト稱ス)ヲ運送スル場合ノ積載用具ハ左表竝ニ別圖第一圖乃至第七圖ノ通ニシテ其ノ取付方ハ別圖第八圖及第九圖ニ依ルベシ

整理番號	積載用具部分品名	一組分箇數	一箇分重量
1	滑リ臺(大)	二	一七二
2	滑リ臺(小)	二	一三九
3	廻轉臺(柱抑木付)	一	二〇〇
4	廻轉臺(柱付)	一	一六〇
5	廻轉臺受(鐵製)	二	六五
6	廻轉臺受(木製)	二	八五



自動連結器高及制動力ノ近似セルモノヲ選ブコト

二 中間ノ自動連結器解放テコハテコ止ニ緊縛スルコト

三 チキ八〇〇形式及三十五吨積ボギー長物車ノ柵柱ハ車體中央部寄柵柱挿ニ挿入シ置クコト

四 積載用具ハ完全ニ装着シアルコト

五 軌條積載ニ先立チ左ノ各部ヲ清掃ノ上塗油シアルコト

イ 廻轉臺上面(抑木無キ側ニ限ル)

ロ 滑臺上面

ハ 廻轉臺上ノ上面摺動部

六 軌條ノ組合セ方ハ別圖第十圖ノ基準ニ依ルコト但シ已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラザルモ其ノ爲緊縮力ノ及バザル軌條ヲ無カラシムルコト

七 抑木ハ十分ニ緊縛シ且押ネチガ弛マザル様針金ノ類ヲ以テ縛リアルコト

八 磨滅シタル軌條ニ在リテハ軌條トパッキントノ間ニ莖又ハ軟挾木ノ類ヲ用ヒテ摺動防止ヲ爲スコト

九 軌條ノ端部ボルト孔ハ針金ノ類ヲ通シテ相互緊縛シ軌條ノ中央部一箇所ヲ荷造用綱ニテ結束シ置クコト

第十六條 定尺ニ在ラザル軌條ヲボギー長物車二車ニ掛

渡積ヲ爲ス場合ハ鐵道局長ノ承認ヲ受クベシ

此ノ場合軌條ノ長ニ依リ使用長物車ノ形式ヲ選定シ各車輪ノ負擔重量ヲ均等ナラシムル様廻轉臺及滑臺ノ位置又ハ荷受方法ヲ考慮スベシ

第三節 車 輛

第十七條 第三條第三號乃至第六號ニ定ムル車輛ハ發送前檢査區長ニ於テ仕立檢査ニ準ジ臨時檢査ヲ爲シ左ノ各號ヲ確認スベシ

一 車輛ノ外廓寸法、固定軸距、自重、車端ノ偏倚ニ對スル自動連結器連結面ノ左右可動寸法

二 制動裝置ノ種類ニ依ル制動弁重連用コック、縮切コック等ノ處置竝ニ其ノ有無ニ依ル列車連結位置ノ適否

三 臺枠又ハ連結裝置ノ強度ニ依ル列車連結位置ノ適否

四 自重五、五吨以下又ハ固定軸距三米未満(先輪又ハ後輪ヲ有スルモノヲ除ク)等ノ運轉制限ニ依ル連結列車ノ適否

第十八條 甲種鐵道車輛ハ發送前荷送人ヲシテ左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ

配ヲ爲スモノトス

第二十條 電氣機關車ニ在リテハ第十八條ニ依ルノ外左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ

一 集電裝置ハ取外スカ又ハ上昇セザル様折疊位置ニ緊縛スルコト

二 元斷路器及主電動機開放器ハ開キ置クコト

三 航送スル場合ニ於テハ排障器、砂撒管及レール水マキ管ハ取外スコト

註一 E L 14形空氣制動裝置ヲ有スルモノニ在リテハ昭和三年八月達第六四號空氣制動機取扱心得第五十二條ニ定ムル手配ヲ爲スモノトス

第二十一條 電車ニ在リテハ第十八條ニ依ルノ外左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ

一 集電裝置ハ取外スカ又ハ上昇セザル様折疊位置ニ緊縛スルコト

二 元斷路器、主電動機開放器ヲ開キ置クコト

三 制動弁ハハンドル外シ位置トシ制動筒ハ之ヲ作用セシメザルコト

四 元空氣溜管式制動裝置ニ在リテハ制動管ホースヲ取外シ元空氣溜管ヲ列車ノ制動管トシテ使用シ元空氣溜管コックハ之ヲ縮切ルコト

五 制御管式ニ於テハ制動管ホースヲ取外シ制御管ヲ

一 運轉要部ニハ到着迄ニ必要ナル給油ヲ爲スコト

二 隣接車輛其ノ他ニ障礙ヲ與フル虞アル部分ハ取外スカ又ハ適當ノ處置ヲ爲スコト

三 制動裝置ガ省有車輛ノモノト異ル場合ハ作用セシメザルコト

第十九條 蒸氣機關車及蒸氣動車ニ在リテハ前條ニ依ルノ外左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ

一 罐水ヲ排除シ燃料ヲ取卸スコト但シタンク機關車ニシテ軸重ノ均衡ヲ計ル必要アルモノニ在リテハ水槽ニ適當量ノ水又ハ其ノ他ノ死重ヲ積載セシムルコト

二 主連棒、偏心棒(偏心輪ヲ含ム)ハ之ヲ取外シ當該機關車ノ適當個所ニ脱落セザル様積載シクロスヘツド、合併テコ及加減リンクハ移動セザル様適當ナル場所ニ緊縛スルコト

三 連結棒ハ取付ケタル儘トシ主連棒ヲ取外シタル爲之ガ橫動ヲ附加スルモノニ對シテハクランクピンニ木片ヲ添ヘ緊縛スルコト

四 航送スル場合ニ於テハ排障器、砂撒管及レール水マキ管ハ取外スコト

註一 E T 6形空氣制動裝置ヲ有スルモノニ在リテハ昭和三年八月達第六四號空氣制動機取扱心得第五十一條ニ定ムル手



列車ノ制動管トシテ使用シ元コック竝ニ二道コックハ縮切ルコト

- 六 補助及附加空氣溜ノ排水コックハ開放シ置クコト
- 第二十二條 ガソリン及ディーゼル動車ニ在リテハ第十八條ニ依ルノ外左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ
  - 一 圧力空氣ニ依リ操作スル逆轉裝置ヲ有スルモノニ在リテハ逆轉弁縮切コックヲ閉塞スルコト
  - 二 變速テコ、逆轉機小齒車ノ手動テコハ中立位置ニ固定シ置クコト
  - 三 冷却水及燃料ハ排除シ置クコト

第二十三條 毀損車輛ヲ輸送セントスル場合ハ左ノ各號ノ手配ヲ爲スベシ

- 一 成ル可ク貫通制動機又ハ制動管ヲ使用シ得ル様手配ヲ爲スコト
- 二 貫通制動機ヲ使用シ得ザル車輛又ハ自動連結器ノ破損セル車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得ザルモノニ在リテハ針金ノ類ヲ以テ自動連結器ノ錠揚ヲ器頭ニ緊縛スルカ又ハ適當ナル方法ヲ以テ錠防止ヲ爲スコト
- 三 毀損車輛ニシテ左右輪重ノ不均ナルモノ又ハ前後軸重ニ著シキ差違アリト認メラルモノハ死重ノ積載等ニ依リ各位ノ負擔ヲ適正ナラシムベシ

第二十四條 移動起重機車ニ在リテハ第十八條ニ依ルノ外左ノ各號ノ取扱ヲ爲サシムベシ

- 一 蒸氣ロコモチーブ起重機車
  - イ 車輛ニ裝置シアル旋回裝置ハ運轉中移動セザル様緊縛スルコト
  - ロ 動力用齒車ト車軸齒車トノ嚙合ヲ外シ運轉中齒車ハ相互ニ接觸セザル様固定スルコト
- 二 移動式ジブ起重機車
  - イ ジブ取付部ニノックヲ挿入スルコト
  - ロ ジャッキハ上方ニ縮上ゲノックヲボデーノ孔ニ挿入スルコト
  - ハ 擔バネノ撓ミ抑制裝置ハ取外スコト
  - ニ 中間ニ遊車ヲ使用スル場合ハ腕ヲ之ニ縛ラザルコト

第二十五條 操重車及起重機車等ニシテ車體ノ前部又ハ後部ニ突出部ヲ有スルモノ又ハ輸送車輛ノ連結器ガ省有車輛ト連結シ得ザルモノニ對シ遊車ヲ使用スル場合ハ左ノ各號ヲ確認スベシ

- 一 遊車ノ自重、軸重、固定軸距等ノ車輛ノ構造ヲ運轉上ノ制限ニ牴觸スルモノナキコト
- 二 輸送車輛突出部ト遊車各部トノ間隔ガ所定ノ制限以上タルコト

三 輸送車輛及遊車ノ相互偏倚ト連結器ノ機能關係トガ適正ナルコト

四 輸送車輛ト遊車間ノ連結器ノ解放防止ヲ爲スコト

註一 第二號ニ付テハ手續第八條參照

第二十六條 甲種鐵道車輛ハ運送前試運轉ヲ施行スベシ

但シ運送ノ途中ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

前項ノ試運轉ニハ四車(ボギー車ハ一車ヲ二車ニ換算ス)ニ付一名ノ割合ヲ以テ係員ヲ添乗セシムルモノトス

註一 運送區間ガ一〇〇軒未滿ナルトキハ本條ノ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

註二 甲種鐵道車輛ハ空車ニテ運送スベキモノナルモ已ムヲ得ズ之ニ他ノ貨物ヲ積載シテ輸送スル場合ニハ空車試運轉ノ有無ニ係ハラズ貨物積載後ノ運送途中相當區間本條第二項ニ定ムル係員ヲ附シ試運轉ノ形式ニ依ルモノトス

第四節 火藥類積載貨車

第二十七條 火藥類積載貨車ノ検査ニ當リテハ發送前滞留検査ニ準ズル臨時検査ヲ爲スノ外特ニ左ノ各號ヲ確認スベシ

- 一 雨漏ノ虞ナキコト
- 二 車體内部ハ火藥類ヲ積載スベキ位置及其ノ附近ニ鐵類ガ突出セザルコト

三 連結及緩衝裝置ノ完全ナルコト

四 軸箱各部及給油具ノ完全ナルコト

五 運轉中制輪子ノ捲上リ及車側ブレーキテコガテコ止ヨリ外レル虞ナキコト

註一 第二號ノ場合木板、革、布又ハ葦ノ類ヲ以テ火藥類ヲ覆フ場合ハ鐵類ノ露出ハ妨ゲズ

第二十八條 空氣ブレーキノ作用検査ハ列車ニ組成ノ際機關車ノ制動弁ヲ用ヒ〇、六疋ノ減圧ニテ制動シ且完全ニ緩解スルコトヲ確認スベシ

作用不良ニシテ縮切コックヲ縮切リタルモノハ其ノ旨表示シ且補助空氣溜圧力空氣ヲ排除シ置クベシ

第五節 活魚車及冷蔵車

第二十九條 長期間ニ亘リ停留セル活魚車ヲ使用ノタメ廻送セントスル場合ハ該車ノ所屬檢車區長ニ於テ仕立検査ニ準ジ臨時検査ヲ爲スベシ

第三十條 前條ノ検査ニ當リテハ左ノ各號ヲ確認スベシ

- 一 水揚ポンプ
  - イ 揚水作用ノ良好ナルコト
  - ロ 各部ヨリ漏水セザルコト
  - ハ 排水コックノ完全ナルコト
- 二 水揚ポンプ自動運轉裝置
  - イ クランクノ作用良好ナルコト



ロ クランク受取付ボルトノ弛緩セザルコト  
ハ クラッチノ作用良好ナルコト

三 クラッチノ摺動部、クラッチヲ入レル調車、クラ  
ンク連結棒ピン及調車軸受ニ給油スルコト

四 散水口及落水口ハ掃除ヲ爲シ作用良好ナルコト

五 各魚槽間ノ通水ノ完全ナルコト

六 貯水槽、給水口、塵コシ網ノ掃除シアルコト

七 分散器

イ 噴氣ノ良好ナルコト

ロ 炭素棒ノ安全ナルコト

ハ 保護装置取付部ヨリ漏氣セザルコト

八 空氣逆止弁ハ四、五疋ニ調整シアルコト

九 各コック類ハ其ノ作用良好ナルコト

註一 分散器ノ噴氣不良ノ場合ハ柔キ刷毛ノ類ヲ以テ炭素棒表  
面ヲ拂拭シ噴氣ヲ促スコト

第三十一條 活魚車ハ使用前受持檢車區長ニ於テ豫メ機  
能及備品ノ完全ナルコトヲ確認シ附添人ニ對シテ輸送  
途中必要ナル操作ヲ理解セシムベシ

註一 活魚車部分品ノ主ナルモノ左ノ如シ

分散器

同用ゴムホース

網 棹

八箇

八本

八本

ポンプ手動ハンドル 一箇  
散水口 八箇

水槽塵濾 一箇

第三十二條 活魚車ヲ使用スル場合ハ左ノ各號ニ注意ス  
ベシ

一 魚槽内、貯氷庫、通路、附添人室ハ完全ニ清掃シ  
アルコト

二 魚槽ニ使用スル氷ハ鋸屑、泥等ノ附着セザルコト

三 魚槽ニ給水スル場合ハ床下排水コックヲ閉塞ノ上  
魚槽内壁ニ標示シアル定水量線(赤線)ヲ超過セザ  
ルコト

四 貯水槽ヘノ給水ハ屋上給水口ヨリ之ヲ爲スコト此  
ノ場合ハ一號形式ニ在リテハ床下給水口ヲ閉塞シ置  
クコト

五 空氣補給用締切コックハ開キ置クコト

六 空氣溜ニ圧力空氣ヲ急速ニ充填セントスル場合ハ  
停車中ニ限り脇道コックヲ開キ脇道管ヨリ之ヲ爲シ  
タル後脇道コックヲ閉塞シ置クコト

七 活魚ノ積込ハ魚槽及貯水槽ヘノ給水ヲ終リ給氣準  
備ノ完了シタル後之ヲ爲スコト

八 運轉中揚水ノ要ナキ場合ハ水揚ポンプ附屬ノクラ  
ンクヲ取外シ、クラッチテコヲ外シ位置ニ移シ置ク

コト

九 魚類ノ積込多量ニシテ氣温ノ關係ト相俟チ酸素ノ  
補給困難ト認メラルルトキハ圧縮酸素壘ヲ積込ミ必  
要ニ應ジ圧縮空氣ト切換ヘ分散器ヲ通ジ魚槽内ニ酸  
素ヲ噴氣セシムルコト

註一 分散器ヲ使用セザル場合ハ必ず之ヲ側壁ニ設ケアル懸金  
具ニ掛ケ置クコト

第三十三條 著驛ニ於テ活魚ヲ取卸シタル場合檢車區長  
ハ左ノ各號ニ注意スベシ

一 貯水槽及魚槽内ノ水ヲ排出シ給氣管附屬ノコック  
ハ總テ之ヲ閉塞シ置クコト

二 水揚ポンプ附屬ノクランクヲ取外シクラッチテコ  
ヲ外シ位置ニ移シ置クコト

三 分散器ヲ側壁ニ設ケアル懸金具ニ掛ケ置クコト

四 鹹水ヲ使用シタル場合ハ貯水槽、魚槽及通水管内  
部ヲ清水ヲ以テ十分清掃シアルコト

註一 鹹水ヲ使用シタル活魚車ヲ直チニ清流魚ノ輸送ニ使用ス  
ルコトハ之ヲ避クルモノトス

第三十四條 レニ五〇形式冷蔵車ニドライアイスヲ使  
用スル場合ハ左ノ各號ニ注意スベシ

一 氷槽内ニ異物ノ介在セザルコトヲ確メタル後ドラ  
イアイスヲ容ルルコト

ポンプ手動ハンドル 一箇  
散水口 八箇

水槽塵濾 一箇

第三十五條 潤大貨物ヲ積載シタル場合ニハ貨物ノ移動  
ヲ識別シ易カラシムル爲メ貨車兩側及兩棧ニ於テ貨物ト  
貨車トノ接スル部分(荷受臺ヲ取付ケタルモノハ其ノ  
臺共)ニ又二車ニ掛渡積ミトセル軌條ニ對シテハ廻轉  
臺又ハ軌條承臺際ノ軌條ニ對シ各一箇所宛白ペイント  
ヲ以テ幅三十耗ノ目標ヲ附スベシ

車端ヨリ突出シテ積載スル貨物ニ對シテハ前項ニ依ル  
標示ヲ爲スノ外第三十七條第三號ニ依リ特種貨物検査  
標ニ括弧ヲ附シテ記載スベキ貨物ノ幅及突出寸法測定  
位置ニ白ペイントヲ以テ×印ヲ附スルコト

註一 一車ニ積載スル貨物が二箇以上ナルトキハ各別ニ第一項  
ニ定ムル標示ヲ爲スモノトス

第六節 検査後ノ標記

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

二 車扉及床面排水口ノ閉塞ハ氣密ナルコト

三 通氣路底部排水コックハ閉塞シアルコト

四 氷槽ノ氷入口蓋裏ノ小蓋ヲ開キ換氣ヲ計ルコト但  
シ氣化シタルドライアイス瓦斯ヲ車内ニ導入スル場  
合ハ該小蓋ハ密閉シ車内中央部ノ締切コックヲ開ク  
コト

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

第六節 検査後ノ標記

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

二 車扉及床面排水口ノ閉塞ハ氣密ナルコト

三 通氣路底部排水コックハ閉塞シアルコト

四 氷槽ノ氷入口蓋裏ノ小蓋ヲ開キ換氣ヲ計ルコト但  
シ氣化シタルドライアイス瓦斯ヲ車内ニ導入スル場  
合ハ該小蓋ハ密閉シ車内中央部ノ締切コックヲ開ク  
コト

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

第六節 検査後ノ標記

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

二 車扉及床面排水口ノ閉塞ハ氣密ナルコト

三 通氣路底部排水コックハ閉塞シアルコト

四 氷槽ノ氷入口蓋裏ノ小蓋ヲ開キ換氣ヲ計ルコト但  
シ氣化シタルドライアイス瓦斯ヲ車内ニ導入スル場  
合ハ該小蓋ハ密閉シ車内中央部ノ締切コックヲ開ク  
コト

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

第六節 検査後ノ標記

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

二 車扉及床面排水口ノ閉塞ハ氣密ナルコト

三 通氣路底部排水コックハ閉塞シアルコト

四 氷槽ノ氷入口蓋裏ノ小蓋ヲ開キ換氣ヲ計ルコト但  
シ氣化シタルドライアイス瓦斯ヲ車内ニ導入スル場  
合ハ該小蓋ハ密閉シ車内中央部ノ締切コックヲ開ク  
コト

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

第六節 検査後ノ標記

註一 ドライアイスハ凡ソ四十時間以内ノ輸送ニハ裸ノ儘使用  
スルヲ可トスルモ此ノ程度ヲ超ユル場合ハ古新聞紙ノ類ヲ以  
テ適度ニ包ミ氣化ヲ抑制スルヲ可トス

二 車扉及床面排水口ノ閉塞ハ氣密ナルコト

三 通氣路底部排水コックハ閉塞シアルコト

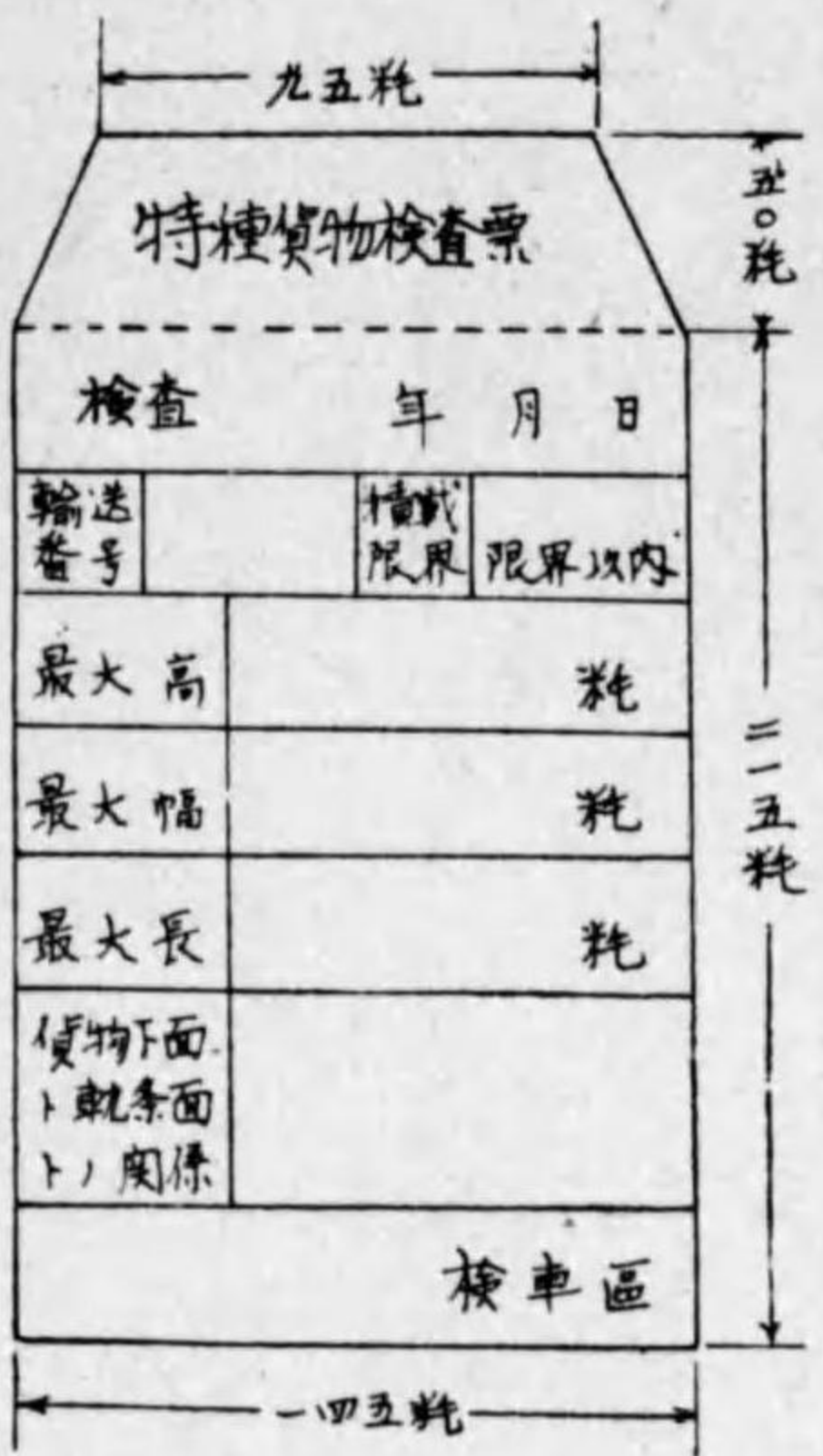
四 氷槽ノ氷入口蓋裏ノ小蓋ヲ開キ換氣ヲ計ルコト但  
シ氣化シタルドライアイス瓦斯ヲ車内ニ導入スル場  
合ハ該小蓋ハ密閉シ車内中央部ノ締切コックヲ開ク  
コト



第三十六條 第三條第一號、第三號及第四號ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ検査ヲ爲シタルトキハ検査區長ハ特種貨物検査票ヲ貨車表示票挿(貨車表示票アルトキハ其ノ内側)ニ挿入スベシ

甲種鐵道車輛ニシテ表示票挿ナキモノニ在リテハ木板ニ所定ノ事項ヲ記載シ之ヲ車體兩側見易キ個所ニ縛付クベシ

特種貨物検査票ノ様式ハ左ノ通トス



備考 特種貨物検査票欄(點線上部)ハ赤地白文字トシ検査月日欄以下ハ白地赤色刷トス

第三十七條 特種貨物検査票ニ記入スル各寸法ハ綱其ノ他荷造材料ヲ含ミタル積載完了後ノモノニシテ左ノ各號ニ依ルベシ但シ定尺軌條ニ在リテハ特別ノ場合ヲ除

- キ最大長ノ欄ニ軌條ノ種類及本數ヲ記入シ其ノ他ノ寸法ハ之ヲ記入セザルモノトス
- 一 最大高ハ軌條面上ノ最高部迄ノ高ヲ記入スルコト
- 二 最大幅ハ車體中心線ヨリ測リ何レカノ側ニ於テ最も大ナル寸法ノ二倍ヲ記入スルコト
- 三 車端ヨリ突出シテ積載スル貨物ニ對シテハ突出シタル部分中手續第七條第一號ノ制限ニ最も近キ部分ノ幅及該部ノ突出寸法ヲ括弧ヲ附シ夫々最大幅及最大長欄ニ併記スルコト但シ突出部ノ幅ガ手續第七條第一號ノ制限ヲ超ユルトキハ鐵道局長ノ指示スル部分ノ寸法ニ依ルコト
- 四 貨物ノ下面ト軌條面トノ間隔ハ側梁上面ヨリ下方ニ突出シテ積載スル場合ニ限り記入スルコト
- 五 輸送番號ハ鐵道局長ノ指定シタル番號ヲ記入スルコト

#### 第四章 事故及應急處置

第三十八條 潤大貨物ニシテ第三十六條ニ定ムル検査票ナキモノ及特種貨物検査票表示寸法ヨリ大ナルモノヲ發見シタル場合ハ検査區長ニ於テ検査ヲ爲シ規則第五十一條補則一又ハ同三ニ依リ其ノ儘運送セシメ差支ナシト認メタルトキハ特種貨物検査票ヲ作成挿入スベシ

検査成績ヲ別表第四號様式ニ依リ一箇月分取纏メ翌月十日迄ニ運輸事務所長經由鐵道局長宛報告スベシ

#### 附 則

昭和十五年一月三十日達第四四號定尺軌條ノ積載検査其ノ他ノ取扱方ハ之ヲ廢止ス

此ノ場合特種貨物検査票ニハ上部赤地部分ニ「事故扱」ト黒書スルモノトス

潤大貨物又ハ甲種鐵道車輛ガ指定寸法ト相違シ前途ノ輸送ニ支障アリト認ムルモノ竝ニ甲種鐵道車輛又ハ手續第六條乃至第八條ニ定ムル制限ノ範圍内ニ於テ積載シ得ザル貨物ニシテ特種貨物検査票ナキモノヲ發見シタルトキハ所管鐵道局長ノ指揮ヲ受クヘシ

前二項ノ場合検査區長ハ其ノ概要ヲ最寄驛長ニ通知スベシ

第三十九條 前條ノ處置ヲ爲シタル場合検査區長ハ第三號様式ニ依ル事故扱貨物検査報告ヲ運輸事務所長經由鐵道局長宛提出スベシ

第四十條 火藥類ヲ積載シタル貨車ガ途中ニ於テ制動機ノ故障、車軸ノ發熱又ハ其ノ他危險ナル状態ニ在ルコトヲ發見シタルトキハ最寄驛長ト打合ノ上火藥類鐵道運送規程第二十四條ニ定ムル處置ヲ爲スベシ

#### 第五章 記錄及報告

第四十一條 第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ニシテ第三章ニ定ムル検査ヲ爲シタル場合ハ其ノ要領ヲ記錄シ置クベシ

第四十二條 検査區長ハ第三條ニ定ムル貨物又ハ車輛ノ

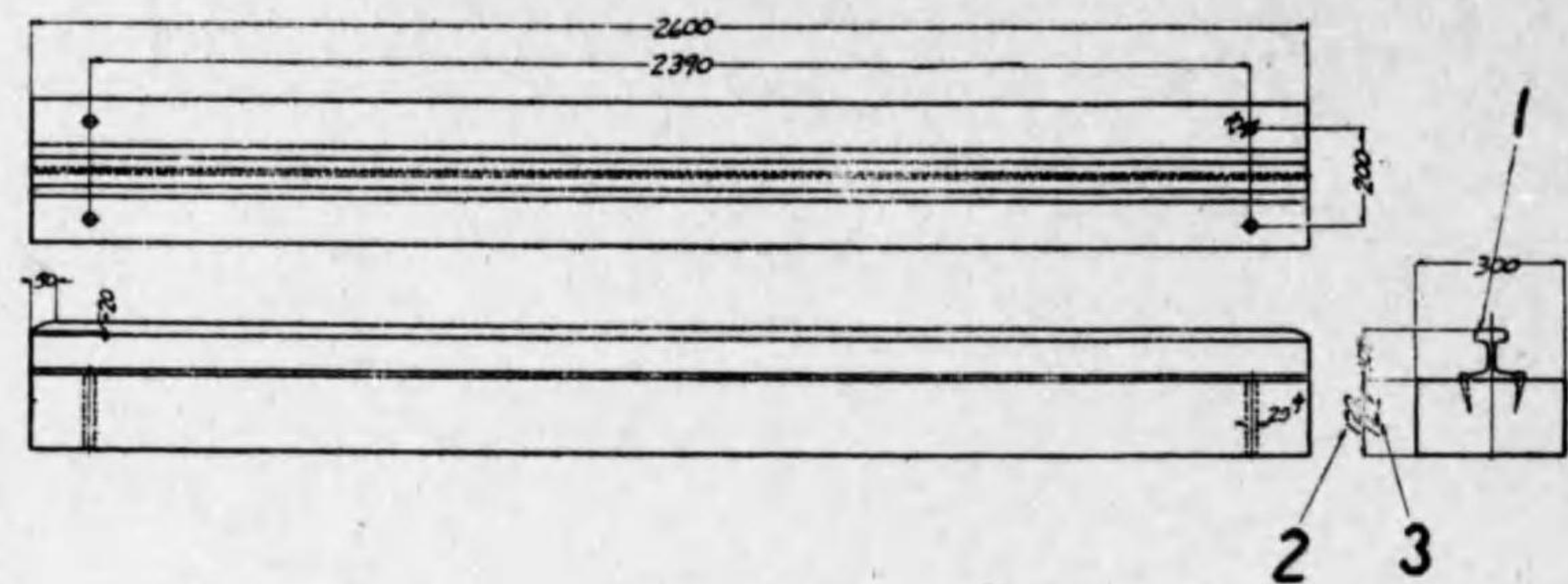












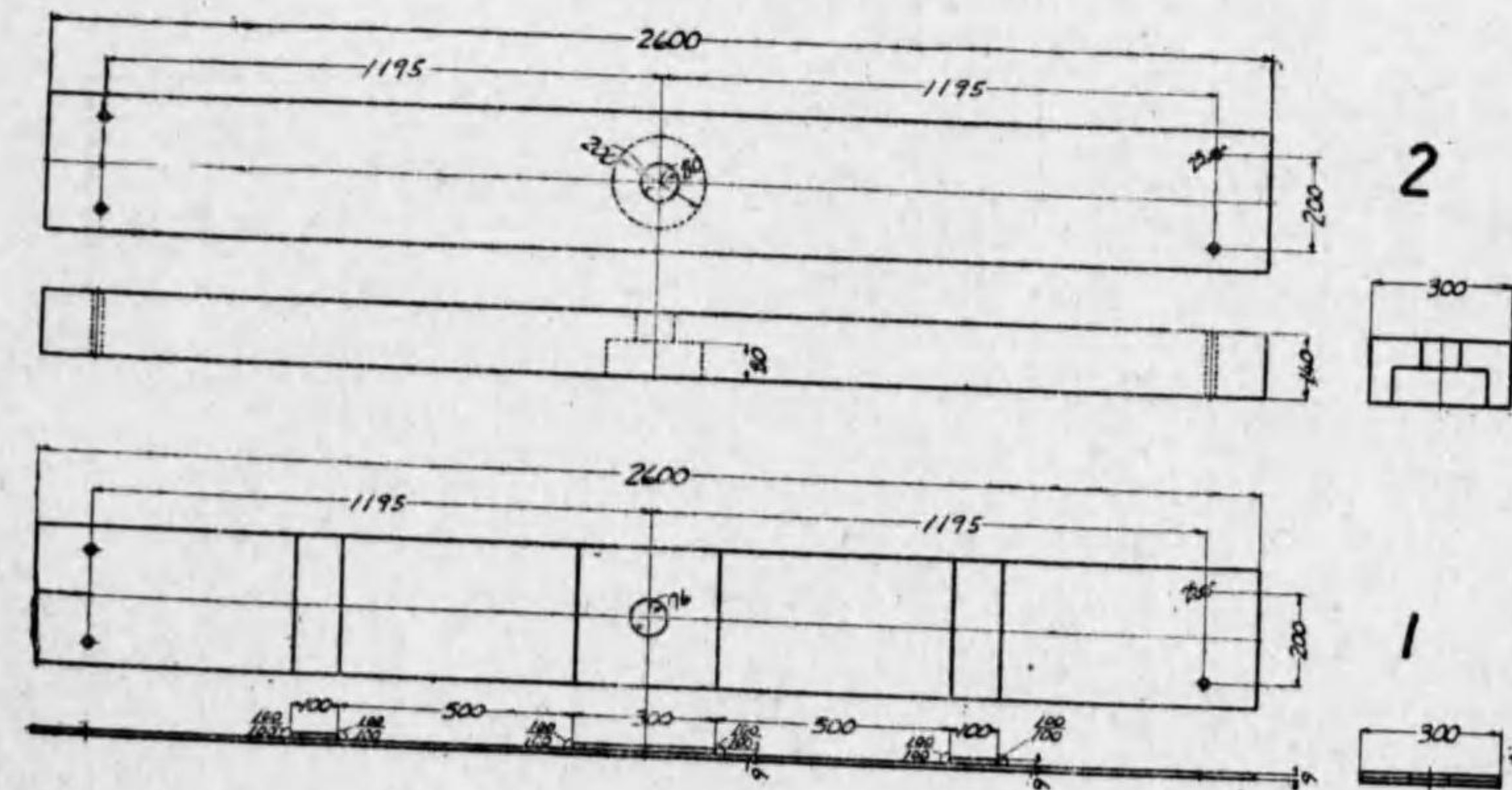
照號	名稱	材料	一組分 所裝數
1	滑台		4
2	全上	松	2
3	全上	松	2
4	軌條台	楠	30

第三圖  
滑台及軌條台



照號	名稱	材料	一組分 所裝數
1	迴轉台	SR39	2
2	全上	松	2

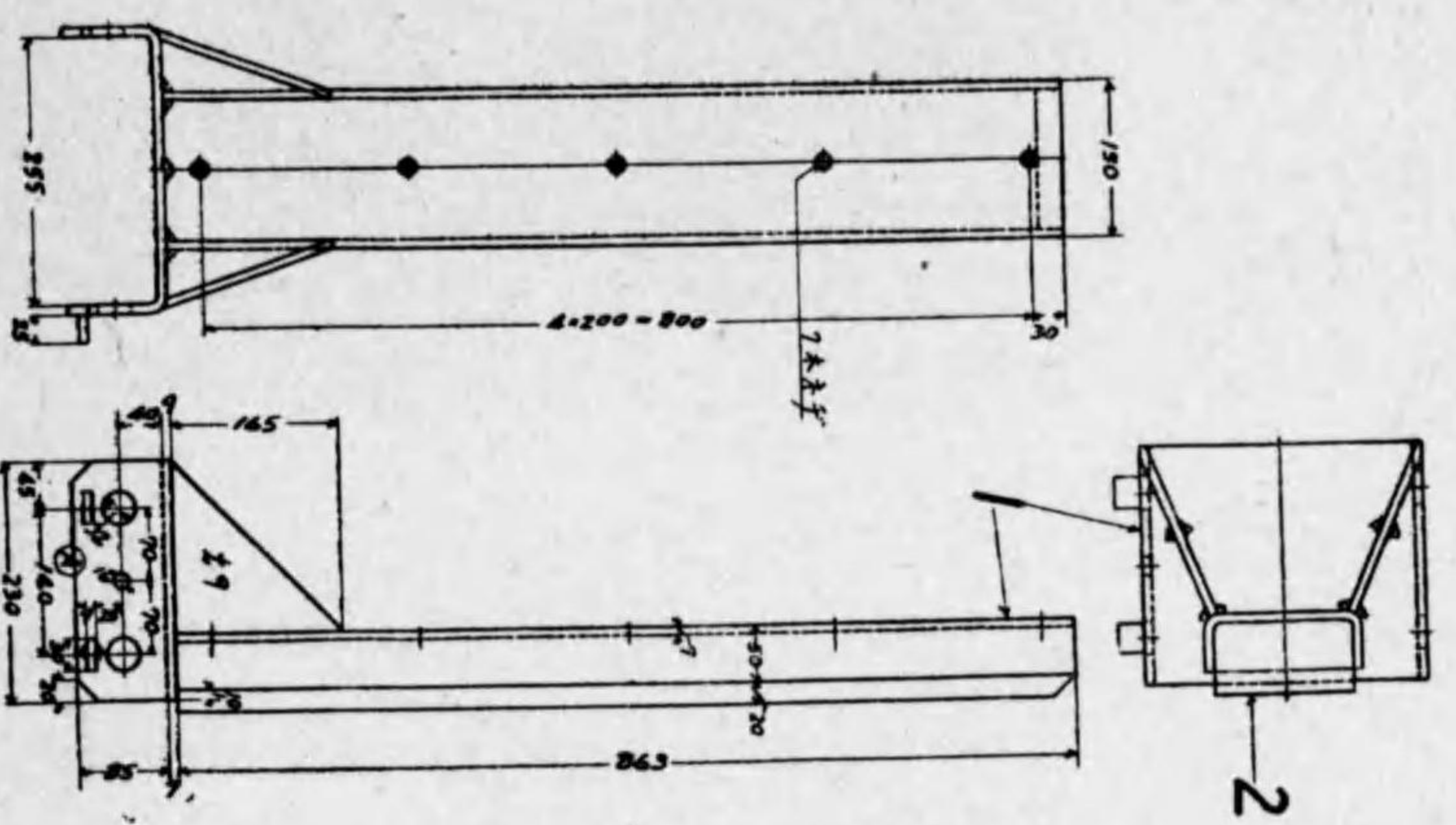
第一圖  
迴轉台



照號	名稱	材料	一組分 所裝數
1	迴轉台受	SR39	2
2	全上	松	2

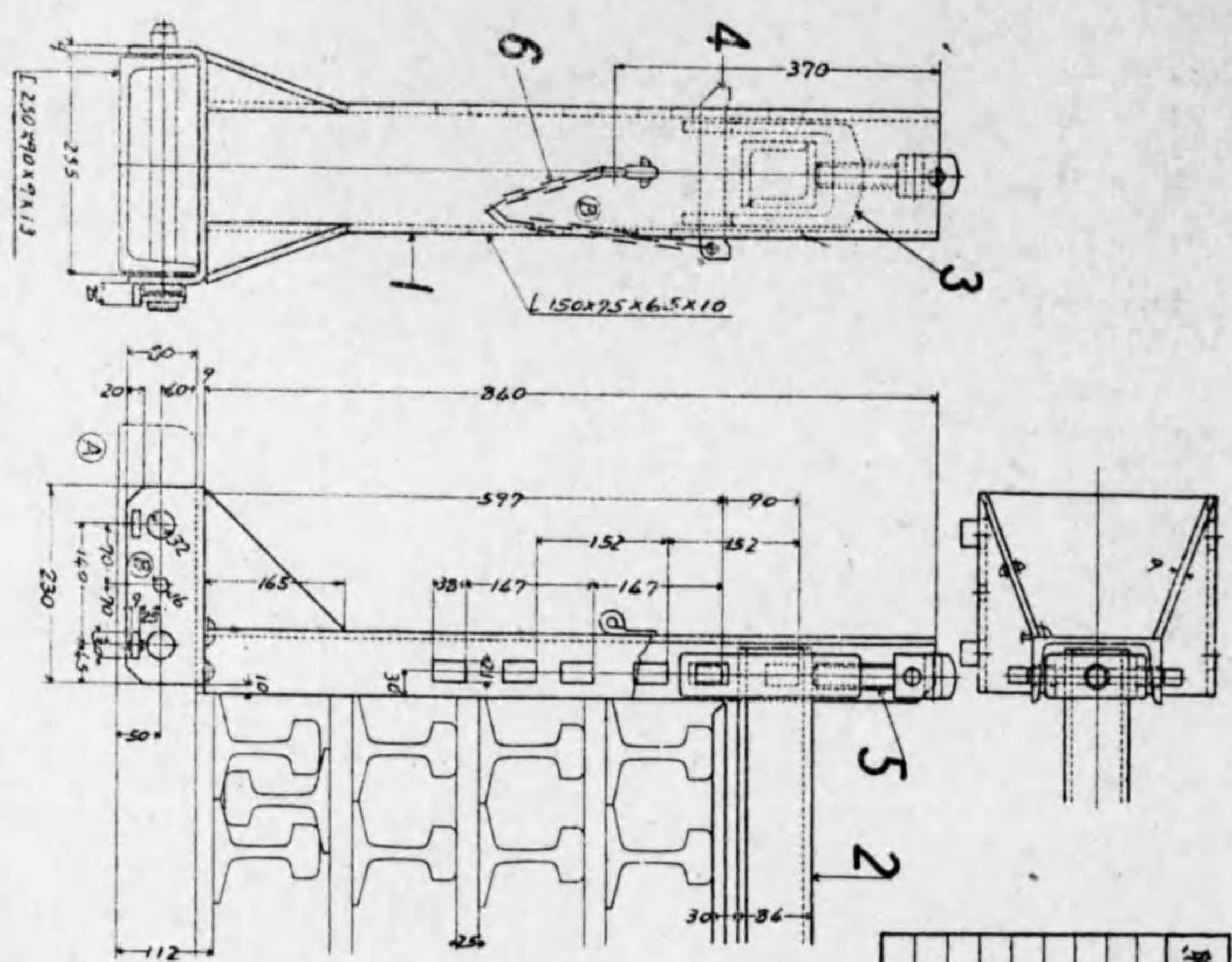
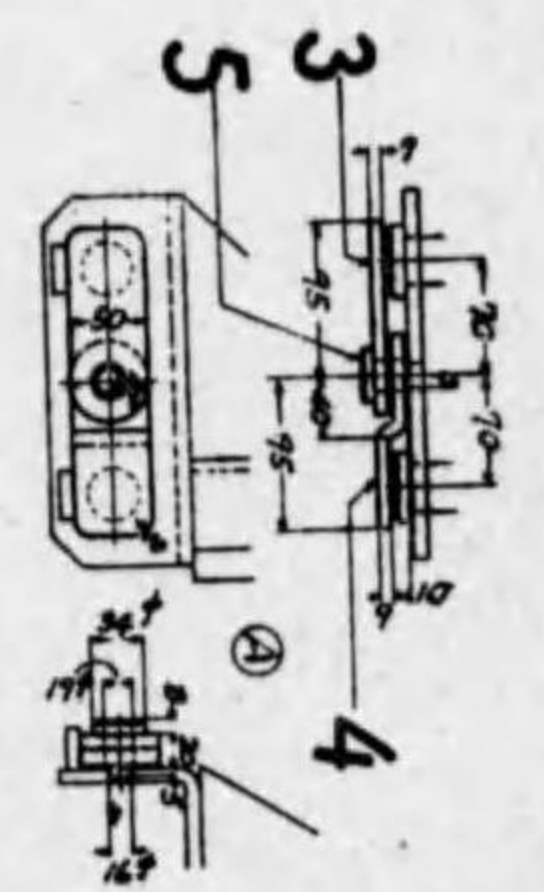
第二圖  
迴轉台受





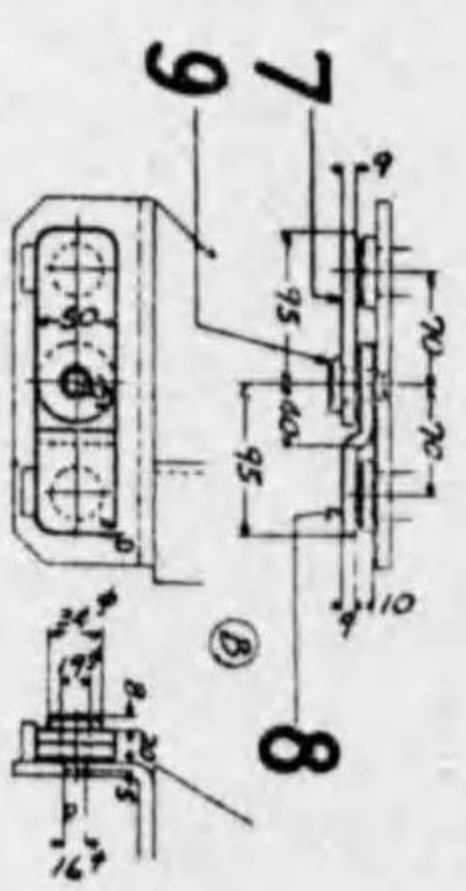
部数	名称	材料	組数
1	柱	SR39	2
2	軸止	SR39	2
3	軸止	SR39	2
4	軸止	SR39	2
5	軸止	SR39	2

第四圖  
柱



部数	名称	材料	組数
1	柱	SR39	1
2	軸止		2
3	軸止		2
4	軸止		2
5	軸止		2
6	軸止	SR39	2
7	軸止	SR39	2
8	軸止	SR39	2
9	軸止	SR39	2

注意  
本圖の370mmは軸止の種類により異なる

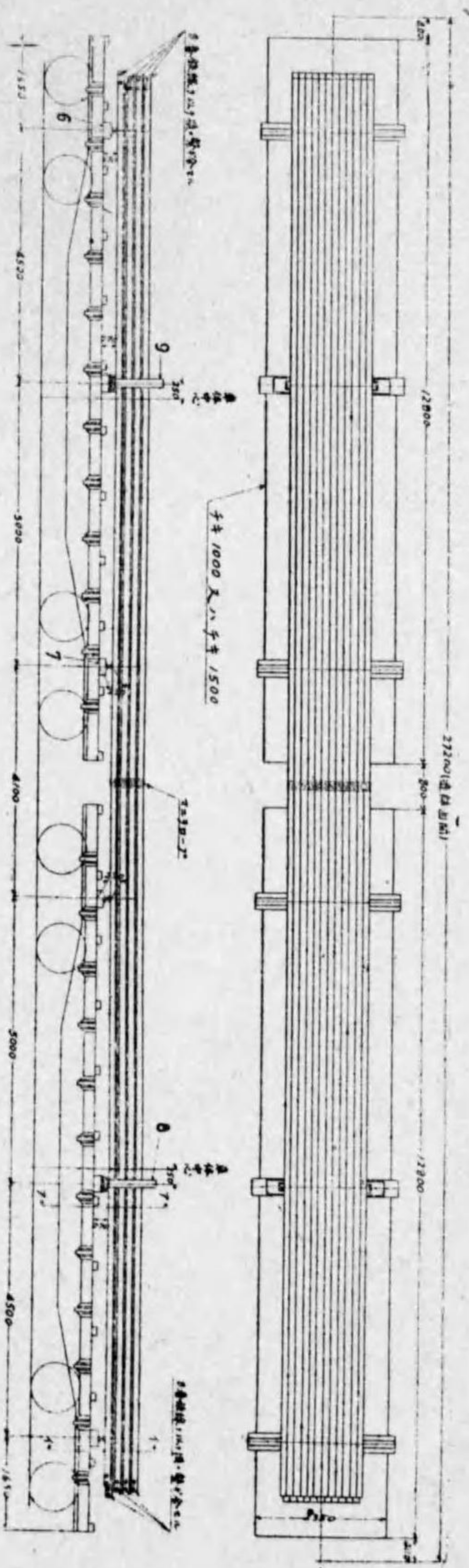


第五圖  
軌條端付装置



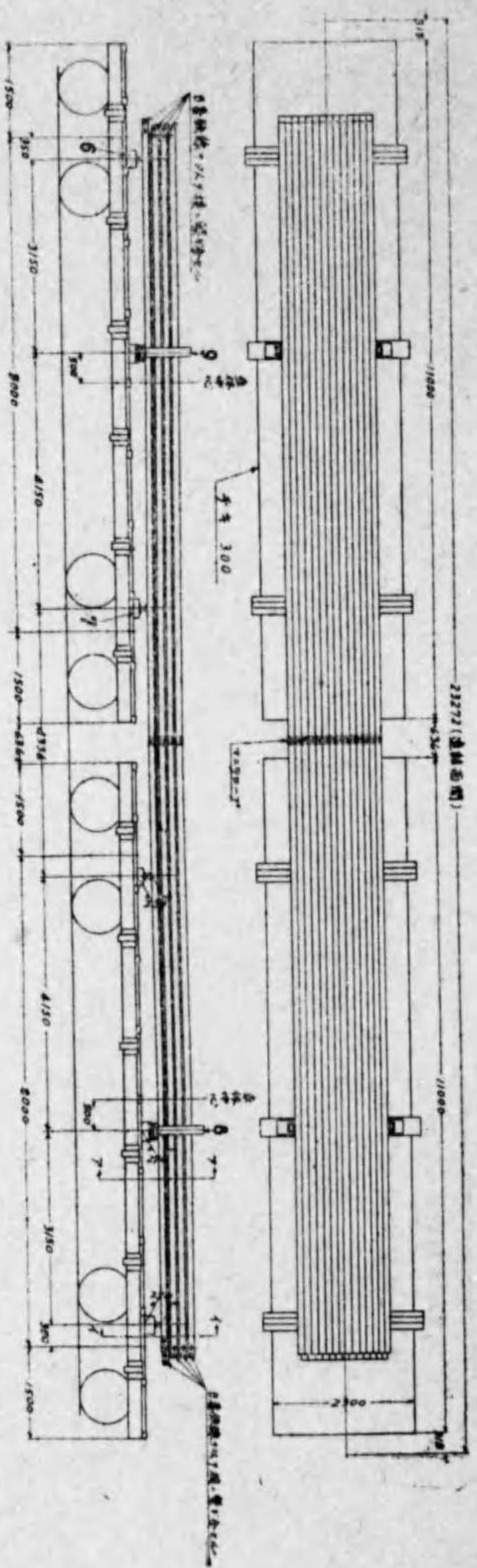
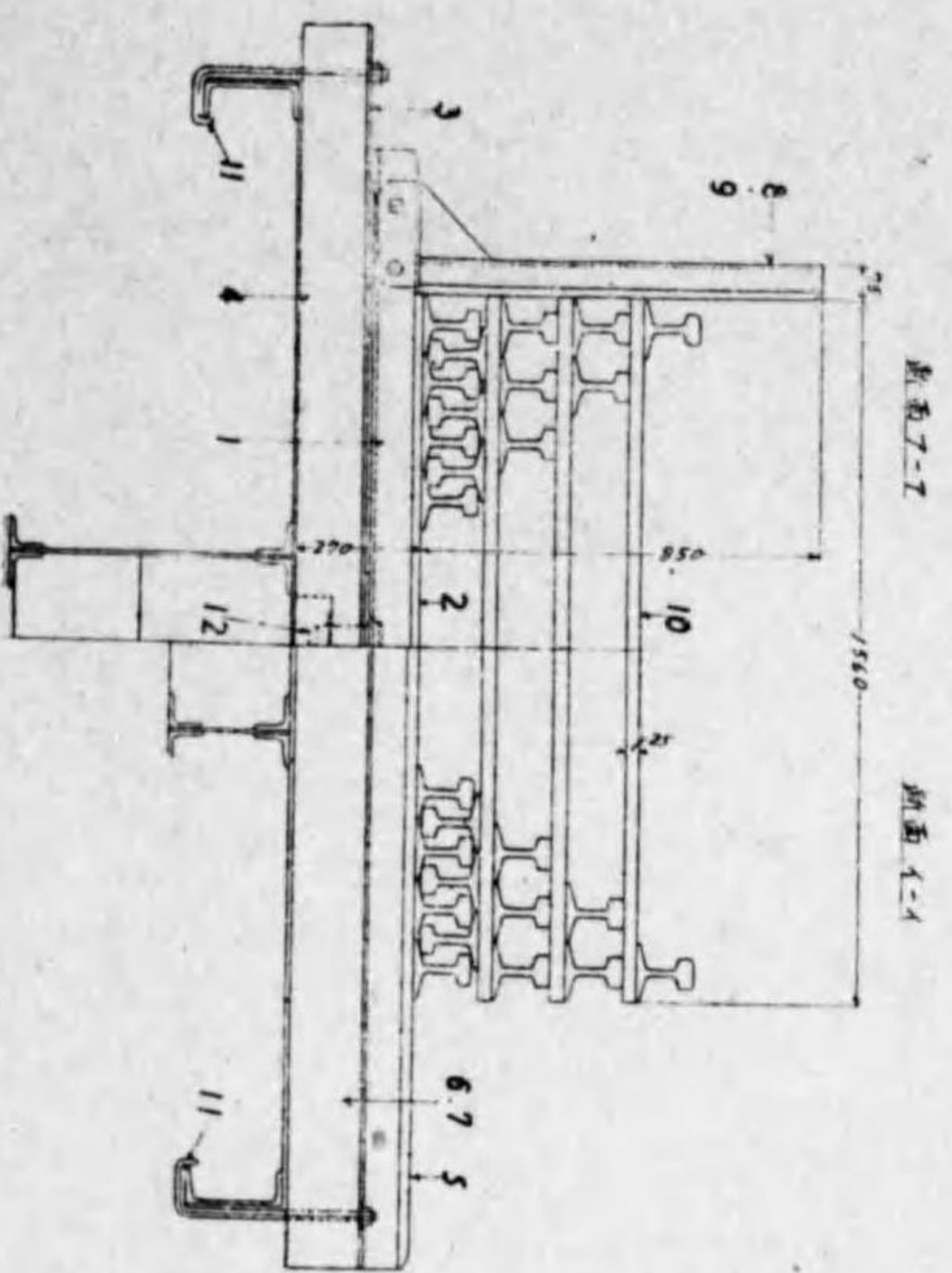






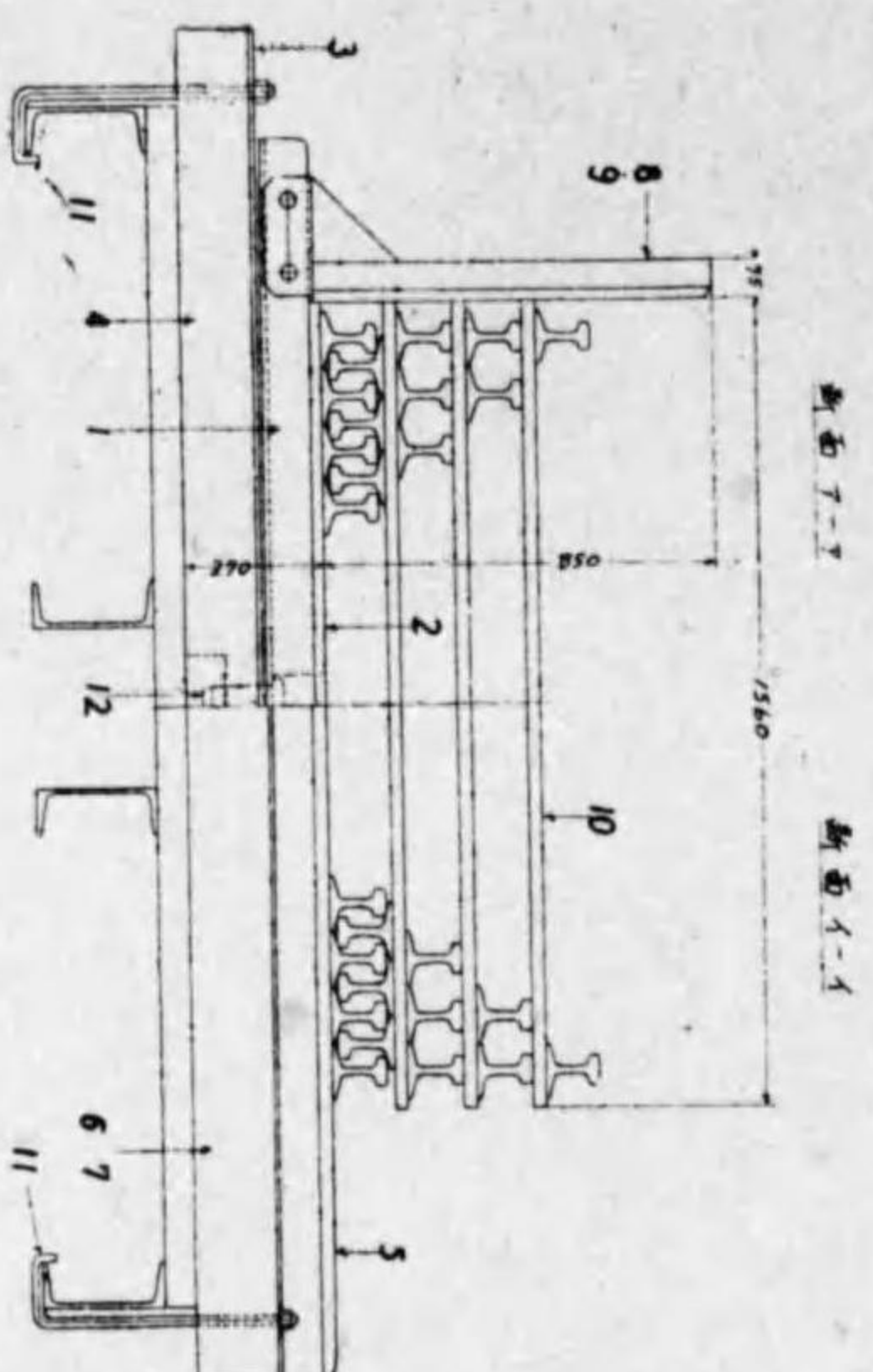
編號	名稱	單位	數量
1	總機架	架	2
2	理上機架	架	2
3	理下機架	架	2
4	理上機架	架	2
5	理下機架	架	2
6	理上機架	架	4
7	理下機架	架	2
8	理上機架	架	2
9	理下機架	架	2
10	理上機架	架	30
11	理下機架	架	24
12	理上機架	架	2

第八圖  
定尺框條掛液精設備  
(25米框條機架機架)



編號	名稱	單位	數量
1	總機架	架	2
2	理上機架	架	2
3	理下機架	架	2
4	理上機架	架	4
5	理下機架	架	2
6	理上機架	架	2
7	理下機架	架	2
8	理上機架	架	2
9	理下機架	架	30
10	理上機架	架	24
11	理下機架	架	2
12	理上機架	架	2

第九圖  
定尺框條掛液精設備  
(20米框條機架機架)





第十圖  
軌條ノ組合セ方基準圖表

軌條種類	使用貨車	最大積載數量		積載組合セ方 (最大數量積載場合)
		本數	軌條/重量比 標記/重量比/割合	
50 25	子午1000號又 子午1500號形式 各二輛一組	48本	60.5 89%	各線/並行 12-上 12 18-上 6 18-下 12 18-下 6
37 25	全上	66本	61.3 90%	全上 12-上 12 18-上 6 18-下 6 18-下 6
30 20	子午1000號 子午1500號又 ハチキ800號形 式各二輛一組	80本	48.0 71% 800號 99%	全上 14-上 14 22-上 14 22-下 14 22-下 14
50 25	子午800號形 式各二輛一組	36本	45.4 94%	全上 12-上 12 12-上 12 12-上 12
37 25	全上	48本	44.6 92%	全上 12-上 12 18-上 6 18-下 6
30 20	子午1號又ハ 子午300號形 式各二輛一組	70本	42.0 87%	全上 14-上 14 21-上 14 21-下 14

備考 一 廻轉台柱間隔ハ1560號ナリ。  
二 上表中標記荷重比數ノ割合ハ積載用具ノ重量約1.5倍ノ含  
ミタルモノナリ。

五五、貨車ノ側板、襍板、轉環枕木及ステーク取外手續

(大正五、六、二八)  
(達第六三五號)

明治四十二年十月達第八六二號貨車ノ側板、襍板、轉環枕木及ステーク取外シニ關スル手續左ノ通改正シ七月一日ヨリ之ヲ施行ス

貨車ノ側板、襍板、轉環枕木及ステーク取外シニ關スル手續

第一條 貨車ヲ三車跨以上ノ長尺貨物積載ノ爲遊車ト爲ストキ又ハ長物車ニ濶大貨物ヲ積載スルトキ驛長ハ運輸事務所長ノ承認ヲ得テ側板、襍板、轉環枕木又ハステークヲ取外シテ之ヲ使用スルコトヲ得但シ長物車ニ在リテハ轉環枕木中心申ノ頭カ固著セルトキ又無蓋車ニ在リテハ側板ノ構造カ煽戸ナラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 本手續ニ依リ取外シタル部分品ハ破損、脱落又ハ紛失セサル様注意シテ之ヲ當該貨車ニ積込ムヘシ但

シ二回以上同一區間ニ引續キ貨車ヲ使用スル必要アル場合ニハ其ノ部分品ハ之ヲ發送驛ニ保管シ最終發送ノ際之ヲ當該貨車ニ積込ムヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ部分品保管中ハ貨車ノ使用期間及其ノ事由ヲ記入シタル青票ヲ車體適當ノ箇所ニ取付クルコトヲ要ス

第三條 本手續ニ依リ取外シタル部分品ハ到着驛ニ於テ積載貨物取卸後直ニ復舊ノ手配ヲ爲スヘシ

第四條 特ニ指定セル場合ヲ除クノ外側板、襍板、轉環枕木又ハステークヲ具備セサル貨車ハ之ヲ修繕車トシテ工場へ廻送ノ手配ヲ爲シ且其ノ旨ヲ當該貨車發送驛所管運輸事務所長ニ報告スヘシ

第五條 前項ノ報告ニ接シタル運輸事務所長ハ紛失シタル部分品ノ搜索ニ努メ一週間以内ニ之ヲ發見シ得サル場合ニハ其ノ旨ヲ該貨車入場ノ工場長ニ通知スヘシ

第十一編 雜

五六、運輸運轉從事員職制及服務規程(拔萃)

(大正二四、四、一〇)  
(達第二四七號)



運輸、運轉従事員職制及服務規程左ノ通定メ五月一日ヨリ之ヲ施行ス

運輸、運轉従事員職制及服務規程

第四章 機關區、電車區、檢車區従業員

第一節 總 則

第一條ノ三 檢車區従事員ノ職名、職務及指揮系統ハ左ノ通トス

職名	職 務	直接指揮者
檢車區長	所屬員ヲ指揮監督シ檢車區ニ屬スル一切ノ業務ヲ處理ス	運輸事務所長又ハ鐵道局出張所長
支區長	檢車區長ノ指揮ニ從ヒ支區ニ屬スル一切ノ業務ヲ處理シ所屬員ヲ指揮監督ス	檢 查 區 長
助 役	檢車區長又ハ支區長ヲ補佐シ又ハ之ヲ代理ス	檢車區長又ハ支區長
事務掛	金錢及物品ノ受拂、保管、出納表ノ整理、諸給與ノ仕出其ノ他ノ庶務ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
	客貨車(電氣裝置部及電車ヲ除ク以下同シ)ノ檢査及修理	

技術掛	=關スル報告、試運轉及各種試驗ノ成績調査其ノ他ノ技術ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
檢車掛	客貨車ノ檢査、注油、修理手當ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
檢車手	檢車掛ノ職務ヲ補助シ又ハ之ヲ代行ス	檢 車 掛
車輛手	檢車掛ニ附隨シテ檢車手ノ職務練習ニ従事ス	檢 車 掛
技 工 長	技工ヲ指導シ客貨車ノ修繕作業ニ従事ス特ニ命セラレタルトキハ檢車掛ノ職務ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
技 工	客貨車ノ修繕作業ニ従事ス特ニ命セラレタルトキハ檢車掛又ハ檢車手ノ職務ニ従事ス	技 工 長
技工手傳	技工ノ職務補助ニ従事ス	技 工 長
技工見習	技工ノ職務見習ニ従事ス	技 工 長
倉庫手	物品ノ看守及受渡ニ従事ス	事 務 掛
諸機掛	諸機械ノ操縦、保守及氣罐ノ焚火保守ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
諸機手	諸機掛ノ職務ヲ補助シ又ハ之ヲ代行ス	諸 機 掛

清掃掛手	清掃手ヲ指導シ客車及特ニ指定シタル貨車ノ洗滌掃除ニ従事ス	檢車區長又ハ支區長
清掃手	客車及特ニ指定シタル貨車ノ洗滌、掃除其ノ他ノ雜務ニ従事ス	清掃手世話掛
雜務手	物品ノ運搬、書類ノ送達、室内外ノ掃除、其ノ他ノ雜務ニ従事ス	事務掛又ハ技術掛

第二條 機關區、電車區、檢車區従事員ハ職務上旅客、荷主及公衆ニ應待スルモノニ非サルモ自己ノ職務ハ鐵道輸送ニ大ナル關係アルコトヲ考ヘ誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘシ

第三條 機關區、電車區、檢車區従事員ハ監督者ヲ離レテ職務ヲ行フ場合多キヲ以テ常ニ諸規程ノ精神ヲ會得シ事ニ當リテ臨機ノ處置ニ惑ハサル様心掛クヘシ

(第四章ノ註一) 以下各條ノ外機關區、電車區、檢車區従事員ノ參照スヘキ主ナル規定ハ左ノ通トス

- イ 一般ニ關スルモノ
- 國有鐵道建設規程(法規工事)
- 國有鐵道運轉規程
- 國有鐵道信號規程(以上法規運轉)
- 運轉ニ關スルモノ
- 運轉取扱心得(法規運轉第一章)

信號及標識設備心得(法規工事)  
御召列車ノ警護ニ關スル件  
車輛換算法(以上法規運轉)  
空氣制動機取扱心得  
雙閉塞器取扱心得、通票閉塞器取扱心得及通票閉塞式ニ關スル取扱心得(法規運轉)  
トロリー使用心得(法規工事)  
ハ 車輛ニ關スルモノ  
客貨車、電車及汽動車ノ修繕廻送並入出場手續  
機關車檢査規程  
客貨車檢査規程  
客貨車檢査取扱心得  
電車檢査規程  
氣動車檢査規程  
客貨車掃除心得  
私有貨車取扱手續  
空氣ブレーキ檢査心得(以上法規運轉第三章)  
車輛稱號規程(法規工作第一章)  
機關車入出場及廻送手續(法規運轉第三章)  
車輛修繕種別(法規工作第一章)  
機關車ノ臺帳報告書類記入法(法規工作第二章)  
客貨車寸法重量積載量其ノ他算定法  
機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕工事ノ範圍



客貨車用輪軸使用手續（以上法規工作第一章）  
客貨車用擔バネ基本負擔力其ノ他ノ件

ニ 機械ニ關スルモノ  
機械管理手續（以上法規工作第五章）  
機械履歷簿取扱手續（以上法規工作第五章）  
ホ 其ノ他

蒸氣暖房器使用手續

鐵道運轉事故報告規程（以上法規運轉第二章）

暴風警戒心得

鐵道氣象警戒心得（以上法規運轉第四章）

貨物運送規則

貨物運送規則補則

貨物輸送手續（以上法規營業）

### 第二節 機關區長、電車區長、檢車區長

第四條 區長ハ常ニ運輸ノ模様ニ注意シ關係箇所長ト連絡ヲ保チ相協調シテ作業能率ノ増進ヲ期スヘシ

第五條 區長ハ所定ノ機關車運行表又ハ電車運行表ニ依リ機關車（特種機關車、氣動車及特殊車輛ヲ含ム以下同シ）、電氣機關車又ハ電車ノ運用及乗務員ノ勤務ヲ適當ニ指定スヘシ

（註）一 機關車運行表ニハ電氣機關車又ハ氣動車運行表ヲ含

第六條 區長ハ別ニ定ムル所ニ依リ車輛並擔當機械設備ノ檢査ヲ行フヘシ

（註）一 國有鐵道運轉規程第三章（法規運轉第一章）參照

空氣制動機取扱心得（法規運轉第二章）參照

機關車檢査規程

客貨車檢査規程

客貨車檢査取扱心得

電車檢査規程

氣動車檢査規程

私有貨車取扱手續

空氣ブレーキ檢査心得（以上法規運轉第三章）參照

機械管理手續

機械履歷簿取扱手續（以上法規工作第五章）

第七條 區長ハ常ニ車輛ノ狀態ニ注意シ不良ノ箇所アルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ修繕又ハ修理ノ手續ヲ爲スヘシ省外ノ車輛ニ付テモ亦同様トス

（註）一 國有鐵道運轉規程第三章（法規運轉第一章）參照

空氣制動機取扱心得（法規運轉第二章）參照

空氣ブレーキ檢査心得

機關車入出場及廻送手續（法規運轉第三章）參照

機關區、檢車區及電車區ニ於テ施行スベキ客貨車修繕工事ノ範圍（法規工作第一章）參照

第十三條 助役ノ服務ニ付テハ區長ノ服務ニ關スル規程ニ依ル

### 第四節 事務掛

第十四條 事務掛ハ出務表ノ處理ヲ爲ストキハ嚴格ニ取扱ヒ人ニ依リ差別スルカ如キコトアルヘカラス

第十五條 事務掛ハ俸給、給料、諸給與等ノ仕出ヲ爲ストキハ出務表其ノ他ノ書類ト照合シテ間違ナキ様ニ注意スヘシ

第十六條 事務掛ハ現金ヲ取扱フトキハ其ノ受渡及保管ヲ嚴重ニシ盜難、紛失、錯誤等ナキ様ニ注意スヘシ

第十七條 事務掛ハ從事員ノ名簿、履歷書及保證書等ヲ常ニ完全ニ爲シ置クヘシ

第十八條 事務掛ハ毎日物品受拂簿ノ整理ヲ爲シ且時々帳簿ト現品トヲ照合シテ過不足ナキコトヲ確ムヘシ

### 第五節 技術掛

第十九條 技術掛ハ技術ニ關スル報告書ヲ作成スルトキハ必要ニ應シ實地ニ就キテ調査シ又ハ圖面ヲ添付スル等努メテ精確ヲ期スヘシ

第二十條 技術掛ハ各種ノ試験ヲ爲ストキハ其ノ成績カ將來ノ計畫ニ重要ナル參考トナルコトヲ考ヘ出來得ル

第八條 區長ハ別ニ定ムル所ニ依リ車輛ノ洗滌及掃除ヲ爲スヘシ

（註）一 客貨車掃除心得（法規運轉第三章）參照

第九條 區長ハ時々列車ニ乗込ミ從事員ノ執務振ヲ監視シ且車輛ノ狀態ヲ監査スヘシ

第十條 區長ハ所屬員ヲ督勵シテ燃料、電力、油脂其ノ他ノ消耗品ノ節約ニ關スル研究ニ努ムヘシ

第十一條 區長ハ他區所屬ノ車輛及從事員ト雖自己ノ擔當區域内ニ在ル者ニ對シテハ之ヲ監視シ尙必要ニ應シ從事員ニ對シ相當便宜ヲ與ヘ指示ヲ爲スヘシ

（註）一 第二三條、第六八條、第一一〇條參照

第十二條 區長ハ他區所屬ノ車輛ノ狀態又ハ從事員ノ執務ニ付必要ヲ認メタルトキハ其ノ所屬機關區、電車區又ハ檢車區長ニ之ヲ通知スヘシ

### 第二節ノ二 支區長

第十二條ノ二 支區長ノ服務ニ付テハ區長ノ服務ニ關スル規程ニ依ル

### 第三節 助役



限リ正確ニ之ヲ行フヘシ

第十八節 檢 車 掛

第四百四十四條 檢車掛ハ客貨車ヲ檢査又ハ修理スルトキハ別ニ定ムル所ニ依ル

(註) 一 國有鐵道運轉規程第三章(法規運轉第一章) 參照

空氣制動機取扱心得(法規運轉第二章) 參照

客貨車檢査規程

客貨車檢査取扱心得

電車檢査規程

私有貨車取扱手續

空氣ブレーキ檢査心得(以上法規運轉第三章) 參照

機關區、檢車區、電車區ニ於テ施行スヘキ客貨車修繕

工事ノ範圍(法規工作第一章) 參照

貨物運送規則

貨物運送規則補則

貨物輸送手續(以上法規營業) 參照

第四百四十五條 檢車掛ハ特ニ命セラレタルトキハ列車ニ乘込ミ客貨車ノ狀態ヲ檢査スヘシ

第四百四十六條 檢車掛ハ列車中ノ客貨車ニ不良ノ箇所アルコトヲ發見シ其ノ停車時間内ニ修理ヲ終ル見込ナシト認メタルトキハ之ヲ驛長又ハ運轉掛ニ通知シテ適當ノ措置ヲナシ且區長又ハ支區長ニ報告スヘシ

第四百四十七條 檢車掛ハ列車出發ノ際客貨車ニ故障アルコトヲ發見シ其ノ儘進行ヲ繼續セシムルヲ危險ナリト認メタルトキハ停止ノ手配ヲ爲スヘシ

第四百四十八條 檢車掛ハ檢査又ハ修理ノタメ客貨車ヲ他ノ機關區、電車區、檢車區又ハ工場ニ廻送シ又ハ運轉ヲ禁止スヘキモノノ取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

(註) 一 客貨車、電車及汽動車ノ修繕車廻送並入出場手續(法規運轉第三章) 參照

内地連絡運輸取扱細則(法規運轉運輸) 參照

私有貨車取扱手續(法規運轉第三章) 參照

第四百四十九條 檢車掛ハ客貨車ヲ檢査又ハ修理スルトキハ他ノ車輛ヨリ衝觸ヲ受ケ又ハ自動スルトキコトナキ様ニ手配スヘシ

第二十節 檢 車 手

第四百五十二條 檢車手ノ服務ニ付テハ檢車掛ノ服務ニ關スル規定ニ依ル

第二十一節 車 輛 手

第四百五十三條 車輛手ハ檢車掛ノ指導ニ依リ檢車手ノ作業ヲ練習シ其ノ熟達ニ努ムヘシ

第二十二節 技 工 長

第四百五十四條 技工長ハ常ニ機械器具類ノ保存、物品ノ整理、職場内ノ整頓ニ努ムヘシ

第四百五十五條 技工長ハ技工ノ技能、仕事ノ種類、大小緩急ヲ見計ヒ適當ニ仕事ノ分擔ヲ定ムヘシ

第四百五十六條 技工長ハ仕事ノ段取ヲ定メ技工ヲ指導シ作業能率ノ増進ヲ圖ルヘシ

第四百五十七條 技工長ハ修理用物品ヲ適當ニ準備シ作業ノ進行ニ差支ナキ様ニ努ムヘシ

第四百五十八條 技工長ハ車輛ノ一部ヲ修理スル爲其部分ニ關係アル他ノ部分ヲ取外シタルトキハ併セテ之ヲモ檢査スヘシ

第四百五十九條 技工長ハ車輛ノ修理ヲ終リタルトキハ區長又ハ支區長ニ報告シ檢査ヲ受クヘシ

第四百六十條 技工長ハ特ニ命セラレタルトキハ運轉中ノ車輛ニ乘込ミ其ノ狀態ヲ檢査スヘシ

第四百六十一條 技工長ハ技工、技工手傳及技工見習ヲ指導シテ其ノ技倆ノ熟達ヲ圖ルヘシ

第二十三節 技 工

第四百六十二條 技工ハ常ニ機械、器具類ヲ丁寧ニ取扱ヒ其ノ手入、保存ニ注意シ且職場ヲ整頓スベシ

第四百六十三條 技工ハ車輛ヲ修理スルトキハ粗雜ニ流レ

サル様ニ注意シ重要ナル部分ニ付テハ特ニ入念施工スヘシ

第四百六十四條 技工ハ車輛ヲ修理スルトキハ他ノ車輛ヨリ接觸ヲ受ケ又ハ自動スルトキコトナキ様ニ手配スヘシ

第四百六十五條 技工ハ車輛修理用物品又ハ修理ノ爲車輛ヨリ取外シタル物品ヲ整理シ一定ノ場所ニ置クヘシ

第四百六十六條 技工ハ特ニ命セラレタルトキハ運轉中ノ車輛ニ乘込ミ其狀態ヲ檢査スヘシ

第二十三節ノ二 技 工 手 傳

第四百六十六條ノ二 技工手傳ノ服務ニ付テハ技工ノ服務ニ關スル規定ニ依ル

第二十三節ノ三 技 工 見 習

第四百六十六條ノ三 技工見習ハ技工ノ作業ヲ練習シ其ノ熟達ニ努ムヘシ

第二十四節 倉 庫 手

第四百六十七條 倉庫手ハ常ニ諸物品ヲ整頓シ且倉庫内ヲ清掃スヘシ

第四百六十八條 倉庫手ハ物品ヲ受入レスルトキハ其品質、數量、寸法等ヲ檢査シ受入月日、數量ヲ現品票ニ記入スヘシ



第六十九條 倉庫手ハ區長ノ認印アル物品請求券ニ依ルニ非サレハ物品ノ拂出ヲ爲スヘカラス

第七十條 倉庫手ハ物品ヲ拂出シタルトキハ拂出月日、數量ヲ現品票ニ記入シ且時々現品票ノ殘高ト現品トヲ照合シテ過不足ナキコトヲ確ムヘシ

第七十一條 倉庫手ハ毎日業務ノ終リニ當日拂出シタル物品ノ物品請求券ヲ整理シテ區長ニ差出スヘシ

七十二條 倉庫手ハ倉庫内ニ於テハ特ニ火ノ用心スヘシ

第七十三條 倉庫手ハ常ニ度量衡ヲ掃除シ且其ノ正確ヲ期スヘシ

第二十六節 諸 機 掛

第七十八條 諸機掛ハ自己受持ノ原動機、唧筒、操重機其ノ他諸機械及其ノ附屬器具ヲ掃除シ時々検査ノ上要素ニ注油シ常ニ其ノ作用ヲ完全ナラシムル様ニ努メ若シ不良又ハ毀損ノ箇所アルコトヲ發見シタルトキハ區長又ハ支區長ニ報告スヘシ

第七十九條 諸機掛ハ機械室及其ノ附近ヲ掃除シ、機械、器具ヲ整頓スヘシ

第八十條 諸機掛ハ給水用唧筒ヲ取扱フトキハ水槽ノ水準ニ注意シ常ニ適當ノ水量ヲ保持スル様ニ努ムヘシ

第八十條ノ二 諸機掛ハ汽罐ヲ取扱フトキハ左ノコトヲ遵守スヘシ

- 一 罐水位ヲ適度ニ保持スル様ニ注意シ水面測定裝置ハ一日ニ一回以上其ノ機能ヲ検査スルコト
- 二 給水裝置及安全弁ノ機能ノ保持ニ常ニ注意スルコト
- 三 罐水ノ汚濁ニ注意シ適宜排水ヲ行フコト
- 四 不良ノ箇所ヲ發見シタルトキハ區長又ハ支區長ニ報告スルコト

第二十七節 諸 機 手

第八十一條 諸機手ノ服務ニ付テハ諸機掛ノ服務ニ關スル規定ニ依ル

第三十二節 清掃手世話掛

第九十二條 清掃手世話掛ハ清掃手ヲ督勵シテ洗滌場、受持機械、器具ノ整備、掃除ニ努メ若シ毀損又ハ不良ノ箇所アルコトヲ發見シタルトキハ區長又ハ支區長ニ報告スヘシ

第九十三條 清掃手世話掛ハ清掃手ヲ督勵シテ別ニ定メル順序及方法ニ依リ客貨車ノ洗滌、掃除ニ努ムヘシ

第九十四條 清掃手世話掛ハ客貨車ノ洗滌、掃除ニ際シ客貨車ニ不良ノ箇所アルコトヲ發見シタルトキハ區長又ハ支區長ニ報告スヘシ

長又ハ支區長ニ報告スヘシ

第三十三節 清 掃 手

第九十五條 清掃手ハ第八十九條ニ規程シタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第九十五條ノ二 清掃手ハ車輛ノ洗滌、掃除ニ指定以

外ノ物品ヲ用フヘカラス

第三十四節 雜 務 手

第九十六條 雜務手ハ誠實ニ其ノ職務ヲ行ヒ物品ヲ運搬スルトキハ毀損セサル様ニ注意スヘシ

五七、機關區、電車區、檢車區從事員採用規程 (拔萃) (大正一四、五、達第三六〇號)

第一章 總 則

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ機關區、電車區、檢車區從事員ニ採用スルコトヲ得ス

- 一 破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 二 禁治產者及準禁治產者
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者 (過失犯ニ因リ處罰セラレタル者ニシテ其ノ情狀ニ依リ鐵道局長ニ於テ差支ナシト認メタルモノヲ除ク)
- 四 懲戒ニ依リ免職セラレ爾後二年ヲ經過セサル者

第二條 徵兵ノ爲辭職シ除隊後直ニ再勤セル者ノ辭職前ニ於ケル在職月數ハ本規程中ノ勤續月數ニ之ヲ通算スルコトヲ得

第三條 本規程ニ依リ施行スル採用試驗科目ノ採點ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點以上平均六十點以上ノ得點者ヲ以テ合格者トス

第四條 採用試驗ハ鐵道局長之ヲ施行ス

第二章

第十七節 車 輛 手

第三十二條 車輛手ニ採用スル者ハ年齡十四年以上二十五年以下ノ男子タルコトヲ要ス

前項ノ外車輛手ノ採用ニ付テハ第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

參考

第五條 機關車關係 (特殊機關車、氣動車及特殊車輛ヲ含ム以下同シ)ノ庫内手ハ年齡十四年以上二十五年以下ノ男子



ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ身體検査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用スルモノトス

- 一 高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學歷ヲ有スル者
- 二 第六條ノ採用試験ニ合格シタル者

第六條 前條ノ採用試験ハ左ノ科目ニ付高等小學校卒業程度ヲ以テ之ヲ行フヘシ

- 一 國語
- 二 作文
- 三 算術

### 第十八節 檢 車 手

第三十三條 檢車手ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ採用スルモノトス

- 一 中學校又ハ之ト同等程度ノ學校ヲ卒業シタル者若ハ尋常小學校卒業程度ノ學力ヲ以テ入學セシムル修業年限二年半以上ノ學校機械科ヲ卒業シタル者
- 二 八月以上車輛手トシテ實務ニ從事シ局教習所專修部檢車科ヲ修了シタル者
- 三 一年以上車輛手ノ職ニ在リタル者ニシテ第三十四條ノ試験ニ合格シタル者
- 四 省教習所普通部及局教習所普通部又ハ專門部機械科ヲ卒業シタル者
- 五 一年以上機關區、電車區、檢車區又ハ工場ニ於テ

### 第十九節 檢 車 掛

第三十六條 檢車掛ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ之ヲ採用スルモノトス

- 一 第三十三條第二號、第三號又ハ第五號ニ依リ檢車

客貨車又ハ電車（電氣裝置部ヲ除ク）ノ検査、修理ニ從事シ局教習所專修部檢車科ヲ修了シタル者

- 六 五年以上客貨車又ハ電車（電氣裝置部ヲ除ク）關係ノ技工ノ職ニ在リタル者

第三十四條 前條ノ採用試験ハ左ノ科目及程度ヲ以テ之ヲ行フヘシ

- 一 算術 整数、小數、諸等數、分數、比例、步合算
- 二 技術 客貨車又ハ電車（電氣裝置部ヲ除ク）各部ノ名稱、構造、作用及應急手當ニ關スル事項
- 三 規程 服務規程、客貨車又ハ電車（電氣裝置部ヲ除ク）ニ關スル諸規程及達示類

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ雇員檢車手ニ採用スルコトヲ得

- 一 第三十三條第一號、第二號、第四號又ハ第五號ニ依リ檢車手ヲ命セラレタル者
- 二 第三十三條第三號又ハ第六號ニ依リ檢車手ヲ命セラレ四月以上實務ニ從事シタル者

手ヲ命セラレ十月以上實務ニ從事シタル者

- 二 第三十三條第六號ニ依リ檢車手ヲ命セラレ十月以上實務ニ從事シ第三十四條ノ試験ニ合格シタル者
- 三 第三十三條第一號ニ依リ檢車手ヲ命セラレ六月以上實務ニ從事シ第三十四條第二號及第三號ノ試験ニ合格シタル者

### 五八、車輛貸渡及使用規則（拔萃）

#### 車輛貸渡及使用規則

第一條 省所屬營業關係車輛ヲ鐵道部外ニ貸渡ス場合（以下貸渡使用ト稱ス）及建設、改良工用トシテ鐵道部内ノ使用（以下部内使用ト稱ス）ニ供スル場合ハ本規則ニ依リ鐵道局長ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ別ニ指定スル貨車ニ付テハ運輸局長ト協議スヘシ

（註）一 建設改良工用ト稱スルハ工事々務所、電氣事務所ニ於テ使用スル場合及鐵道局ニ於テ改良工用トシテ使用スル場合ヲ謂フ

（註）二 營業關係車輛ト雖モ第九條ニ其ノ貸渡料ノ規定ナキモノノ貸渡又ハ部内使用ニ付テ經何ヲ要スルモノトス

（註）三 運輸局長ニ協議スベキ貨車ノ種類ハ公報通報ヲ以テ

四 第三十三條第四號ニ依リ檢車手ヲ命セラレ六月以上實務ニ從事シタル者

- 五 二年以上機關區、電車區、檢車區又ハ工場ニ於テ客貨車又ハ電車（電氣裝置部ヲ除ク）ノ検査、修理ニ從事シ第三十四條ノ試験ニ合格シタル者但シ年齢四十五年以下タルコトヲ要ス

（昭和八、五、二九）  
（達第四二五號）

之ヲ指定ス

（參考）運輸局長ニ協議スヘキ貨車ニ付テハ昭和八、五、三一公報通報ニテ左ノ通定メテアル

昭和八年五月二十九日達第四二五號車輛貸渡及使用規則第一條但書ニ依リ運輸局長ニ協議ヲ要スル貨車ノ種類左ノ通トス  
冷藏車、通風車、家畜車、活魚車、家禽車、豚積車、大物車

第二條 車輛ハ運輸上支障ナキ場合ニ限り之ヲ貸渡スコトヲ得部内供用ニ付亦同シ

前項ノ貸渡期間ハ三箇月ヲ限度トス  
貸渡又ハ部内使用ニ供シタル車輛ハ其ノ期間内ト雖モ鐵道局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ返還セシムルコトヲ要ス

（註）部内使用ニ付テハ期間ニ拘ラス鐵道局長ニ於テ施行スル



コトヲ得ルモノトス

第五條 貸渡車輛ハ省線ト借受地方鐵道、軌道若ハ專用  
鐵道トノ接續停車場又ハ省線ヨリ借受地方鐵道、軌道  
若ハ專用鐵道ニ至ル第三線ト省線トノ接續停車場ニ於  
テ之カ受授ヲ爲スヘシ

地方鐵道、軌道及專用鐵道以外ニ對スル貸渡並ニ部内  
使用ニ供スル車輛ノ受授ハ使用箇所最寄ノ停車場ニ於  
テ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ相互責任者ヲ立會ハシメ車輛及  
附屬器具ノ名稱、員數及狀態等ヲ明瞭ナラシムヘシ

第六條 國有鐵道運轉規程第十八條、第二十一條、第二  
十七條、第二十七條ノ二及第二十七條ノ三ノ検査並ニ  
正當ノ使用ニ因リ施工ヲ要スル車輛ノ一般修繕及局部  
修繕ハ鐵道局長ニ於テ之ヲ爲スヘシ

鐵道局長ニ於テ前項ノ検査又ハ修繕ヲ爲サントスルト  
キハ貸渡又ハ使用期間内ト雖一時之ヲ返還セシムヘシ

(註) 一 一般修繕、局部修繕ニ付テハ昭和八年一月達第三九  
號(車輛修繕種別ノ件)參照

(註) 二 一時返還ノ場合ニ於ケル返還期間ノ貸渡料、使用料  
及廻送料ニ付テハ第十三條第一項及第十五條參照

第七條 國有鐵道運轉規程第二十二條及第二十九條ノ檢  
査並ニ正當ノ使用ニ因リ施行ヲ要スル車輛ノ區ニ於テ

三〇六

爲ス修繕ハ借受人又ハ部内使用者ヲシテ之ヲ爲サシム  
ヘシ

借受人又ハ使用者ニ於テ前項ノ検査及修繕ヲ爲スコト  
能ハサルトキハ借受人又ハ使用者ノ負擔ニ於テ鐵道局  
長之ヲ施行スヘシ

(註) 一 區ニ於ケル修繕トハ車輛ニ對スル一般修繕及局部修  
繕ヲ謂フ

(註) 二 第二項ノ場合ニ於ケル貸渡料、使用料及廻送料ニ付  
テハ第十三條第二項及第十五條參照

第八條 借受人又ハ部内使用ニ於テ車輛ノ検査、修繕、  
洗滌ヲ爲シタルトキハ鐵道局長ノ定ムル様式ニ依リ調  
書ヲ作製シ之ヲ鐵道局長ニ提出セシムヘシ車輛統計ニ  
付同シ

第九條 車輛貸渡料ハ左ノ通トス

- イ 基本料金
  - 一 蒸氣機關車 一疋一日ニ付 七十錢
  - 一時間ニ付 三錢
- 雪搔車附屬蒸氣機關車
  - (消耗品ヲ含マス) 一疋一日ニ付 七十錢
- 二 客車(電車ヲ含マス)
  - 一 二軸又ハ三軸車 一車一日ニ付 七圓
  - 一等車 一、二等車 一車一日ニ付 七圓

左ノ場合ノ貸渡料ハ前項料金ノ十割増トス

- 一 地方鐵道、軌道及專用鐵道ノ建設工事線運用  
(營業線ト建設工事線トニ互ル場合ヲ含ム)トシ  
テ貸渡ス場合
- 二 連帶運輸未開始ノ地方鐵道、軌道及專用線作業  
契約未締結ノ專用鐵道ニ貸渡ス場合
- 三 鐵道部外(連帶運輸ヲ爲ス地方鐵道、軌道及專  
用線作業契約締結ノ專用線ヲ除ク)ニ貸渡ス場合
- 第十條 車輛ノ部内使用ニ對スル料金ハ前條第一項ニ定  
ムル料金ノ五割減トス
- 第十二條 第四條ノ規定ニ依リ乘務員又ハ消耗品ヲ附シ  
タルトキ及電燈母車ノ貸渡又ハ使用期間中職員ヲ派  
シ其ノ電燈ニ關スル検査又ハ修繕ヲ爲サシメタルトキ  
ハ借受人又ハ部内使用者ヨリ其ノ費用ヲ收受スヘシ  
車輛受授ノ際検査ノ爲特ニ職員ヲ派シタル場合亦同シ  
前項ノ場合及第七條第二項ノ規定ニ依リ鐵道局長ニ於  
テ検査ヲ爲シタル場合ニ於テ借受人又ハ部内使用者ヨ  
リ收受スヘキ費用ハ職員ニ對シテハ一定又ハ恒例ノ給  
與及旅費ニ別ニ定ムル割合ニ依ル附帶給與割掛費ヲ、  
消耗品及材料費ニ對シテハ實費ニ一割ヲ加算シタル額  
トス但シ部内使用者ヨリハ附帶給與割掛費並ニ消耗品  
及材料費ニ對スル附加額ヲ收受セス

三〇七

二等車 二、三等車 同 六圓

三等車 荷物車、郵便車及合造車 同 四圓七十錢

ボギー車 同 前三號ノ十割増

三 貨車

標記荷重數十二噸 同 二圓

未滿

同 十五噸以上 同 三圓

同 二十噸未滿 同 四圓

四 雪搔車

回轉雪搔車 一疋一時間ニ付 二十錢

同 一日ニ付 二圓四十錢

ラツセル雪搔車 同 一時間ニ付 六錢

同 一日ニ付 七十二錢

廣巾雪搔車 同 一時間ニ付 六錢

同 一日ニ付 七十二錢

搔寄雪搔車 同 一時間ニ付 六錢

同 一日ニ付 七十二錢

ロ 附加料金

電燈母車ニ對シテハ基本料金ニ左ノ通附加ス

客車(二軸又ハ三軸車) 一車一日ニ付 一圓

ボギー客車 同 一圓五十錢



第七條第二項ノ規定ニ依リ鐵道局長ニ於テ修繕ヲ爲シタル場合ニ於テ借受人又ハ部内使用者ヨリ收受スヘキ費用ハ大正五年五月達第五一一號省外車輛及省外者ノ毀損シタル車輛ノ修繕費整理手續ニ準シ計算シタル額トス但シ部内使用ノ場合俸給々料及物品代ニ對スル附加額ハ之ヲ收受セス

第十八條 借受人ニ於テ省ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ由リ車輛又ハ附屬器具ヲ毀損又ハ亡失セシメタルトキハ省ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ賠償セシムヘシ但シ代品ヲ納入セシメ又ハ修理ヲ爲サシメタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ鐵道局長ハ何時ニテモ將來ニ向テ貸渡契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

- 一 借受人ニ於テ契約違反ノ行爲アリタルトキ
- 二 借受人ニ於テ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ車輛又ハ附屬器具ヲ毀損又ハ亡失セシメタルトキ

客貨車關係法規便覽「終」

客貨車關係法規便覽 奥付

【定價金二圓五十錢】

昭和十七年九月五日 初版印刷  
昭和十七年九月十二日 初版發行

(三、〇〇〇部)

(出文協承認ア 210065 號)

著作權所有  
不許複製

編者	鐵道教育研究會
發行兼印刷者(中愛五三)	山田慶太郎
印刷所	交友社印刷所
	名古屋市東區鍋屋町二丁目
	名古屋市東區飯田町二丁目

發行所

名古屋市東區鍋屋町二丁目

鐵道專門圖書雜誌 出版

株式會社

交

友

社

(日本出版文化協會會員第一〇五二二號)

電話東二八五・七五五五番

振替名古屋一三九六三番



929  
196



終